



平成24年度 学社融合実践集録



平成25年 3月

田辺市教育委員会

はじめに

田辺市では、「学社融合の推進」を、「基礎基本の徹底」とともに、学校教育推進の大きな2本柱に掲げ、田辺市教育行政基本方針の最重点項目として位置づけています。各学校では、地区の公民館と連携を図りながら、地域の教育資源・人材を活用するなど、様々な取組を進めてきております。

今年度11年目を迎えるにあたり、今までの地域連携担当者という名称を、学社融合担当者と変更することとしました。また、各園・学校が公民館と共に取組を推進し日常活動として定着するため、「合同研修会」に教頭を加えることと、「地域ごとの学校と公民館の連絡会議」を組織し、定例化を図ることを新たに組み入れました。

近い将来必ず来ると言われている、東海・東南海・南海地震は、本市にも甚大な被害をもたらすことが想定されています。こうした中、「地域で一人の犠牲者も出さない」という強い意志のもと、公民館主事がコーディネーターとして、地域の各種団体に呼び掛け、全体会議や打ち合わせなど綿密な計画を立てることにより、保育所・幼稚園・小学校・中学校・保護者・地域みんなが一つになった避難訓練を行った地域もあります。訓練の中で、小学生が幼稚園児の手を引き、中学生が保育園児の手を引き共に避難する姿や、杖をついた高齢者に「頑張って」と声掛けする姿が見られるなど、避難訓練を通じて地域とのつながりが、より一層深まっています。この他にも、地域事情に詳しい住民に参加してもらい、地震や津波についての話を聞かせてもらったり、一緒に町探索を行ったりしながら避難マップを作るなど、地域を巻き込んだ防災教育にも取り組んでいます。

このように、田辺市の学社融合は、内容も年々充実し地域の特色を活かした取組として発展しています。このことは、学校側にだけメリットを得るものではなく、授業に参画し協働して取り組んでくださるボランティアの方々に、子どもを共に育てようとする主体意識を喚起させながら、メリットを共有し、連帯の輪を広げ、結果として地域の活性化にも寄与していると考えています。

今後も、全ての園・学校での学社融合の推進を公民館と連携して進め、教育活動の充実と地域の活性化に努めてまいりたいと考えています。

最後になりましたが、お忙しい中ご講評頂きました越田幸洋先生に心よりお礼申し上げますと共に、本冊子(実践集録)が有効に活用され、田辺市の学社融合の実践がさらに前進することを期待しています。

平成25年3月

田辺市教育委員会 教育長 中村久仁生

目 次

[小学校]

田辺第一小学校	1
田辺第二小学校	3
田辺第三小学校	5
芳養小学校	7
大坊小学校	9
新庄小学校	11
新庄第二小学校	13
稲成小学校	15
田辺東部小学校	17
会津小学校	19
上芳養小学校	21
中芳養小学校	23
上秋津小学校	25
秋津川小学校	27
三栖小学校	29
長野小学校	31
伏菟野小学校	33
咲楽小学校	35
中山路小学校	37
上山路小学校	39
龍神小学校	41
栗栖川小学校	43
二川小学校	45
近野小学校	47
鮎川小学校	49
三川小学校	51
富里小学校	53
本宮小学校	55
三里小学校	57

[中学校]

東陽中学校	59
明洋中学校	61
高雄中学校	63
新庄中学校	65
上芳養中学校	67
中芳養中学校	69
上秋津中学校	71
秋津川中学校	73
衣笠中学校	75
長野中学校	77
龍神中学校	79
中辺路中学校	81
近野中学校	83
大塔中学校	85
本宮中学校	87

[幼稚園]

新庄幼稚園	89
三栖幼稚園	91
上秋津幼稚園	93
中芳養幼稚園	95

[講評]	97
(学社融合研究所 越田 幸洋 先生)	

平成24年度
学社融合
実践集録

学社融合活動実施報告

学校名 園名		田辺第一小学校	公民館名	中部公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校の校区は、城下町の名残が豊かで、その地名や産業などがそれを示している歴史と伝統にあふれる地域である。田辺市の中心として商店街が栄え、現在も商店の再生・活性化をはかる人々が様々な取り組みを進めている。また、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、大変熱心に学校教育活動を支援してくれる人材に恵まれている。これらの地域の人材や資源を生かし本校では、従来から、教科・総合的な学習の時間・クラブ活動などに地域の方をゲストティーチャーとして招いた活動を取り入れている。さらに、平成21年度から3年間、「地域の教育力を生かした学社融合事業の推進」をテーマに教育委員会指定研究に取り組んできた実績を生かすことができる。				
活動名		読み聞かせ・ブックトーク・おはなし会		学年・教科・領域等 全学年・国語
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方とふれあいながら、読書の楽しさを体験することができる。 ・さまざまな作品に触れることにより、豊かな感性や情操を育むことができる。 ・ブックトーク授業を通して、読みたい本の枠を広げることができる。 		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大人が、本を中心とした活動に参加することで、学校・公民館一体型施設を地域の交流拠点とすることができる。 ・本を中心とした活動を進める中で、子どもたちだけでなく、共同学習者として、大人にも学びが生まれる活動とすることができる。 		
支援者及び支援組織 田辺第一小学校の保護者・地域の方 中部公民館読み聞かせサークル「リーブル」				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
日時	活動名・活動内容		ねらい、活動の様子など	
不定期	・保護者ボランティアによる小学校多目的ホールの図書整備		・子どもたちが早く読めるように新刊の整理や、多目的ホールと図書室の整備を行っていただいた。	
	・リーブルによる公民館ロビー図書コーナーの整備・地域への寄贈呼びかけ		・図書整備ボランティア・地域のみなさんのご協力により、約800冊の本が整備され充実したものとなっている。	
全学年 毎月2回 実施	・朝の読み聞かせ活動 (小学校の各学級で、リーブルのメンバーによるボランティアが授業前の朝の時間に定期的に本の読み聞かせを実施。)		・授業に入る前の子どもたちの集中力を高め、その後の授業にスムーズに移行していく効果があった。また、子どもたちが継続的に本と接触する機会が増え、読書習慣の定着にも貢献した。	
11月19日 20日	・ブックトーク授業 (各学級の国語科の授業にて、リーブルの読み聞かせメンバーが様々な工夫を凝らして本の紹介を行った。)		・各学年の国語科授業と関連づけて、それを広げながら子どもたちが本を読みたくなる意識づけ、本を選択する際の手がかりとなった。	
7月20日 1月21日	・夏のおはなし会、冬のおはなし会 (長期休暇中の行事として、公民館・リーブルにて開催。童話や昔話、絵本の読み聞かせ、暗闇の中で絵が浮き上がるブラックライトパネルシアターの上演などを行った。おはなし会終了後、参加者には手作りのしおりをプレゼントした。)		・さまざまな手法によるおはなし会を開催することで、子どもたちがより本を好きになるきっかけづくりとなった。	
  				
多くの参加があった夏のおはなし会		各学級での朝の読み聞かせの様子		国語の授業でのブックトーク

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のサークル活動と国語の授業を融合させたことにより、子どもと大人が共に読書活動を楽しむことができた。 ・授業前の朝の時間に読み聞かせをすることで、子どもたちの集中力を高め、授業への移行がスムーズになった。 ・地域のみなさんへ図書寄贈の呼びかけや、図書コーナーを整備していただけることは、より良い環境で多くの本と出会えることにつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会の児童と共に、利用しやすい図書室の運営を心がけていかなければならない。 ・学級図書の整備も心がけ、適度な入れ替えも検討していきたい。 ・子どもたちが求めている本を見極め連絡するなど、サークルのみなさんとの連絡や打ち合わせを、きめ細やかにしていくことが大切である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々による夏の夜のおはなし会、冬のおはなし会は身近に感じ、ブラックライト蛍光灯の光を当てると暗闇の中で絵が浮き上がるブラックライトパネルシアターの上演は、大変興味深いものになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会の児童と共に、利用しやすい図書室の運営を心がけていかなければならない。 ・学級図書の整備も心がけ、適度な入れ替えも検討していきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・本に自然と親しめる環境づくりによって、ひとりでも多く本を好きになってもらい、子どもたちの「国語力」、「想像力」、「感受性」、「思いやり」、「道徳」や「知識」といったさまざまな人間形成に関わる部分に少しでも役立つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年になるほど、子どもの興味も多様化してくる。本を「読まされている」「負担である」と感じないようにしながら、子どもたちがどんなものに興味があるのか、どんな本を読みたいのかを引き出していけるようにしたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な活動を通じた関わりの中で、読み聞かせボランティアと子どもたちの絆が生まれ、ボランティアメンバーのやりがいや学びへとつながった。 ・たくさんの寄贈やボランティアによる整備など地域の協力で充実された公民館ロビーの図書コーナーによって、子どもも大人も公民館へと入りやすくなるきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初やブックトーク開催直前に、各学年で読み聞かせボランティアと担任との打ち合わせを行っている。より一層学校との意見交換のキャッチボールを進めることができれば、各学級での学習状況や様子に合わせて読み聞かせ・ブックトークの内容を反映することができ、取り組みの質の向上につなげられる可能性がある。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○評価

・もともと本好きの子どもたちが多く、リーブルのみなさんに読み聞かせを行っていただくおかげで、さらに好きになる子どもが増えてきている。読み聞かせてもらった本を早速図書室で借りるなど、今まで読んでいた本以外に様々な領域の本と出会うようになっている。

・パネルシアターなど工夫を凝らしていただくことで、子どもたちはより熱中し、聞く態度が大変良くなっている。また、声色を変えたり、間の取り方を変えたりしながら聞かせていくことは、子どもたちの読み方にもいい影響を与えている。

・地域の方々とのつながりの深いリーブルのみなさんが、先頭に立って本の寄贈のよびかけや、図書コーナーの整備を定期的に行うことで、子どもたちにとって常に読書活動の環境が整っている状態である。

・子どもたちは、読書を通して地域の方と出会い、大事にさせていただいているという実感が持っている。

○次年度に向けての取り組みの方向

・子どもたちの読書活動の充実に向けて、引き続きリーブルのみなさんとのつながりを保っていききたい。リーブルのメンバーの中には、直接の保護者もおられるので、学校と地域(保護者)と公民館が、子どもたちの感動する心と読書力を高めることを目標に、打ち合わせ等可能な限り連絡を取り合い、取り組みを進めていきたい。

・読み聞かせをしていただいたの感想を伝えるなどして交流しながら、子どもたちの求めている本を探る試みもしていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名 園名	田辺市立田辺第二小学校	公民館名	東部・南部公民館
-----------	-------------	------	----------

学社融合における学校・地域の様子

本校は「地域の活動に参加し、ふるさとを愛する子」を教育目標のひとつに掲げ、地域にある2つの公民館と連携を図りながら学社融合の取組を進めているところである。具体的には第2土曜日に実施している「いけばな子ども教室」、公民館で行われる文化展への児童の作品出品、幼保小中及び地域と合同で行われる地震津波避難合同訓練など、数多くの取組が挙げられる。

また、自営業の方や本校の卒業生など、昔から地域で生活している方が多く、学校行事や育友会活動等に対しても大変協力的である。さらに昔からの祭りや記念碑も多くあり、郷土の文化や伝統に触れる機会を持つことができる。

活動名	地域再発見「扇ヶ浜」	学年・教科・領域等	(3年生)図工・特別活動 (4・5・6年生)特別活動
-----	------------	-----------	-------------------------------

目 標	学 校 ・ 園	校区内にある扇ヶ浜では毎年校内持久走大会が行われるなど、子どもたちにとっても身近なものとなっている。そこで、今年度はこの扇ヶ浜を題材に取り上げ、地域だけでなく田辺市にとっても貴重な場所であることを知り、地域の良さを再発見する機会とさせたい。
	公 民 館 (地 域)	大人と子ども双方が地域行事に参加することで、参加者相互の交流を深め、地域社会の一員としての意識を高めることができる。また、地域と学校のつながりを密にしていっきかけとする。

支援者及び支援組織

田辺市観光協会 学校 東部・南部公民館 地域の老人会

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

月 日	学年・活動名	活動のねらい・内容
6月26日	◆5・6年生 「地域ボランティア活動 ～扇ヶ浜清掃」	海開きを間近に控えた扇ヶ浜の清掃活動を町内会や保護者・観光協会の方々と一緒に行い、地域に貢献することの大切さや成就感を味わう。
7月～ 8月11日	◆3年生 「あんどん作り ～扇ヶ浜の夕べ」	市の観光協会の協力のもと、あんどん作りを行う。作ったあんどんを扇ヶ浜に並べることで、その価値を見直す。
6月29日 7月13日	◆6年生「扇ヶ浜海開き」 ◆4年生 「イルカ島見学～in扇ヶ浜」	今年初めて6年生は海開きに、4年生はイルカ島開きに参加することにより、さらに扇ヶ浜を身近に感じ、それを楽しむ。



	成 果	課 題
学 校 園	<p>○地域の方と一緒に清掃活動をする中で、子どもたちは地域の方から聞く昔の思い出話や高齢者の方の知恵に興味を示し、自然とコミュニケーションを図ることができた。また、この活動は地域だけでなく、市の観光事業にも役立っているという実感を持つことができた。</p> <p>○あんどん作りなどを通して市のイベントにも参加し、地域にある扇ヶ浜の価値を改めて考えることができた。</p>	<p>○例えば「もの作り名人」など、地域の人材から様々なことを教わる機会もある。しかし、これらの活動は子どもたちが地域に出かけていく機会の方が多く、地域の方が学校へ来る機会は少ないのが現状である。今後は、その活動と地域の方が学校へ来る機会をさらに多く持てるようにしていきたい。</p> <p>○扇ヶ浜の清掃活動は、市の観光協会の主催で1週間前にも行っていた。今後はその活動とタイアップしながら行うことも検討していく必要がある。</p>
* 子どもにとって	<p>○子どもたちはグループを作って地域の方と行動をした。それにより地域の方との距離も縮まり、道で出会ったときには積極的に挨拶できるようになった。</p> <p>○地域にある扇ヶ浜の大切さに改めて気づき、自分たちの活動が地域の役に立っているという実感を持つことができた。</p>	<p>○子どもたちは意欲的に活動に参加できているが、地域の方と積極的にコミュニケーションを図れる児童とそうでない児童など、個人差が見られる。より多くの接点を持てるようにグループ活動など、活動の内容や方法の工夫を図っていきたい。</p>
* 子どもにとって	<p>○地域住民と交流することで、改めて地域の良さを知ったり、地域に対する関心を高めたりすることができた。同時に、地域の自然を大切にしていこうとする意識を育てるきっかけにもなった。</p>	<p>○地域の良さを知り、それを大切にしていこうとする意識を、さらに子どもたちが住む身近な地区につなげていけるよう、地域の中での交流や活動を広げていきたい。</p> <p>○「いけばな子ども教室」のように、子どもたちの興味関心が高く、年間を通して公民館へ足を運べるような活動を今後も考えていきたい。</p>
地 域 (公民館)	<p>○学校行事に積極的に参加することで、学校の取組を知り、子どもたちにも声をかけやすくなった。また、「田ニツ子を育てる」地区懇談会にも地域住民が参加し、共通の話題で話し合うことができた。</p> <p>○子どもたちが活動している様子に触れることで、今の子どもたちの様子が分かった。また大人も地域を振り返る機会とすることができた。</p>	<p>○子どもたちと一緒に扇ヶ浜の清掃活動は定着してきたが、今後活動の幅を広げるための広報的な活動などの工夫が必要である。</p> <p>○各種活動に対して事前の打ち合わせも含め、今後とも公民館と学校との連携強化を図り、子育て世代の参加も促していきたい。</p>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

【評価】

○地域の伝統文化に目を向け地域の方から学ぶ機会はあるが、身近にありすぎるからか、地域の自然のすばらしさについてはなかなか気付くことができなかった。今回そのひとつに目を向けられた点は評価できる。

○共通の題材であるため、中学年から高学年まで縦のつながりを持てたことがよかった。さらに子どもたちや地域住民が日頃からその場所を利用するため、この活動のあとも常に意識を持って生活することができた。

【次年度に向けて】

○学社融合の視点から見ると、高学年と比べ中学年の活動に弱さがある。次年度からは学校の体育館を使って一緒にあんどん作りをするなど、地域の方が学校へ来る機会をさらに増やしていきたい。

○公民館で行われたバスピン大会に、今年度は子どもたちも参加した。参加した方の中には高齢者の方もおられたが、本当に楽しい時間を過ごすことができ、地域住民と子どもたちとの世代間交流が図られた。次年度はこれらの活動を整理しながら、どの活動を深化発展させていくのか、また系統付けていくのかを課題としたい。



学社融合活動実施報告

学校名 園名	田辺第三小学校	公民館名	西部公民館
-----------	---------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子
 ○本校は、西部公民館、西部センターや天神児童館と共同・連携しながら、各種事業や行事を行っている。地域社会の中で児童をいかに育成していくかは本校にとっての大きな課題であり、学社融合及び本年度で第2年次にあたる西部地域共育コミュニティ本部事業(学校支援地域本部事業)の取り組みをその課題の中心に位置づけている。
 ○本校は、これまで地域とともに同和教育、人権教育に取り組むなかで、西部センターとは「天神町の教育を進める会」で、天神児童館とは「西部子どもエンパワーメント支援事業」などで連携し進めてきた。西部公民館とは、昨年より公民館と学校を結ぶ事業や取り組みについて協議し、一昨年度からは特に西部公民館主催で本校での「西部公民館・明洋中学校作品展コーナー」を実施してきた。2年目をむかえた西部地域共育コミュニティ本部事業は、さらに充実した取り組みが行われている。

活動名	西部地域共育コミュニティ本部事業 「防災学習」への取り組みより	学年・教科・領域等	主に6年生・総合的な学習の時間
-----	------------------------------------	-----------	-----------------

目標	学校・園	○自分の命を守るために、昨年度から引き続いて取り組んできた防災マップの作成や、実際に西部地域を地区ごとに地域の人たちと歩いて確認したり、注意するところを見つけたりする。 ○各地区の防災にくわしい方々の意見を聞いたり、地域の防災活動に参加したりすることで、地域の方々との繋がりを強化し、公民館との連携を強化する。
	公民館(地域)	○防災に関して、大人が子どもたちに助言をしたり、子どもたちからそれぞれの地区や地域についての質問や疑問を尋ねたりする事で、地域の方々とコミュニケーションを交わすことにより、コミュニティのつながりや絆ができ、双方の活動の活性化を図る。

支援者及び支援組織
 西部公民館および西部地域自主防災協議会・各地区の町内会

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

月(月日)	取り組み(活動内容及びめあて)
6月3日	西部地域防災訓練に参加(全校)する。「二次避難」「炊き出し体験」他
11月9日	前田重美さん・森川輝彦さんを講師に招いての防災の授業
11月17日	保護者と避難経路の危険な箇所等を地図上で探す。
11月27日	12グループに分かれてタウンウォッチング。各町内会、地域の人たちの協力。
11月30日	防災マップ作成
1月29日	防災マップ作成について参観日で発表



二次避難 高台へ



炊き出し訓練



担架移送訓練

11月 保護者と避難経路を探る



11月
タウン
ウォッチング



	成 果	課 題
学 校 園	避難場所までの経路の安全性を各町内会の役員さんや各地域のリーダーの方と共に歩いて調べることで、防災学習を自分の問題と捉え、生きた防災学習となってきた。また、防災マップ作成にあたり保護者や地域の方々の意見・助言等を聞かせていただき、子どもたちのコミュニケーション能力を高める学習ともなり、改めて児童や地域の方々双方が、自分たちの地域の防災について見つめ直すよい機会を提供できた。	マップ作りのための校外活動にも時間的に制限があり、また自分たちで行うにも限界がある。幸いにも地域の人たちの協力を得てグループ活動はでき、より詳しい避難経路の安全性を調べることができた。しかし、一人一人のものとしてどれだけ防災能力を高められたかについては、未知数である。自分たちの成果をいろいろな場面で発表する機会をつくってあげることも必要である。
* 子どもにとって	子どもたちは、地域の方々に教えてもらったり、一緒に活動したりすることで、地域の防災活動にも関心を持って取り組めるようになってきている。また、自分たちの活動が地域の方々の役に立っているという実感を得ることが、自信と誇りにつながっている。	この取り組みが、自分たちの命を守るためのものであると実感させるとともに、今後来るべき災害に対しての減災の意識の向上や地域の一員・或いは担い手としての責務を果たせるかが大きな課題である。
* 子どもにとって	・年間通しての防災学習を行うことにより、子どもたちは、自分たちの住んでいる地域の方々とのふれあい、交流を持つことができた。また、防災訓練や防災学習等は、今後来るであろう、東海・東南海・南海地震の発生時に必ず、役立つものと思われる。	・地域の催しは勿論のこと、防災訓練にも積極的に参加し、地域の担い手としてまたは地域の一員であるという自覚をもってもらいたい。
地 域 (公民館)	・子どもたちも自分の住んでいる西部地域の危険箇所や避難場所がどこにあるのか、どのように逃げればよいか。地域の方々にご意見を聞きながらいっしょになって町歩きをし、助言をもとに防災マップ作成に取り組んだ。また、地域と学校が連携を図り、西部地域の地震・津波を想定した防災訓練を実施した。	・沿岸部の多い西部地域は、今後の災害に備え防災意識を高めていかなければならない。しかし、防災訓練の参加者は、30歳から50歳の方々の防災意識が薄いことから、今後は、こういった方々を精力的に巻き込むかたちで、取り組みを進めて行かなければならない。そのためには参加型から参画、実践型の防災訓練へと内容も検討していかなければならない。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

○本年度から新たに「西部地域共育コミュニティ本部」組織の中に、合同事業推進専門委員会を設けた。防災教育については防災教育専門委員会、環境教育については環境教育専門委員会、学力向上については学力向上専門委員会、それぞれが協議を重ね事業展開に結びつけていたが、この専門委員会及び各事業の垣根を越えた有意義な事業連携をということで一つ加わった、合同事業推進専門委員会の意義は大きい。このことによって、今まで以上に横との関係が幅広くなり色々な取り組みを行う上で利便性やつながりができて、行事等円滑に行うことができるようになってきた。一例として「西部地域防災訓練」を行う上で、それらの効果が表れた。それは、各種団体や町内会や公民館など学校を取り巻く地域社会との調整を果たし、また企画面においても、地域の方々といっしょに体験し、行動に移す事ができたのはこの事業のおかげである。子どもたちが、地域社会の中で役に立つ存在であるという自己有用感を感じ取る契機となった。また、地域の方々と共に助の精神で活動できたことから自分たちも地域住民であるという一体感も感じ取ったものと思われる。

○防災訓練については、西部地区13町内会長及び西部地区自主防災連絡協議会の提起により、毎年防災訓練を行うこととなった。本年度は、その第一回で地域全体が参加できやすいように、日曜日に実施し、地域内にある保育所・幼稚園・小学校・中学校など、地域の一員として参加し、期待される役割を果たしていくために、防災・減災学習を深めることができた。

学社融合活動実施報告

学校名 園名	芳養小学校	公民館名	芳養公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>・芳養小学校では、「芳養共育コミュニティ本部」を基盤として「子どもの安全・安心に関すること」「地域の伝統文化の継承」「公民館との連携した取り組み」など、学校・保護者・地域・公民館が一体となった子どもの健全育成を図るとともに、学社融合の取り組みを進めている。地域の教育力を生かしたさまざまな授業にも、地域の方々がSP(スクールパートナー)として参画し、担任とともに授業を作り上げている。また、平成19年から実行委員会を立ち上げスタートした「芳養ふれあい教室」では、芳養地域人材バンク登録者を中心に、多くの地域の方々が主体的に教室運営を行っている。講師も協力者も完全無償のボランティアである。7月14日に田辺市青少年健全育成市民会議より「芳養ふれあい教室」に感謝状が贈呈された。どの教室についても、みんな「生きがい」や「やりがい」を感じながら積極的に取り組みを進めている。</p>			
活動名	芳養ふれあい教室と地域住民と公民館	学年・教科・領域等	全学年の希望者と地域住民
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域の連携と教育力の向上を図るとともに、青少年の健全育成を目指す。 ・児童が保護者や地域の方々と触れ合うことによって、コミュニケーション能力の育成を図る。 ・学校の授業では学ぶことができない伝統文化等に触れる。 ・公民館の事務局と連携を取り、芳養ふれあい教室の充実を図る。 	
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童と地域住民のふれあいを通して、「地域の子どもは地域で育てる」という意識を高める。 ・学社融合を積極的に推進することで、学校外でも交流を図れるようにする。 ・地域住民とふれあうことで、礼儀作法や挨拶を身につける。 ・学校の事務局や講師・協力者と連携を取り、ふれあい教室の充実を図る。 	
<p>支援者及び支援組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芳養ふれあい教室実行委員会(学校・公民館・児童センター・育友会・ボランティア代表) ・芳養ふれあい教室講師(地域・保護者のボランティア) 			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>・学社融合を推進させるために公民館と学校が中心に結成した「芳養ふれあい教室実行委員会」を基盤に学校側が放課後に多目的教室や体育館などを開放し、教室運営をする講師や協力者が茶道や書道など様々な教室を開催している。全員がボランティアとして参加している所が「ふれあい教室」の特徴であり、誇れる部分である。活動費が殆ど必要でないため、取り組みを長期間継続していくことができた。今年で6年目となり、現在は実行委員10名、講師や協力者24名、事務局2名(公民館と学校各1名)の合計36名の体制である。・6年間継続できた理由は、①講師・協力者全員が無償で運営していること②公民館の事務局が地域住民と学校と教育委員会のパイプ役となり、外部コーディネーターの役割を果たしてくれたこと③学校と地域(公民館)が両輪として機能したこと。この3つの要因が大きい。</p> <p>・昨年までは、囲碁教室、茶道教室、生け花教室、書道教室、読み聞かせ教室、フェルト教室、キンボール教室の7教室と梅ジュースづくりの特別教室であった。</p> <p>・本年度から新たに『英語教室』と『中国語教室』を取り入れ、9教室になった。英語は、低学年(1～3年)と高学年(4～6年)の2クラスで、大変好評であった。児童に幼少期から外国語に触れる機会をもたせるために、中国語教室を開講した。和歌山県では、初めての取り組みであり、講師は芳養地域の住民である。</p> <p>・平成24年度の前期(5～10月)の参加延べ人数は、275名。後期(11～3月)の延べ人数は、299名。</p> <p>・毎月、ふれあい教室の様子と予定表を書いた「ふれあいだより」を公民館が作成し、学校が配布している。</p>			
<p>4月 5日 ・平成24年度芳養ふれあい教室、第1回実行委員会・講師合同会議</p> <p>5月 2日 ・前期芳養ふれあい教室開始、各教室がスタート</p> <p>5月 9日 ・初中国語教室の開講、18名の児童が中国語を学ぶ</p> <p>5月17日 ・高学年の英語教室の開講、4～6年生24名の児童が英語を学ぶ</p> <p>5月22日 ・低学年の英語教室の開講、1～3年生29名の児童が英語を学ぶ</p> <p>6月15日 ・芳養共育コミュニティ本部会議、学社融合の取り組みについて報告</p> <p>7月14日 ・田辺市青少年健全育成市民大会、市民会議より「芳養ふれあい教室」に感謝状の贈呈</p> <p>10月17日 ・第2回実行委員会・講師合同会議、募集要項や共通理解について協議</p> <p>11月 2日 ・後期芳養ふれあい教室開始、各教室がスタート</p> <p>11月13日 ・文部科学省より芳養公民館が第65回優良公民館として表彰される</p> <p>11月17日 ・芳養公民館「秋の作品展」、子どもの生け花・書道・フェルトの作品を出品する</p> <p>11月25日 ・生涯学習フェスティバル作品展、学校と公民館の学社融合の取り組みを紹介する</p>			

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から新しい中国語教室と英語教室が開設され、子どもたちは喜び、異文化にふれる機会ができた。 ・実行委員会で企画運営し、講師と協力者によって主体的に教室運営が進められるようになった。 ・保護者や地域の方々が気楽に学校に入りやすくなり、学校と地域の垣根がなくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年ともなると放課後、塾通いが多く、ふれあい教室の時間帯と合わないことがあった。 ・ボランティアを担ってくれる方々が固定化してきており、保護者の参加者が少ない。 ・講師先生の都合や休日と重なり、教室が開けない時があった。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・英語や中国語の学習の中で意欲的に取り組む姿が見られた。 ・授業では習えない、伝統文化やスポーツにふれる機会ができ、楽しく取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月「ふれあいだより」で教室の予定表を配布したり、掲示物で実施日を知らせているが、ふれあい教室のあることを忘れることもあった。 ・貴重な体験ができる喜びや教えてくれる人に対する感謝の気持ちをよりいっそう高めたい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でも気楽に挨拶ができるようになってきており、不審者対策につながっている。 ・将来、地域活動に積極的にボランティアで協力する人になるという素晴らしい目標を持った子どもを育成することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して実施することで、貴重な体験ができているという喜びが薄れつつある。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して、講師・協力者同士の交流も深まりコミュニティづくりの活性化につながっている。 ・芳養ふれあい教室の活動が高く評価され、11月に芳養公民館が、文部科学省より「優良公民館表彰」を受賞した。これをきっかけに、より地域での活動が活発になってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアを担ってくれる方々が固定化してきている。 ・教室終了後の、子どもたちの下校時の安全を確保するためのよりよい方法を考えていく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

★「ふれあい教室」の茶道を学んだ子どもの感想★

・私は、ふれあい教室の「茶道」で5年間おけいこをさせていただきました。
この茶道教室に入った2年生のころは、まだまだ未熟で礼儀や作法が全く分かりませんでした。しかし島田先生をはじめ、多くの先生方のやさしいご指導のもと、たくさんの技能を身につけることができました。今では、祖母に茶道具をそろえてもらい、家族にも私の腕前を披露しています。
また、この「茶道教室」に入ることで、今に残る室町文化を楽しむことができました。
ここで学習したことは、これからの生活に役立てていきたいと思えます。

・子どもたちの感想文から分かるように、茶道や生け花、書道という日本の伝統文化を継続して学ぶことによって、伝統文化の素晴らしさを学ぶことができた。
・実行委員会で企画・運営し、講師・協力者による主体的な教室運営が定着し、2教室が増えた。
・特定のボランティアだけに依存するのではなく、新たな人材の発掘に努めるとともに、今以上に保護者に対して積極的な参加・協力を呼び掛けていく。
・ふれあい教室の実施日を忘れないために、その日の教室の参加名簿を学年担任に配布し、呼びかけてもらう手立てをする。
・「芳養ふれあい教室」がよりいっそう発展、充実させるために、講師先生や協力者に対して感謝の気持ちが育つように指導していきたい。子どもに学んだことを感想文に書かせ、感謝の気持ちを込めて、その感想を講師先生達に渡すようにしたい。

学校名 園名	大坊小学校	公民館名	芳養公民館
-----------	-------	------	-------

学社融合における学校・地域の様子

・校区内には文化施設や商店はなく、学校は地域住民のセンター的役割を果たしている。そのため、地域住民は学校への愛着も強く、学校行事等の児童活動にあたっては、全地区あげての協力体制が得られている。

・地域の人々には、地域の子供は地域全体で育てようという意識があり、子供たちにも声をかけてくれることが多い。また、地域に伝わる文化や習わしを受け継いでもらいたいという思いが強く、子ども達が地域行事に参加することを大変喜んでくれる。

活動名	秋季大運動会	学年・教科・領域等	全学年の児童 体育・特別活動・学校行事
-----	--------	-----------	---------------------

目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の運動能力を高め、体力の向上を図る。 ・中学生や地域住民との交流のなかで地域に支えられていることを理解し、児童一人ひとりに地域の一員であるという自覚を育てる。
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・全区民が集い、相互の親睦と健康の増進、教育の発展を願い、ともに運動に興じる。 ・児童・学校と地域のつながりを深め、地域全体で子供を育てるという意識を高める。

支援者及び支援組織

白楽会(大坊・団栗 老人会) 大坊・団栗青年団	大坊小育友会 中芳養中学校生徒	芳養婦人会
----------------------------	--------------------	-------

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

- 4月 4日 育友会役員会で運動会の日程について協議する。
- 8月 3日 運動会での関係団体との連絡、調整や競技について役割分担を決定する。
育友会役員と小学生以外の種目について協議する。
- 16日 運動会実行委員会を開く。
出席者(地区長・班長・校区協議会役員・白楽会・青年団・育友会役員等21名と学校職員3名)
競技等、運動会の内容について協議する。地区の班対抗競技の参加者集めが高齢化により難しくなってきたことへの解決策など共通理解をする。
- 9月 7日 児童から白楽会(老人会)の皆さんに運動会の招待状を配布する。
- 9月 14日 運動会プログラム(福引券)を地域に配布。(1戸につき1枚)班ごとに分担し育友会役員が担当する。
- 9月 23日 運動会福引の景品の買出しと準備
- 9月 25日 芳養浦音頭講習会 芳養婦人会から4人来校し、踊りを教えていただく。(保護者も参加)
- 9月 26日 児童による運動会総練習
- 9月 29日 運動会実施
- 10月 4日 育友会役員会で運動会の反省と来年度に向けての課題を話し合う。
- 10月 5日 保護者から、運動会の写真を提供していただく。
- 11月 1日 学校便り11月号にて、運動会の記事および写真を掲載する。

芳養浦音頭を教えてくれる芳養婦人会の皆さん



青年団の大活躍で活気ある運動会に



	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・学校(児童)の取り組みを見ていただき、児童の成長を共に喜ぶことは大変うれしいことである。一般、青年団競技に新しいものを取り入れたことで、競技への参加者も増えた。 ・中学生や青年団等若者の参加者が多く、活気のある運動会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数、家庭数の減少により、保護者への負担が大きくなってきている。地域の人々の理解を得ながら、保護者に負担感のないようにしていく。 ・地域の意見がより反映できるよう、日ごろから情報収集に努める。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多くの人々に練習の成果を見ていただくことが大きな励みとなった。 ・地域の人々が運動会を盛り上げてくれることを知り、地域の一員である自覚を育て、愛着を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが運動会を盛り上げるという気持ちで、リーダーとしての意識を強く持ち行動できるようにする。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大人だけでなく、中学生等幅広い年齢層の方々と交流し、コミュニケーション能力の発育を促すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来、子供たちが地域の活動に積極的に参加するように、地域を愛する気持ちを持ち続けてほしい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの取り組みをみたり、子どもたちとふれあったりすることが、地域の方々の活力となり、地域の活性化につながった。 ・取り組みが長期にわたることで、より密接な地域間・世代間の交流を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化により参加者が減少している班もある。班対抗のあり方など工夫していく必要がある。 ・今後も現在のように、多くの地域の方々に協力・参加してもらえる体制を維持していきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・実行委員会に幅広い年齢層の方が集まってくれたので、競技内容や賞品等改善することができ、スムーズな運営につながった。

・天候が不安定で、プログラムの変更があったが、地域の人々の協力で滞りなく進行することができた。

・育友会からの事前の働きかけもあり、青年層の参加が多く活気付いた。また、準備から片付けまで青年団の積極的な協力に助けられることが多かった。

・地区長さんはじめ、班長さん方から、忌憚のない意見を出していただき、少子化、高齢化で起こってくる問題を共通理解し、無理のない方向で地域みんなで楽しめる運動会を作り上げていけるよう学校の働きかけを大切にしていきたい。

卒業生に限らず中学生も多数参加



敬老会の皆さんも楽しく出場



楽しみにしてくれている一輪車競技



学校名 田辺市立新庄小学校		公民館名 新庄公民館	
学社融合における学校・地域の様子 新庄小学校では、「地域と連携し、地域を知り、地域を学び、地域を愛する児童を育成すること」を目標に、農業、伝統的な祭りや行事、福祉、地震や津波等について学習する機会を設け取り組んでいる。 新庄地域は、夏の夜、通りの玄関先などに野菜等で作った作品をお供えする「ぎおんさん」を始めとする伝統的な行事も多く、地域の方や各種団体の方々も学校教育活動にたいへん協力的である。 また、新庄公民館・新庄幼・新庄小・新庄二小・新庄中の担当者が定期的に集まり情報交換をしている。そこで、年に一度当番校が公開授業を行う合同研修会を開催し、全職員が共に研修をしている。			
活動名 「ぎおんさん」から学ぼう		学年・教科・領域等 第3学年 第6学年 総合的な学習の時間	
目標	学校・園 ・地域の方々とのふれあい、地域の行事を知り、参加することにより、地域や地域の活動に興味を持ち、地域を愛する子どもを育てる。		
	公民館（地域） ・地域で行われる行事に学校と連携して取り組み、地域と学校のつながりを密にする。さらに、子どもたちの活動をきっかけにし地域の方々の連帯感を深める。		
支援者及び支援組織 地域の方々、新庄中学校			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<h3>第3学年</h3> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新庄地域の、いつどこでどんな行事が行われているか調べる。 2. ぎおん祭の「ぎおんさん」について調べる。 3. 「ぎおんさん」に参加する。(地域の方、保護者) <ol style="list-style-type: none"> ①「ぎおんさん」についてのお話を聞く。 ②夜見世の出し物の作り方を教えてもらう。 ③出品する作品を考える。 ④作品をつくり、紹介し合う。出品する。(7月13日) ※当日、NHK和歌山の取材があり、地域のようすと共に放送された。 ⑤感想をまとめる。 			
			
<h3>第6学年</h3> <ol style="list-style-type: none"> 1. 祇園祭について調べる。 2. 地域の方に「ぎおんさん」の話を聞く。 3. 調べたことを新聞にまとめる。 <ol style="list-style-type: none"> ①紙面のテーマや内容を考える。 ②取材をする。 ③編集会議をする。 ④紙面に仕上げる。 4. 紀伊民報「みんなで作る学校新聞」で、多くの人に読んでもらう。 5. 学習を振り返る。 			



	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> * 地域の祭りを知る機会となっている。 * 地域の方、保護者とのふれあいの場となっている。 * 地域の祭りに積極的に参加しようとする態度も見られるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> * 3年生には、祇園祭の歴史的なことをもう少し学ばせたい。 * 地域の方や地域との取り組みをもう少し増やすことができないか。 * 活動は充実したが、時間の確保が難しい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> * ぎおんまつりの内容を知って、まつりに参加できた。 * 地域の伝統や、人々の願いを知り、地域への関心が増した。 	* 3年生は作品作りに中心をおいているので、地域の方との交流を増やしたい。
* 子どもにとって	* 自分たちが住んでいる地域のことを知ると共に、住民との触れ合いの場がもてたこと。	* 作品を制作し展示することだけに終始するのではなく、街の風景などにも関心を持ってもらいたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> * 地域の伝統文化に触れる貴重な機会となっている。 * 児童・保護者に実際に体験し、関心を持ってもらうと共に広がりをもたせることで、後継者育成の一端となっているのではないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> * 祇園祭のことをよくご存じな方の高齢化。 * 学校と交流していただけるゲストティーチャーの確保。 * 作品作りなどだけではなく、町並み保存なども含め、行事そのものの継続性を図ること。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・ぎおんまつりに参加するようになって、自分が住んでいる地域への興味関心が高まってきた。
- ・取材することにより、地域の方々の思いや願いを知ることができ、地域に対する意識が変わってきた。
- ・地域の方々とふれあうことで、地域との精神的な距離が近くなった。
- ・次年度も、「総合的な学習の時間」を活用して取り組む。
- ・保護者の方の学ぶ機会にもなっているので、参観日として取り組む活動を続ける。
- ・地域の方々と交流する場を広く考える。



学社融合活動実施報告

学校名 園名		田辺市立新庄第二小学校	公民館名	新庄公民館	
学社融合における学校・地域の様子 本校校区は、他地域から移住してきた世帯が多く、昔からこの地域に住んでいる世帯は比較的少ない。また、移住してきた世帯は若い世代が多く、昔からの世帯は年齢層が高い傾向が見られる。しかし、どちらの世帯も学校に対する関心はたいへん高いように感じる。保護者の構成は、ほとんどが他地域からの世帯であるが、新二まつり(文化祭)やサークル活動などでは、保護者だけでなく、昔からこの地域に住んでいる方々にも多くの協力を頂いているなど、若い世代と地域の方が協力した活動も見られる。したがって、地域・家庭・学校が共に子どもを育てるという基本的な考えのもと、活動を広げていきやすい学校であり、地域であるといえる。					
活動名		みんなでワイワイ たのしい図書館講座		学年・教科・領域等	
目標	学校・園	読書環境を整えることで、子どもたちが落ち着いて読書できるようになり、本に親しむ子供を増やすとともに、学力形成に繋げていく。			
	公民館(地域)	学校図書ボランティアという形態ではあるが、参加者にとって「サロン」といった感じのコミュニケーションの場・機会の提供でもあることに期待したい。			
支援者及び支援組織 読み聞かせボランティア、公民館					
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)					
7月17日(火)		図書ボランティアさん打ち合わせ ボランティアの方々から、図書に関する講座開設の提案 講師・・・公民館長(元県立紀南図書館館長) テーマ・・・「分類」「読み聞かせ」「ボランティア」等			
9月 3日(月)		<広報活動>新庄第二小学校全保護者に案内配布			
9月12日(水)		図書館講座開催事前打ち合わせ 日程、役割分担、準備物等の確認			
9月14日(金)		第1回図書館講座 テーマ「分類」 日本十進分類法に基づく、図書の分類のしかたについての講義があり、その後交流を行った <広報活動>第2回開催のポスターを新庄公民館、新庄幼稚園、わんぱく保育所に掲示(以後継続)			
10月30日(火)		第2回図書館講座 テーマ「本・子ども・そしておとな」 子どもの読書環境への関わり方についての講義があり、その後交流を行った <広報活動>第3回開催案内を新庄小学校全保護者にも配布(以後継続)			
11月22日(木)		第3回図書館講座 テーマ「読み聞かせ」 読み聞かせと著作権、読み聞かせのメリットについての講義があり、その後交流を行った			
12月12日(水)		第4回図書館講座 テーマ「読み聞かせ②実践編」 講師指導のもと、絵本、紙芝居の読み聞かせ実践練習を行い、その後交流を行った			
1月22日(火)		第5回実施予定 テーマ「ブックトーク」			
※尚、図書ボランティアの方々には、毎週図書室の整備(シーリング・補修など)を行ってもらっています。また、隔週で金曜日の朝、各学年で読み聞かせも行ってもらっています。					

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・講座を開設することにより、ボランティアさんの図書に対する専門的な知識が増え、それらを図書室の運営に役立てて頂くことができています。 ・近隣校の保護者の参加もあり、より多くの方々に学校の取り組みなどを知ってもらうことができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講座の開設は図書室で行っているが、外部の方々が打ち合わせ等で来校された時に使える部屋が必要。 ・より活動を活発にし、図書のみならず様々なボランティアに広げていけるような手立て。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・より快適な読書環境の中で本に親しむことができています。 ・整理整頓や物を大切に扱うという気持ちが育っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の利用は多いが、貸し出し率が低い。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとしたディスプレイの工夫などにより、図書室の雰囲気明るくなり、児童たちにとって出入りしやすくなったのではないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・劇的効果は期待できるものではないだろうが、より一層の図書(室)の利用が図られるような工夫があればと思う。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティアの方々のスキルアップが図られた。 ・コミュニケーションの場や機会の提供が行われ、参加者同士の学外での活動につながっているようである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところ、活動に使える部屋が図書室だけなので、フリースペース的な部屋が用意できればと考える。 ・図書ボランティアをきっかけに、他の活動にも広がりを持たせていきたい。同時に「サロン」的な集まりにもつながれば良い。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

最初は本校保護者だけであったが、広報範囲を広げて回を重ねていくうちに、他校区からの参加も見られるようになった。講座で学んだ内容は、前年度から取り組んできた図書ボランティアの活動をより活発なものにすることができている。講座という名前ではあるが、堅苦しいものではなくアットホームな雰囲気でお互いの意見を交換できているというのも良い点である。

また、この活動がボランティアの方々からの提案で始まったということにも大きな意義がある。学校は事務的な仕事を担当し、運営などはボランティアの方々为主となって行っている。「子どもたちのために」という思いで、地域の方々が積極的に学校に出入りし、自発的な取り組みにより、子どもにとって良い教育環境が生まれ、また地域の方々にとっても良い繋がりを築ける場となっているという点では、正に学社融合の基盤となっているといえる。

今後はさらに活動を広げ、図書分野だけでなくボランティアの方々の得意を生かした新たな取り組みなどに発展させていければと考えている。そしてそこに集まる人たちが、気軽に子育てなどの相談を合える場となることで、子どもにとっても、家庭にとっても、学校にとってもプラスになるように取り組んでいきたい。





学社融合活動実施報告

学校名 園名		稲成小学校	公民館名	稲成公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>本校では、少年野球やサッカー等のスポーツ少年団に所属せず、家庭に閉じこもりがちな児童を対象に「稲成ふれあいスクール」(第二・第四土曜日午前中、第三水曜日放課後実施)が設置されている。従来より本校区は、保護者や地域の方々との学校教育に対する関心も高く、協力的な地域であった。現在も指導者や協力者として多くの方々にご参加いただいている。子どもたちは地域の方々との交流を深めることで、感謝の気持ちを持つとともに、みなさんの生き様から自分を見つめ直しつつ将来への夢と希望を抱いている様子である。</p>				
活動名		稲成地域ふれあいスクール	学年・教科・領域等	全学年からの希望者 教科や領域を越えた活動
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後や休日の子もたちが安全・安心してすごせる居場所づくりをする。 ・ 子どもたちと地域の方々との交流を一層深める。 ・ 田辺市の「放課後子どもプラン」と連動した取り組みとする。 		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な活動を通じて子どもたちと地域の方々との交流を深める。 ・ 子どもたちを地域で育てていくことの意識を高める。 ・ 学校・地域・各種団体との連携を強くする。 		
支援者及び支援組織				
稲成ふれあいスクール実行委員会(学校・公民館・育友会・子どもクラブ・町内会・ボランティア)				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>◇5月29日 ふれあいスクール事務局会開催 本年度の運営方針について検討した。(7名参加)</p> <p>◇6月11日 ふれあいスクール実行委員会開催 たくさんの地域の方々にもご参加いただき、本年度の運営方針や具体的な運営方法や新しい指導者の人選について話し合った。</p> <p>◇6月16日～8月18日 土曜日の午前中や水曜日の放課後に以下のような取り組みを行った。 ねらい：・地域の方々との交流を深め、その生き方を学ぶ。 ・運動や文化的な活動を行うことによって、健全な心身を育む。 活動内容：卓球 ドッジボール サッカー キンボール 水泳 オセロ・将棋 学習(自由課題) サイエンス・スクール(科学工作)</p> <p>◇8月25日、26日 「ふれあいキャンプ」開催(於：田辺市本宮町 木魂の里) ねらい：自然とのふれあい体験を通じて、仲間と協力し合う心や友だち同士の連帯感を養い、ゆったりと過ごす中でより豊かな人間性を育てる。 活動内容： 食事づくり レクリエーション 川での水泳 キャンプファイヤー 他</p> <p>◇9月8日～10月24日 ねらいは、上記6月16日～8月18日と同様。 活動内容： カヌー サッカー 囲碁・将棋・オセロ 音楽鑑賞 手芸 竹とんぼづくり 読み聞かせ</p> <p>◇10月18日～20日 「チャレンジ通学合宿」開催(於：稲成町民センター、JA稲成支所) ねらい：・親元を離れ、異年齢での共同生活や体験活動をしながら通学することにより、家庭の大切さを再認識する。 ・子ども同士のふれあいや地域の大人の方と接する機会を持つことによって、モラルやマナーを身につけ、人としての生き方を培う。 活動内容： 買い物 食事づくり・後片づけ もらい風呂 もらい洗濯 学習 集団登校 清掃 他</p> <p>◇12月2日 「ふれあいハイキング」実施(和歌山市 和歌山城・紀伊風土記の丘) ねらい：・自然や文化に触れる経験を通して見聞を広める機会とする。 ・集団行動を通して心のふれあいを深めるとともに、公衆道徳についての意識を育てる。 活動内容 和歌山城：散策 歴史学習 紀伊風土記の丘：古墳見学 移築民家見学 資料館見学(学芸員の説明)</p> <p>今後も、卓球、キンボール、グラウンドゴルフ、絵画教室等を実施の予定。</p>				

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的には誰でも自由に参加できるので、今まで経験のない活動にも安心して気軽に取り組むことで、子どもたちの興味や関心の幅が広がっている。 ・ 教職員だけでは十分な指導ができないことも、地域の方々にご参加いただくことによって指導可能となった。 ・ 学校生活の中では少なくなった異学年交流が自然に行えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組む内容によっては、運営が学校主導になることも多いので、地域の方々の一層のご参加をお願いしたい。 ・ 体験活動で身につけたことを、学校生活や家庭生活に生かしていくことが必要である。 ・ 参加は自由であるが、開始時刻から大幅に遅れて参加する子どももいる。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師や家族以外の大人と関わることで、地域の方々に対する感謝の気持ちをもつことができた。 ・ 自力で様々な活動に取り組むことから親の気持ちを理解できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団で生活をしたりいろいろな活動をしたりする際に羽目を外してしまい、公共マナーが守れなくなりがちなのが子どもが見られる。 ・ 大人や友だちに「してもらう」ことが当然となり自主的な活動がしにくい子どもも見られる。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方々の協力を得ながら、様々なことを楽しく気軽に行える機会であり、異学年の交流も行えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容によるが、子どもが自主的に活動できる内容を増やせるよう協議を重ねる必要がある。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの地域の方々に参加していただき、様々な方とふれあう機会があり、人と人とのつながりができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館と学校と地域の方々との会議の機会を増やし、連携を深め、それぞれの負担を軽減することが必要。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・ 学校と公民館とがさらに連携を深めることが必要である。また、地域の方を交えた話し合いの機会を増やしていくことが必要である。
- ・ 指導者が特定の方に限定されがちなので、新しい指導者をお願いしていくことが必要である。
- ・ 取り組む内容も固定されがちなので、新しい内容を導入していくことが必要である。
- ・ ふれあいスクール本来の趣旨に則り、教職員の負担を軽減することが必要である。
- ・ 地域の方だけでなく保護者の力もお借りしたい。特に、大きな行事(キャンプ、合宿、ハイキング等)に子どもを参加させる場合、できれば参加児童の保護者にもご支援をいただきたい。
- ・ スポーツ的なイベントが多くなりがちなので、文化的なイベントにも数多く取り組みたい。また、稲成地域の文化や歴史、伝統などを学ぶ機会もつくっていきたい。
- ・ 子どもたちが様々な活動の中で学んだり身につけたりしたことを、家庭生活や学校生活の中で生かせるようにさせたい。

学校名 田辺市立 田辺東部小学校		公民館名 ひがし公民館	
学社融合における学校・地域の様子 ひがし公民館が隣接されている本校では、定期活動として児童による大集会室の清掃や、公民館報の裏面に学校だよりを掲載し、全戸配布を行うこと、連携行事として「ひがしふれあい秋祭り」の開催や、NPO花つぼみさんの協力により3年生が公民館前に花を植える活動等を行っている。 また、地域にある4町内会(朝日ヶ丘・あけぼの・新万・南新万)には、登校時の子どもを守る「オールとうぶ一斉見守りの日」や学校支援ボランティア募集にかかる回覧協力、さらに秋まつりを通して2年生制作のポスター掲示をお願いしたり、当日のゲーム運営をしていただいたりと、多大なる協力をいただいている。 本校では学校開放月間に合わせて日曜参観日を11月に設定し、低学年の秋まつりや中高学年の授業参観をはじめ、午後のひがしふれあい秋祭りに学校をあげて参加・協力し、地域との連携を図っている。			
活動名 ひがしふれあい秋祭り		学年・教科・領域等 生活科・特別活動	
目標	学校・園	11月の学校開放月間の取組の一つとして、低学年の生活科の取組を発表する「秋まつり」と、中高学年の授業参観を日曜参観日として位置づけることで、保護者や地域住民に学校の学習活動の様子を知らせるとともに、午後は地域のまつりとして根付いた「ひがしふれあい秋祭り」に学校をあげて参加することで、子どもたちに地域とのふれあいの大切さを気づかせたり、地域住民としての自覚をもたせたりすることを目指す。	
	公民館(地域)	核家族化や行動情報化、価値観の多様化などが進み、地域への関心が薄れつつある中、4つの町内会と地域の各種団体、学校、公民館が合同で年1回、地域の方々が集う催しを開催することで、幅広い世代の方々が知り合いふれあえるきっかけを作り、近隣住民の交流の促進を図るとともに、地域の連帯感を深めることを目指す。	
支援者及び支援組織 <h3 style="text-align: center;">ひがしふれあい秋祭り実行委員会</h3> (ひがし公民館・朝日ヶ丘町内会・あけぼの町内会・新万町内会・南新万町内会・とうぶのおやし会・田辺東部小学校教育友会・子どもクラブ・田辺東部)			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
○第1回実行委員会(7月) ・今年度の内容検討→ステージ発表出演団体の選定・各種イベントについて協議。 ・昨年度の反省を受けて→2年生の幟制作・おやじの会によるたこやき販売・作品展名称の変更決定。(「文化作品展」から「趣味の作品展」へ名称を変更)			
○第2回実行委員会(9月) ・ステージ発表出演団体の決定・各イベントの内容決定。 【発表団体】 高雄中学校プラスバンド部・東陽中学校合唱部・新万なでしこ会、さくら会(大正琴) 手話コーラス「スマイル」・なかへち清姫太鼓 【各イベント】 たこやき、ジュースの販売(とうぶのおやし会)・チャレンジゲーム(子どもクラブ) ヨーヨーつり、スーパーボールすくい(4町内会)・水消火器体験(田辺消防署) 抽選会ともちまき(町内会・公民館)・教職員リサイクルバザー(田辺東部小学校) 【作品展】 趣味の作品展(公民館各サークル)・学童保育所児童の作品展(ひがし学童保育所) 小学校児童絵画展示・児童会、福祉委員会の取組掲示(田辺東部小学校) ・秋まつり予算案の承認。 ・各イベントの開始時刻の設定。→オープニング発表団体の終了後より開始する。			
○第3回実行委員会(10月) ・各家庭配布用ちらしの校正。 ・当日詳細打ち合わせ。→購入物品の確認・雨天時の実施についてなど。 ・準備、片付け等の人員配置など検討。→テント立て・機材搬出入・後片付け(パネル、机、椅子運び等)			
○第4回実行委員会(1月) ・秋まつりの反省会→準備、運営、片付けに関わって・来年度にむけて。			
			
			

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、ポスターづくりに加え、2年生に手作りののぼりを制作してもらい、会場に飾ることができた。まつりを盛り上げることができた上、来場者にも好評であった。これからも1年ごとに1つの工夫をしていくことで、まつりをさらによいものにしていきたい。 ・学校をあげての取組なので、職員もリサイクルバザーの運営や受付、準備・後片付け等で協力することができた。それによって地域住民との間に対話が生まれ、関係を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・午前の授業参観では、地域人材を活用した出前授業や、児童が中心となって活動するポスターセッションや討論会などの授業を公開し、地域に密着したり発信したりする内容を今後考えていく必要がある。 ・まつりの準備を行う時間帯が、低学年秋まつりや中高学年の授業時間と重なるため、児童の集中力の低下や低学年秋まつりの運営に支障が出るがあったので、準備のあり方について一考する必要がある。 ・せっかくの機会なので、作品展やステージ発表を全児童に鑑賞させるような取組を行いたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日の行事であったため、秋まつりや参観日に多くの保護者の来校があり、子どもたちも張り切って各活動に取り組む姿が見られた。 ・高雄中プラスバンド部や東陽中合唱部の発表を通して、本校卒業生の活躍を見ることができ、在校生にとっては目指す中学生像をもつきっかけづくりとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一旦帰宅してからの登校となるため、一部児童にゲームやカード類を持ち込んで参加している者がいた。秋まつりのねらいをふくめ、まつりへの参加の仕方を児童に事前指導する必要があった。 ・地域住民の作品展や発表を先で鑑賞する態度の育成に課題が残った。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども対象の催しを中心に実施しており、当地域ならではの“お祭り”を体験することで地域愛が育まれる。 ・子どもから高齢者まで、幅広い世代の方々が集い、一緒に楽しむことで、世代を超えた交流につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の端に座り込んで携帯ゲームをするなど、せっかくのお祭りを楽しんでいない児童も多く見られた。 ・ブース開店時間が実質1時間半しかない。 ・祭りを運営する大人たちがもっと楽しそうにすることで、地域のため・みんなのために何かをする喜びを子どもたちに伝えることができるよう工夫したい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・恒例となりつつあるが、毎年少しでも新しいことを行い、マンネリにならないように工夫している。昨年度の反省や、地域住民の声を受け、開催日を第3土日に変更し、また、初めて食べ物のブースを実施した。当日は大変多くの方が来場してくださり、食べ物を売るブースでは長蛇の列ができるなど大盛況であった。食中毒の問題等、様々なリスクもあるが、実行委員会全体でよりよいお祭りとなるよう協議が進んでおり、地域・小学校・公民館の連携が年々強化されてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントの充実に伴い、必要なスタッフ数も増加してきており、分担する地域スタッフの増員が必要。教員の皆さんに負担をかけすぎている。(片付け等) ・恒例となっていることで、各自の判断で行動できていることはいいことではあるが、全体での申し合わせ事項も守られないなどの問題点もあった。 ・各ブースは役割分担の上、各団体が責任を持って運営しているが、慣れにより責任感が薄れてきており、準備物が足りないなど当日対応する事項が多く見られた。 ・雨天時の開催について再協議する必要がある。
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <p>評 価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひがしふれあい秋祭りを通して、公民館をはじめ町内会や地域の各種団体と学校が協力して1つのものを作り上げることができたこと。 ・ひがしふれあい秋祭りと本校の学校開放月間の取組(低学年秋まつり・日曜参観日)がタイアップすることで、午前・午後を通して大勢の保護者や地域住民が小学校に集い、学社融合の理念に基づいた取組が行えたこと。 <p>次年度に向けての取組の方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度で5回目となった秋まつりであったが、実行委員会を中心にふり返しを行い、1年ごとに1つ以上の改善点を見出し、工夫することで次年度がよりよい秋まつりとなるよう心がけていく。(改善・工夫予定事項) <p>【学校として】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①秋まつりの意義と目的を児童に再確認させるとともに、各種作品展や発表を全児童が鑑賞できるような体制づくりを行う。 ②参観授業において、地域人材を活用した授業や体験を行ったり、児童が中心となって学習したことを地域に発信したりする授業の展開を模索していく。 <p>【実行委員会として】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域住民全員が1つになれるようなイベントを考えるなど、ひがしふれあい秋祭りの今後について検討していく。 ②学校と地域をつなぐ役割を公民館が果たすという本来の目的を再確認し、学校の力、地域の力を強いものにしていく。 		

学社融合活動実施報告

学校名 園名	会津小学校	公民館名	秋津・万呂公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子 「会津さわやかコンサート」や「麦の収穫体験」をはじめ、学校が保護者や校区協議会、公民館、NPO等地域の各種団体と密接な連携・協力体制を図りながら、様々な地域活動・学校教育活動を展開している。現在481名の児童が通学しており、校区協議会の登下校の見守り活動や、公民館での子ども向け教室などをはじめ、地域で子どもたちを見守る活動にも積極的に力が注がれている。また、地域スポーツクラブ、会津スポーツクラブの活動は、子どもたちのスポーツに対する関心を高めると共にスポーツに親しむ機会となっている。</p>			
活動名	熊野古道－秋津・万呂－夢・あんどん祭り	学年・教科・領域等	全学年 図工・総合的な学習等
目標	学校・園	「あんどん祭り」などの取り組みを通して、地域の諸団体、公民館などとの連携を進め、学校教育との融合を深める。子どもたちに、地域行事に積極的にかかわることで、地域への愛着、帰属意識を高める。	
	公民館	大人と子ども双方にまちづくり行事に積極的に参画してもらい、参加者相互の交流を通じて、地域社会の一員としての意識を高めてもらう。また秋津・万呂両地域間のつながりを深め、地域外からも広く多くの方に参加していただくことで地域活性化へと繋げる。	
<p>支援者及び支援組織 熊野古道－秋津・万呂－夢・あんどん祭り実行委員会(町内会、老人会、子ども会、小中学校など計11団体で構成)</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>◆夢あんどん祭りの開催 【 8月18日(土) 会場:紀菜柑、会津小学校 】 第5回目となった今回は紀菜柑、会津小学校の両会場と会津川の両岸に前年度までに作製したものと合わせ計1500余りの「あんどん」を並べ点灯しました。会津小グラウンドに並べられた約500のあんどんには「夢」をテーマに様々なメッセージや絵が描かれており、様々な夢があり楽しんでいただきました。また、あんどんの灯り以外を消灯する時間を設け節電への喚起を行いました。会場では地元中高生によるグループはじめ地域の各種団体による出店、盆踊りも開催され地域内外からたくさんの来場をいただき盛況の中終了することができました。</p> <p>◆あんどん作り 【 7月24日(火)～7月31日(火) 会場:秋津公民館・万呂公民館 】 【 7月中の各クラス図工の授業 会場:会津小学校 】 7月より小学生を対象に参加者を募集し、秋津・万呂公民館を会場に計8日間にわたりあんどん作り教室を開催。両老人会のご協力もいただき、大人からの指導・補助のもと、子どもたちは木枠を組み立て約500個のあんどんを作りました。会津小学校では全校児童が参加して、授業の中で「夢」のメッセージ・絵の作製に一人一人が取り組みました。</p> <p>◆実行委員会会議 【 7月3日(火)、8月2日(木) 会場:万呂公民館 】 町内会、公民館、学校、老人会、育友会、子ども会、会津スポーツクラブ、とんぼクラブなど両地域の各団体代表が集まって祭りの実施内容について協議・確認を行いました。</p> <p>◆市内各行事への参加 【扇ヶ浜の夕べ 8月10日(金)～12日(日) 会場:扇ヶ浜海水浴場 】 【八咫の火祭り 8月25日(土) 会場:本宮町大斎原 】 作製したあんどんは、「扇ヶ浜の夕べ」に約1000個、本宮「八咫の火祭り」にも約500個が並べられ、田辺市内のイベントを彩りました。昨年に引き続き、あんどん祭りの取組を地域外の方に広く知っていただくことができ、今後の様々な展開や発展に繋がるよいきっかけとなりました。</p>			

	成 果	課 題
学 校 園	全児童があんどんづくりに取り組んだ。出来上がった作品を校庭に並べた。今年のテーマは、「夢」1つ1つの作品に子どもらしい「夢」が描かれていた。祭り当日は、自分の描いたあんどんを探し、ほのかな明かりの中見入っていた。家族が、地域が一つになって祭りをつくり、楽しむ風景であった。	今後は、より多くの人があんどんづくり、そして設置などに協力して、祭りに多くの人に参加するよう取り組みを広げていくことが大切になっている。
* 子どもにとって	地域で、学校であんどんづくりに取り組み、児童自身も地域の祭りに参加しているとの意識がついている。取り組みの中で多くの地域の人と触れ合うことで、地域への愛着心、帰属意識が高められている。	児童単独の取り組みとともに、家庭と共に、地域とのつながりを深めていく社会体験、自然体験等の機会や活動を大切に取り組んでいくことが課題となってきている。
* 子どもにとって	・自分が作ったあんどんが、市内の各行事に飾られたくさんの人の目に触れることで、子どもたちのやりがいや達成感へとつながった。	・発表の場など、子どもたちが受動的ではなく主体的に参加できるような場所づくりを工夫していきたい。
地 域 (公民館)	・中高生グループの参画もあり、若い世代が地域活動へ参加してもらえるきっかけを作ることができた。 ・秋津・万呂地域から地域内外へ取り組みを大きく発信することができた。	・会場や予算の面などいつまで現行の形で実施できるかどうかわからない中で、内容や実施体制を含め、今後どのような方向性で進めていくのか地域全体で考えていく必要がある。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

今回テーマは「夢」に設定。子どもにとっても身近な願い、子どもらしい願いがあんどんに託されました。あんどんのほのかな明かりの中で、一つひとつのメッセージを家族で読む風景は心をほのぼのとさせてくれます。また、全体会場～学校へと続く会津川の堤を照らすあんどんは、昨年までに作ったあんどんが地域の祭りを彩っていることになっており、会場を歩く家族が、「これは、〇〇君のあんどんや」などと会話をしながら歩いている様子も地域の一体感を感じます。次年度以降も、コンセプトをしっかりと設定し、地域に根づく取り組みとして、開催できるようにしたい。



学社融合活動実施報告

学校名 園名 上芳養小学校		公民館名 上芳養公民館	
学社融合における学校・地域の様子 ・地域の教育力を活かせる場として「梅」の学習に取り組んでいる。子どもたちは自然な形で「体験学習」に取り組めるようになってきた。また、地域の方が気軽に来校し、授業参観や指導をしてくれたりすることは子どもたちや学校職員にとっても良い機会となっている。 ・体験学習を通して子どもたちは地域の人とより深く交わることができ、地域においても地域の子どもは地域で育てるという意識が共有されているように感じる。			
活動名 梅学習(梅とり、梅干・梅ジュース作り体験)		学年・教科・領域等 3年生	
目標	学校・園	当地域の主たる産業である「農業」とりわけ、梅について体験学習に取り組むことにより、収穫の喜びを味わったり農業に携わる人々の苦労や工夫、抱える問題点に気づいたり、地域の人々の願い、地域の特色を理解し、地域を考えともに歩む子どもを育てる。	
	公民館(地域)	・地域と児童の繋がりを深め、日常的な交流を円滑にする。 ・地域の子どもという意識を育む	
支援者及び支援組織 JA上芳養支所、地域住民			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) <日程> 6月6日(水) 小学校教頭、公民館主事で梅農家の新井さんに梅畑を借りるお願い 7日(木) 小学校3年担任と主事にて梅学習の詳細について打合せ JA紀南上芳養支所職員と主事にて梅学習について打合せ 12日(火) 担任と主事にて最終打合せ 15日(金) 梅学習(梅への理解を深めるための講義、梅もぎ・梅ジュース作り体験) 22日(金) 担任と主事にて打合せ 28日(木) 梅学習(梅への理解を深めるための講義、梅干し作り体験)			
<ねらい> 上芳養地域の主要農業である梅について、種類や育成・加工方法など全般的に理解を深める。実際に梅を木からもぎ取り、梅ジュースや梅干しに加工する体験と、JA職員による講義を通じ、実務と座学の両面から理解を促す。 上芳養地域の大半の方が関わっている梅産業について学び、郷土に対する理解や誇りを育む。			
			

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・体験することにより、農業に携わる人々の苦労や工夫を学ぶことができ、また、作る喜びを味わうことができた。 ・梅を通して地域を大切に思う態度を養うことができたと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実体験することの大切さを、子どもたちに更に深められるような機会を持てるようにしていく。 ・子どもたちにとって「体験」が受身にならないよう、できる限り子どもが自ら考え活動する学習にしていく。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で作ったことの喜びが得られ、また、梅干し作業を通して、農作物を大切にすることが育ってきているように思われる。 ・実体験することにより地域を理解することが深められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方をはじめJA職員さんの協力があるはじめて取り組めることを理解するとともに、感謝の意を日常場面でも表すことができるようにする。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・育った地域の主要産業について理解を深め、郷土への愛着心を養えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一過性の取り組みで終わらず、日常的に地域行事に参加できるよう地域との繋がりを深めていく。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足の問題解決への糸口となった。 ・子どもとの会話や交流を通じて、朗らかさや元気を与えられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもの教育に関わることへの抵抗感を無くし、地域の方に、もっと積極的に参加して頂けるような取り組みにしていく。 ・取り組みを知って頂き、主体的に携われるよう、参加しやすい雰囲気づくりや情報提供に努める。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・農業体験学習として位置づけ、3年生～6年生まで系統立った取組として継続的に実施できている。そのなかで、学校としては、児童のコミュニケーション能力や地域(郷土)愛、豊かな心などが育まれ、人格形成に効果が得られるよう期待すると同時に、地域づくりにも貢献できているように思う。
- ・食育面からも、作った梅干しを給食に利用したり家庭科での実習に利用したりするなどして、実践に生かされている。
- ・今後もこの取組を継続させ、更に地域との連携を図り繋がりを深めていければと考える。

学社融合活動実施報告

学校名 田辺市立中芳養小学校		公民館名 中芳養公民館	
学社融合における学校・地域の様子 地域住民の教育への関心は高く、学校教育に対しては熱心であり、常に協力的である。自然環境に恵まれた里で育つ子どもたちは、明るく素直であり、男女の仲も、異学年間の仲も概ね良好である。 本来は農村地帯であり、昔ながらの人間関係が色濃く残り、各字(あざ)内のつながりが強かった。そこへ、新しく団地や宅地がつくられ人口が増加、今では新しく入居してきた児童の方が多くなっている。 地域としては、旧住民と新住民の交流・融和が課題であるが、小学校における学社融合の取組は、子どもの教育活動や様々な行事を通じて、住民間の交流・融和を図る重要な役割を果たしている。今後も取組を進め、小中学生の顔が全世帯で認識され、地域の子どもとしてあいさつ等でつながりあえる関係をつくるとともに、地域がもつ教育資源(様々な力を持つ人材)を学校教育へ導入して中芳養として特色ある学校教育を展開してゆきたい。			
活動名 盆踊りの練習(中芳養で伝承されている踊りも含む)		学年・教科・領域等 1、2年・生活科	
目標	学校・園	・中芳養地域に伝承されている盆踊りを低学年の頃から指導することにより、中芳養の文化を継承する機会とするとともに、子どもたちには中芳養の住民としての意識づけをし、アイデンティティを育む。 ・盆踊りは大勢で一斉に踊るものであるから、皆と協調する精神を養うとともに、自己表現力も養う。 ・地域のお年寄りの方々から指導を受けることで敬老精神を養うとともに、地域のお年寄りの方々に児童を知ってもらう機会とする。	
	公民館(地域)	・地域の方が児童を指導し、交流を深めることで、「地域の子どもは地域で育てる」意識を育む。 ・地域と学校との交流を促し、連携を深めることで、地域と学校との活性化を図る。	
支援者及び支援組織 ・中芳養公民館 ・芳寿会(中芳養老人会)等			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
○5月上旬 公民館主事と盆踊りの取組や指導者について打ち合わせ (芳寿会から指導してもらうのが適切であろうと一致)			
○6月中旬 芳寿会会長と打ち合わせ 会長から盆踊りを指導してくださる方に連絡を取ってもらえることになる。 また、指導時期を7月とする。 盆踊りを習う対象学年を1、2年とする。			
○7月 芳寿会から吉田さん、渋谷さん、古谷さんが来校され、盆踊りの指導を受ける。(3回) 盆踊りの曲目は「炭坑節」「田辺踊り」「*巡礼」「*弓引き」 *は、中芳養伝承の踊りで、扇を持って踊る。児童は、扇の扱いが難しいのでうちわを扇に見立てて使用した。			
○8月4日(土) 中芳養夏祭りにて習った盆踊りを上級生や地域の方々と一緒に踊る。例年より盆踊りへの参加人数が多く、おおいに盛り上がった。			
			
【盆踊りの練習風景】		【盆踊りの講師先生を囲んで】	
			
【中芳養夏祭りの盆踊り風景】			

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・踊りを指導してくださった芳寿会メンバーの方々と交流が深まり、校内へも気軽に足を運んでもらえるようになった。また、児童も親しみを持って接するようになった。 ・伝承の盆踊りを児童に学ばせることで、中芳養文化の継承に小学校として一定の役割を担うことができた。 ・盆踊りに大勢が参加し、中芳養夏祭りの更なる活性化の一翼を担うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は3名の方に指導者として来校いただいたが、一緒に踊ってくださる感覚で、もっと多くの方に来校していただけたら、地域のお年寄りとの交流がより進んだものと思われる。 ・盆踊りの曲目について、小学生がよく耳にするアニメソングに関係した曲目を選定し、この踊りを小学生がお年寄りの方に教えるという双方向の交流があっても良かったかもしれない。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・中芳養伝承の踊りをクラス全員で踊ることにより、自分たちが中芳養住民の一員である思いを強くした。 ・練習により盆踊りをよく理解したうえで夏祭りを迎えることができ、自信を持って楽しく地域の方々と一緒に踊ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中芳養伝承の盆踊りの歌詞や振りの意味は、小学生には少々難しいと思われる。 ・小学生としては、よく耳にするアニメソングに関係した盆踊りも取り入れて欲しかったかもしれない。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・先生以外の大人と触れあうことで、社会性や規律性を身につける機会となった。 ・地域の方と深く交流することで、学校生活以外でも地域の方に見守られているという安心感に繋がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流が一過性のもので終わるのではなく、日常的な交流につなげていく必要がある。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・普段接することのない子ども達と、一緒に踊り、会話することで新鮮な発見や、快活さを与えられた。 ・子どもへの教育に参加することで、地域の一員であるという一体感や連帯感を育むことに寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した方から、参加してない方への声かけや、公民館報での情報提供を通じ、参加しやすい雰囲気作りを心がけたい。
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の盆踊りの取組は、公民館主事の計らいで連絡調整がスムーズに進むとともに、中芳養の老人会である芳寿会さんから全面的な協力を得ることができ、計画通り順調に取組を進めることができた。 ・中学年、高学年では、盆踊りの練習となると、照れくささ等から動きが緩慢になったりすることがあるが、今年は練習対象を低学年に絞ったことで、皆、純粋に盆踊りの練習に集中し、きびきびとした練習とすることができた。それにより、指導してくださった芳寿会メンバーの方々も、一生懸命練習に励む小学生の姿に好印象をもってくださり、練習後の交流等も和やかに進めることができた。 ・練習の成果を発揮する「中芳養夏祭り」では、全ての盆踊りに低学年児童が全員参加することで、その保護者も加わり、大きな輪となって盛大に盆踊りを実施することができた。輪が大きくなると不思議なもので、それまで少し恥ずかしそうに見ていた中・高学年の児童たちも輪に参加するようになり、ますます盆踊りを盛り上げることができ、大成功だった。 ・次年度も、芳寿会の方を指導者とした盆踊りの練習は続けていく予定だが、できれば、もっと多くの方々に気軽に練習に入ってきていただいて、児童たちと交流していただけたらと思う。さらに今後、芳寿会との交流においては、昔の遊びを児童といっしょにやってもらったり、これまで培われている野菜づくり等の技術の指導や中芳養の歴史等に関する指導等、芳寿会メンバーの方がお持ちの得意分野を小学校教育に反映させていただけるような取り組みを実施していこうと考えている。 		

学社融合活動実施報告

学校名 園名		田辺市立 上秋津小学校	公民館名	上秋津公民館	
学社融合における学校・地域の様子 当地域は農村地域であるが、最近、宅地造成が進み農業以外に従事する人も増えつつある。そこで、地場産業である「農業」とりわけ、梅(6年)、みかん(5年)、野菜について1年間を通して体験学習に取り組むことにより、収穫の喜びを味わったり、農業に携わって額に汗して一生懸命働いている人々の苦労や工夫、抱えている問題点に気づいたり、地域の人々の願いや食文化、地域の特色やよさを理解し、地域を考え、ともに歩む子どもを育てることを目標に学社融合を推進する。 地域としては、子どもたちの座学・体験学習を通して、子どもたちはもとより保護者の方々にも地場産業である農業について知ってもらおう。また、ボランティアとして参加していくことにより、「人づくり」ひいては「地域づくり」に結び付けていくことを目指す。					
活動名		農業体験学習	学年・教科・領域等	3年 冬野菜づくり	
目標	学校園	「知・徳・体の調和がとれ、心身ともにたくましく生きぬく児童の育成(本校教育方針)」を目指し、地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、自然や生命の大切さに触れさせながら、生き方指導につなげていくことを目標とする。			
	公民館(地域)	古くからの地場産業である農業(みかん、梅、野菜)を題材とし、体験学習を通じて子どもたちに上秋津の農業について知ってもらおう。 農業体験学習を通じて、地域住民が児童の育成に関わり、「人づくり」ひいては「地域づくり」につなげていくことを目標とする。			
支援者及び支援組織 農業体験学習支援委員会(JA紀南青年部上秋津支部、JA紀南生産販売委員、JA紀南、上秋津公民館、老人会)					
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)					
1～4年生は上秋津老人会、5、6年生はJA紀南青年部 上秋津支部の支援により実施した。					
月	1・2年 さつまいも、野菜	3年 冬野菜	4年 スイカ	5年 みかん	6年 梅
4				接ぎ木 試食会	
5	種まき 苗植え		苗植え		
6					収穫 加工体験(ジュース エキス・梅干し作り)
7	収穫 試食会		収穫 試食会	摘果	
9		種まき 苗植え			
10	さつまいもの収穫				
11	試食会			収穫	
12		収穫			
1				梅の剪定	
2				着花率調査	
留意事項 ・年度初めに支援委員会を開催し、学校と公民館やその他協力機関と共通理解を図る。 ・子どもが主体的に活動できるように工夫する。 ・子どもが自ら調べたり、考えたりして答えを見つけていけるような場面を設定するように努める。					

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に幅広い農業体験をさせることができたこと。 ・野菜作りを通して、老人会との連携をはかることができるようになった。 ・登下校時や普段の生活であいさつや話をするなど地域の方々との関わりを深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜作りは、主に老人会のお年寄りに指導をお願いしているが、高齢者の方が多いので、負担をかけないようにしたい。 ・5年みかん、6年梅と決まっているので、計画や活動がマンネリにならないようにすることが必要である。 ・上秋津中学校も農事体験を行っているので、活動のつながりなど、連携を図っていく。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜作りを通して、野菜作りの方法や農家の苦労や悩み・工夫などが知れた。 ・地域の老人とふれあうことによって、老人を敬う気持ちが育った。 ・挨拶や礼儀正しい態度行動がとれるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に老人会の方にお世話してもらっているので、受け身的な態度も見られる。 ・作業が中心なので、野菜に対する基礎的な知識が不足しているので、座学などを通して基礎的な知識を身につける必要がある。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業である農業(梅やみかん、野菜)について学習することで、地域の特色を知ることができ、また地域への関心が高まった。 ・農業をしている皆さんから働くことの意味や大変さを感じとることができた。また、将来の生き方について考える良い機会ともなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もこのような農業体験学習を通して、忍耐力や集中力を養ってほしい。 ・農業のほか、地域の歴史や伝統文化にも目を向け、ふるさとへの関心と理解をさらに深めてほしい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のお年寄りや若者にとって、子どもたちへ自分たちの経験してきたことを伝えることで、生きがいと自信に繋がっている。 ・子どもたちの学習を通じて、間接的に保護者の方々の地域理解にも繋がっている。 ・本年度も地域と公民館、そして学校との連携でスムーズに活動を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力者(老人会やJA紀南青年部)のメンバーが、固定化してきており、また年々減少しつつある。これからもこの学習を続けていけるよう、地域の農家の方々にも声をかけ、幅広い協力者の発掘に努めていきたい。 ・学校や支援者と連携を密にして、学習内容や方法についても考えてみたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・梅畑の所有者やJA紀南(青年部を中心に)の方々の指導を受け、梅の観察・収穫・梅ジュース作りなどができている。学校としては、児童のコミュニケーション能力、優しさや豊かな心などが育まれ、「人格形成」に大きな成果をもたらすとともに地域作りに貢献できている。

・地域で梅作り、みかん作りに携わっている方々との自然な形での交流により、地域の方々に対する敬愛の念や感謝の気持ちをもつとともに働くことの厳しさを感じ取るなど「生き方」を考えることにつながっている。

・梅やみかんの体験学習は、総合的な学習の時間の中で行ってきた。しかし、総合的な学習の時間が少なくなっているので、これまでの取り組みの質を落とさず、より意義深いものにするために他の学習活動を合わせて取り組む必要がある。

他の活動について

・児童が栽培した野菜を一緒に料理している家庭もあり、自然に「食育」が実践されるようになってきている。

・今後は、現在の取り組みを継続するとともに、旧校舎を利用し地域で取り組んでいる「秋津野ガルテン」(滞在型の農業体験学習・農家レストランなどの「地産地消」、みかん資料室の活用)と連携を進めていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名 園名		秋津川小学校	公民館名		秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子 学校、地域、社会教育関係者が一体となり、子どもの健全育成のため協力し合って連携を進めている。 地域の方々の協力を得ながら、地域の文化や伝統を学ぶことで、地域のよさを知り、また、様々な行事を通して地域の方々との交流を深めることで、子ども達のコミュニケーション能力を高めていく。					
活動名			備長炭学習		学年・教科・領域等 全学年 生活科・総合的な学習
目 標	学 校 ・ 園	・地域の伝統産業である備長炭について学習することにより、深い知識と郷土への愛着を養う。 ・実物にふれたり、調べ学習や体験活動を通して基礎的な学習を行い、興味関心を深める。			
	公 民 館 (地 域)	・地域の歴史や産業、伝統文化を次世代へ継承し、ふるさとを大切にする心を育てる。 ・地域の方々の知識や経験を活かせる活躍の場を提供するとともに、子どもたちとの交流を促進する。			
支援者及び支援組織 秋津川小中学校育友会・秋津川公民館・備長炭公園・炭琴サークル・秋津川町内会					
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)					
①備長炭の学習 ・3～6年生が、備長炭公園を見学した。(6月12日) ・全校児童で備長炭について調べ学習を行い、全国へき地教育研究大会で発表した。(10月19日)					
②炭琴サークルとの交流 ・炭琴サークルの方々の協力を得て、炭琴作りを行った。(5月28日) ・全国へき地教育研究大会で炭琴サークルの方々の炭琴の演奏のもと「炭琴の歌」を歌った。 (10月19日)					
③炭琴演奏 ・全校児童で炭琴を中心とした合奏を全国へき地教育研究大会(10月19日)、郡市音楽会(11月8日)、ふるさとまつり(11月18日)、中学校文化祭(11月22日)で披露した。					
④「おるり音頭」 ・5・6年生が、秋津川公民館長、地域の方から指導を受け(10月23日・26日)、敬老行事で発表した。(10月28日)					

	成 果	課 題
学 校 園	地域の伝統文化である備長炭について学ぶことで、地域の良さを再認識するとともに、子ども達のコミュニケーション力を高めることができた。 備長炭について調べたことを発表したり、様々な行事で、炭琴演奏を披露することで、地域の方々との交流を深めることができた。	年々児童数が減少しているため、従来の活動を続けていくのは難しくなっている。今後の活動内容の検討が必要である。
* 子どもにとって	備長炭について学ぶことで、地域の良さを知り、地域の方々との交流を深めることができた。	児童数が年々減少しているため、個々への負担が大きくなっている。 今後、活動内容の見直しが必要である。
* 子どもにとって	地域の産業や伝統文化を学ぶことで、ふるさとの長い歴史を感じることもできた。また、地域への関心が高まった。 自分たちの学習の成果を地域行事などで披露することができて良かった。	今後も各種行事や地域の活動に積極的にに関わり、住民との交流を深め、ふるさに誇りを持ち、大切にすることをよりいっそう養っていただきたい。
地 域 (公民館)	学習を通して地域住民と子どもたちとの交流が深まった。 子どもたちが学習の成果を地域行事の中で披露するなど、伝統文化が子どもたちに継承されてきている。	少子高齢・過疎化が進む地域ではあるが、今後も地域住民の豊かな知識や経験を子どもたちの教育の場に活かし、地域の活性化につなげていきたい。
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備長炭についての調べ学習を全校児童で取り組み、地域の方々だけでなく他府県の方々に備長炭について発信する機会をもつことができた。 ・炭琴作りや炭琴サークルの方の演奏のもとで歌を歌う機会をもつことで、サークルの方々との交流を深めることができた。 ・子どもたちにとっておるい音頭の継承は、地域の伝統文化を学ぶよい機会である。次年度からは中学年から参加する方向で進めていきたい 		

学社融合活動実施報告

学校名 園名		三栖小学校	公民館名	三栖公民館
学社融合における学校・地域の様子 地域住民は、学校への関心は高く、とても協力的である。「運動会」や「クラブ活動」、「梅干作り体験」などの取組には、保護者、老人会、婦人会など各種団体と連携を図りながら行えている。また、児童は地域の様々な方との交流を通じて、地域への理解が深まり、文化と歴史ある「我が故郷」の愛着と誇りが育まれている。				
活動名		地域と歴史	学年・教科・領域等	5年・6年・総合的な学習
目標	学校・園	三栖地域の歴史についての理解を深めるため、地域を実際に歩き、そこにある史跡を見たり、そこにまつわる説明を聞いたりする。 地域の方に直接お話を伺ったり、質問をさせていただいたりする中で、交流を深め、地域の方々の見識にふれることで、地域に対する愛着と誇りを持たせる。		
	公民館（地域）	学校と連携を図ることにより、地域で子どもたちを育てようとする気持ちを高める。 学校との組織的な支援体制の確立を目指す。		
支援者及び支援組織 公民館文化委員				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>取り組み 三栖の史跡巡り 第6学年(男子31名 女子19名) 日時 11月9日 8時10分～15時 下三栖(三栖廃寺、五郎地藏寺、善光寺、三栖王子、八上王子)</p> <p>第5学年(男子17名 女子24名) 日時 12月7日8時30分～15時 下三栖 中三栖(妙見宮、珠簾神社、伝馬所跡、長尾坂、稻荷神社、大剎寺跡)</p> <p>ねらい 三栖地域の歴史への理解を深めるため、地域を実際に歩き、そこにある史跡を見たり、それにまつわる説明を聞いたりする。 地域の方に直接お話を伺ったり、質問をさせていただいたりする中で、交流を深め、地域の方々の見識にふれることで、地域に対する愛着と誇りを持たせる。</p> <p>活動内容 地域文化委員の方と一緒に、説明を聞きながら地域の史跡を歩く。</p>				

	成 果	課 題
学 校 園	自分たちの住んでいる地域の歴史を知り、地域の方々と交流することができた。	児童が理解できる範囲の言葉や授業のねらいを十分打ち合わせる必要がある。
*子ども にとって	地域の方々と交流することができ、世界遺産である熊野古道が自分たちの住む地域を通っていることを知り誇りに感じた。	6年生以外の学年についても学社融合の取組を計画的に考えていきたい。
*子ども にとって	地域を知り、普段接する機会の少ない方と交流する機会ができた。	より多くの方と触れあう機会を持ち、社会性を身につける。
地 域 (公民館)	地域の人材を学校教育の場で生かすことができ、世代を超えての交流ができた。	今後も公民館と学校が連携を密にしながら活動していくことが大切である。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

本校には熊野古道が通り、史跡なども多く残っている。児童は登校途中など目にはしているが、それがどういうものなのか知っている児童は少なかった。今回の学習を通して、それぞれの史跡がいつ頃のもので、どうして建てられたものかという歴史を学ぶことができた。また公民館文化委員の方が8名程度、また住職さんの協力などを得ながら説明していただいたり、一緒に弁当を食べるなどの交流をすることができた。

今後も「三栖の史跡巡り」を通して、児童に校区の歴史について学べる機会として取り組んでいきたい。



学社融合活動実施報告

学校名 園名	田辺市立長野小学校	公民館名	長野公民館
学社融合における学校・地域の様子			
長野地区は、学校と地域が互いに協力し合って行事を行い、各諸団体との関係を密にし一体となって教育に取り組んでいる。地域の教育力を相互に活用し合い、子どもから高齢者まで共に学び合う環境をつくっている。			
活動名	地域学習「ながの すてきはっけん」「ふるさと発見 梅の里長野」「自分たちでできる防災対策」「サツマイモの袋栽培」	学年・教科・領域等	全学年 生活科・総合的な学習の時間
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の各種団体との連絡を密にする中で、学校と地域の教育力を育てる。 ・地域の方々との交流でコミュニケーション能力を深め、地域を大切にする気持ちを育てる。 ・地域に貢献している人々の生き方を通し、自分の生き方や進路を考える力を育てる。 	
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や公民館が学校行事を支援し、地域と学校との関係を密にして児童の健全育成を図る。 	
支援者及び支援組織 長野公民館 JA紀南長野店 長野小学校育友会			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>本年度の学社融合の取組は昨年度に引き続き、地域に住む多くの人とふれあい、地域の様子や人々の願いを学び、学んだことを地域に発信することを目標に取り組んだ。高学年は、一昨年の災害から安全を守るため、地域の防災について学び発信していった。また、本年度は食育の取組で全校児童による「サツマイモの袋栽培」を行った。</p> <p>各学級での取組の経過は下記の通りである。</p> <p>【1・2年生】◇「ながのすてきはっけん」 ◇ねらい: 地域の人々の仕事やその苦勞、願いを知り地域を大切にする心を育てる。 ◇活動内容: 生活科の学習として、長野地区の自然に目を向けたり、地域の商店や職場を訪れ、仕事について質問したりお話を聞いて苦勞や願いを学び、学習発表会で発表した。 ◇主なゲスト: ミカン農家(森さん) 石川商店(石川さん) 笠松木工所(笠松さん)</p> <p>【3・4年生】◇「ふるさと発見 梅の里長野」 ◇ねらい: 郷土を大切にする気持ちを学び、郷土愛を育てる。 ◇活動内容: 地域の産業である梅作りを学んだ。地域を支えている梅について、JA紀南の方から学んだり、梅農家の仕事や、梅の加工工場を見学し地域を支えている梅について学習し発表した。 ◇主なゲスト: 中田食品(川西さん) JA紀南長野店 谷本さん・桐本店長 峰さん(梅農家)</p> <p>【5・6年生】◇「自分たちでできる防災対策」 ◇ねらい: 地域の防災を通して、命の安全や郷土を見直し環境を大切にしようとする態度を育てる。 ◇活動内容: 地域の方々から防災についてのアンケートをまとめ、出された課題を検証しまとめた。 ◇主なゲスト: 田辺市防災課 宮脇課長</p> <p>【全校】◇食育の取組「サツマイモの袋栽培」 ◇ねらい: 食育を通して、栽培や収穫の喜びを感じその土地にあった栽培方法を知る。 ◇活動内容: JA紀南長野店の谷本さんの指導で、6月に、ひとりひとりと袋ずつサツマイモの苗を植え、12月に収穫した。そのイモを使って全校児童でイモ料理を行い収穫を祝った。 ◇主なゲスト: JA紀南長野店 谷本さん</p>			

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根ざした生き方を学ぶことで、郷土を愛する心を育てるよい機会となった。 ・防災学習は、地域の人にとっては切実な問題であり、児童も取り組むことで地域の一員としての自覚が生まれた。 ・食育の取組では、地産地消の学習を深めるとともに、生産の喜びを味わうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化的な行事での交流や地域の生活や産業についての学習を深めていきたい。 ・地域の課題を知り、子どもなりに解決に向けて考えていけるようにしていきたい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちの仕事や生き方を学ぶことにより地域の人々の苦勞を知ることができた。 ・地域学習を進めることにより社会への関心やより深く学ぼうとする意欲が高まってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に積極的に参加し、地域のすばらしさや暮らす人の願いを学ぶ学習を展開していきたい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人を知らない児童がふれあいの中で自分たちが大切にされていることを実感できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと地域を結ぶ行事を企画し、地域とのふれあいを深めたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちから学ぶことや講師を招いて学ぶことなど積極的な取り組みができていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師として交流していただける地域の人を確保し、学校と公民館が連携した取り組みができるようにしていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

・訪問した方々や学校に来ていただいた方々はどの方も大変協力的で地域ぐるみで子どもを育てていく長野の良さを実感できた。

・地域の人から学ぶことでより深く地域への関心を高めていけた。

・防災について学習したことは、地域の抱えている問題を提起でき、地域に根ざした取組であった。

・食育での栽培活動は、地域の方に指導いただき関心を持って取り組めた。

(次年度に向けて)

・今後の取組として、地域との交流だけでなく、本年度取り組んだ防災学習のように、地域が抱えている問題を子どもたちもともに考えていくという視点に立ち、地域とともに学ぶことも大切にしていきたい。



【5・6年 防災学習の発表】



【全校児童: サツマイモの袋栽培】

学社融合活動実施報告

学校名 園名		伏菟野小学校	公民館名	長野公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>・伏菟野小学校は、平成24年度全校児童7名の小規模校で、保護者世帯数も少なく、地域の方が育友会準会員という形で会費の面でも援助をいただき、児童の見学や遠足等の活動の面で助けられている。</p> <p>・地域の人々は協力的で、校内環境整備作業やクリーン作戦は伏菟野区と学校の共催という形をとっている。</p> <p>・運動会は学校と伏菟野区との共催で実行委員会を組織し、例年多くの方が来校し、にぎわっている。</p> <p>昨年度は台風12号の災害により中止にせざるを得なかったが、今年度は2年ぶりに運動会を開催することができ、約300名余りの方が参加してくださり、たいへん盛会だった。</p> <p>・地域の特色のひとつでもある蛸学習は、地元のシニアマイスター谷口昌氏に指導いただき、年間5回の学習計画で実施している。</p>				
活動名		ふれあい交流会	学年・教科・領域等	生活科・総合的な学習の時間
目 標	学 校 園	<p>・「地域に開かれた学校」を推進し、「学校と地域が共に児童を育てる」という理想を実現する。</p> <p>・学習発表会を計画し、児童のがんばりを保護者、地域の方々に見ていただく。</p> <p>・地域の方を講師に、地域の方々と児童が活動を通して交流する。</p>		
	(地 域) (公 民 館)	<p>・伏菟野小学校の児童と地域の方がいっしょになって取り組むことにより、伏菟野地区の絆をより一層深める。</p>		
<p>支援者及び支援組織 ふるさとコンサート(平尾悠氏・大江祥子氏・地域の方)・人権の花風船(田辺人権擁護委員協議会)・給食試食会(育友会)・陶芸教室(西村修次氏)・長野公民館・長野小・長野中・受付(保護者)・熊野川地域の方の送迎(保護者)</p>				
<p>・「ふれあい交流会」は、学校開放月間である11月の日曜日に、児童と保護者・地域の方々が交流できる中味になるよう工夫して実施している。</p> <p>・今年度は、復興に向けて取り組む地域の活性化と学校の活性化を図るために、従来の「学習発表会」と「陶芸教室」に加え、「ふるさとコンサート」「人権の花風船」「給食試食会」を計画し、実施した。支援者や支援組織も拡大し、より一層内容の充実した交流会になるように取り組んだ。</p>				
<p>「ふれあい交流会」日程・活動内容</p> <p>・日 時 平成24年11月18日(日) 9:20～15:30</p> <p>・日 程</p>				
時 間		内 容		場 所
9:20 ∩	学習発表会 ①校歌斉唱 ②斉唱「メッセージ」「さんぽ」 合奏「エーデルワイス」「里の秋」「ミッキーマウスマーチ」 ③劇「はだかの王様」		体育館	
11:30	ふるさとコンサート(講師 平尾悠氏 大江祥子氏) ①平尾悠さんによる独唱「わたしのお父さん」他 ②大江祥子さんによるピアノ演奏「みかんの花咲く丘」 ③児童と平尾さんとの合唱「山の子の歌」 ④平尾さん・地域の方・児童との合唱「もみじ」「ふるさと」			
11:40 ∩ 12:00	人権の花風船		運動場	
12:10～12:45	給食試食会		体育館	
12:45～13:30	昼休憩			
13:30 ∩ 15:30	陶芸教室(講師先生の制作実演も見せていただく) (講師 西村修次氏)		理科室	

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい交流会に向けて、児童、教職員、保護者が協力しあって取り組んだことは貴重な体験となった。 ・計画的にじゅうぶん練習したことで、児童は自信をもって本番を迎え、当日は大きな声で、堂々と練習の成果を発揮することができた。 ・平尾悠さんや地域の方と「もみじ」「ふるさと」を一緒に合唱し、感動を共有しあうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に計画を立て、目標と見通しをもち、年間計画に基づいて取り組むとともに、児童に主体性をもたせて取り組むこと。 ・児童の実態にふさわしい曲選びや脚本選びをすること。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・全校児童7名と少人数だが、学習発表会の歌や合奏、劇など、どれも練習の成果をじゅうぶん出すことができた。また、多くの方に見ていただき、達成感を感じることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も少人数のよさを生かしながら、チームワークを大切に、協力し合いながら発表会に向けて取り組んでいくこと。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・歌や合奏、劇の発表に向けて、日頃の練習の成果を発揮するとともに、訪れた地域の方を楽しませてくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のよさを生かし、皆が元気いっぱい何事にも取り組んでいくこと。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとコンサートでは、講師の方、児童、地域の方がいっしょに歌を歌ったり、陶芸教室では、共に作品を作ったりとより一層交流を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、伏菟野小学校を核として、児童と地域の方の交流を深めていくこと。

評価及び次年度に向けての取組の方向

<評価>

- ・現在、地域は復興に向けた取組の真っ最中であるが、百数十名余りの方が交流会に集い、劇を見たり、児童と一緒に歌を歌ったり、一緒に給食を食べたりすることを通して、楽しい1日を過ごし交流することができた。
- ・公民館報で参加を呼びかけたり、子どもたちが招待状を配って回ったり、区の役員の方たちが参加を呼びかけてくださったりしたことも、大勢の来場者を迎えることにつながった。
- ・保護者も、交流会の受付や給食試食会の配膳係、熊野川地域の方の送迎などさまざまな役割を担い、学校とともに交流会を盛り上げてくれた。

<次年度の取組みの方向>

- ・今後も、今年度の成果を生かした交流会を実施していく。児童の学習発表や劇、ふるさとコンサート、給食試食会、陶芸教室は多くの方の楽しみにもなっているので、内容をさらに工夫しながら次年度も続けていきたい。
- ・学校と公民館の協力をより密にするため、日頃の交流を大事にしながら、話し合いの機会を定期的にもつ。

ふるさとコンサート



人権の花風船



給食試食会



学社融合活動実施報告

学校名 園名		田辺市立咲楽小学校	公民館名	龍神公民館福井分館・甲斐ノ川分館
学社融合における学校・地域の様子 地域の教育に対する関心は高く、学校に対しても協力的である。各地区の区長、老人会長、女性会代表や公民館分館長、有識者、PTA、学校職員で組織する学校地域連携推進会議を中心に、学校と学区民が連携を図り様々な活動に取り組んでいる。特に、運動会や学習発表会、学校開放の日等には、地域の方々も大勢来校し、児童の様子を見ていただいたり一緒に参加していただいたりして、交流を深めることができている。毎日登下校時に一緒に歩いてくださる方もいる。また、各教科や総合的な学習の時間等では、地域の方がゲストティーチャーとして学校に来て下さったり、児童が校外に出て地域の方の指導を受けたりすることも多い。さらに、学年PTAの活動としても、地域の方を講師に、藍染め、木工、お菓子作り等を保護者と児童がともに学び、楽しんでいる。地域の祭礼には、学区民のお世話で児童も笛や太鼓、獅子舞等、積極的に参加し、児童会で作ったゴミ箱を設置して喜んでいただいている。				
活動名		親子・地域防災学習	学年・教科・領域等	全学年・特別活動
目標	学校・園	児童・教職員が保護者や地域の方とともに、土砂災害や山津波から身を守る方法を学び、学校・家庭・地域全体で防災について考える機会をもつ。		
	公民館（地域）	災害発生時の被害を最小限に食い止められるよう、いろいろな世代にわたり共に防災について学習し、地域住民全体の防災意識を高める。また、災害時における弱者への配慮や人権について、地域全体で考える。		
支援者及び支援組織 学校地域連携推進会議、公民館福井分館・甲斐ノ川分館				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
4月26日 龍神公民館福井分館第1回運営委員会が開かれる。年間計画を立てる中で、公民館主催の人権学習会について検討する。現在地域住民は土砂崩れなどの災害についての関心が高く「防災と人権」について学習してはどうかという意見が出され、学校においても、児童や保護者を対象に「防災に関する学習をしたいと考えていたので、保護者と地域の方が一緒に防災と人権について話をきいてはどうかと提案。子どもも参加すれば、親子で災害発生時の行動等について話し合う機会が持て、公民館にとっても小学生や若い保護者に話を聞いてもらえるのはありがたいという声をいただき、公民館・学校共催での防災学習会の実施を決定する。				
4月下旬 公民館甲斐ノ川分館にも共催を呼びかけ、了解と協力を得る。				
5月 公民館と学校で、学習会の内容や講師、日時等について調整する。公民館より講師依頼。				
6月14日 学校地域連携推進会議で、親子・地域防災学習会について報告し、参加協力をお願いする。				
6月22日 学校から保護者に親子・地域防災学習会の案内を配布する。				
6月下旬 公民館より校区全戸に親子・地域防災学習会のチラシを配布する。				
7月4日 午前中、会場(咲楽小学校体育館)準備。 午後、小学校授業参観日と兼ねて、『親子・地域防災学習』を実施。 ・講師・・・田辺市防災対策課長 宮脇寛和氏 ・土砂災害に関するDVDを視聴した後、土砂災害防止、減災、避難の仕方、日ごろの心掛け、災害発生時の高齢者や乳幼児・障害のある方への配慮等について、お話を聞く。				
9月 児童と保護者あてに『防災フェスティバルIN龍の里』のチラシ・案内を配布し参加を呼びかける。PTA役員会でも協力をお願いする。				
10月14日 『防災フェスティバルIN龍神』において公民館分館単位での競技に、希望児童が参加・出場。				



	成 果	課 題
学 校 園	・学校と公民館で役割分担をし、スムーズに防災学習会の運営ができた。三世代にわたり同じ話を聞くことで、情報の共有をして、親子で、あるいは地域全体で防災について話し合う機会を提供できた。防災フェスティバルIN龍神では、地区全体で学区民とともに防災訓練を行うことができた。	・講師依頼を公民館にお願いしたため、事前に内容をしっかり把握しておくことが難しかった。学校の授業参観日として平日の昼間、しかも大変暑い時期に学習会を開催したので、一般の方にとっては参加しづらかったかもしれない。防災フェスティバルについては、参加児童の調整が必要であった。
* 子ども にとって	・保護者や学区民にも同じ話を聞いてもらうことで、いざというときに大人がしっかり対処してくれるという安心感が得られた。また、地域の防災フェスティバルに参加した児童は、学区民とともにゲーム形式で楽しく訓練ができた。	・幅広い年齢層を対象とした講演会だったため、低学年児童にとってはやや難しい内容だった。地域での防災フェスティバルは任意で一部の児童しか参加できなかった。
* 子ども にとって	・防災学習会は、去年の台風の体験などを中心とした話で、子どもにも「第一に逃げる」など、具体的な行動の仕方をわかりやすく知ってもらえた。防災について家族で考えるよい機会となった。	・子どもがどれだけ理解できるかを考え、時間配分や内容に工夫が必要である。
地 域 (公民館)	・学校の授業参観日を兼ねて学習会を実施したことで、普段参加してもらいにくい若い年代の方にも参加してもらえた。世代を越えた学習会となり、子・親・地域で防災に関して同じ情報を得ることで、共通認識ができ、意識の向上につながった。防災フェスティバルにおいても、地域と子どもたちが防災を通して交流することができた。	・平成23年の台風12号による被害等もあり、台風については、一定の意識の高まりがある。地震や津波についてもより一層意識を高めることが必要である。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・学校と公民館が連絡を取り合い、親子・地域合同の防災学習会を実施して、いろいろな世代がともに学ぶ機会をもつことができた。また、今年度龍神地区で防災フェスティバルが開催され、一部の児童のみではあったが、さらに地域の方々とともに防災について学び、訓練することもできた。防災・減災に関して、学校や児童と保護者・地域が情報を共有しともに考えることは、避けられない自然災害がおこった時に少しでも多くの命が救われ守られることにつながる。来年度も、開催時期、内容や方法を検討しながら、何らかの形で、このような学習会を続け、できれば学校・地域合同の避難訓練が実施できればと考えている。



学社融合活動実施報告

学校名 園名		中山路小学校	公民館名	龍神公民館 中山路分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>本校は、地域の諸団体や地域住民との交流、地域人材や施設の活用、また、地域の活動への参加をとおして、教育目標の達成に努めている。年々の取組により、学校に対する協力や支援体制にも広がりが見られるようになってきた。専門性を生かしつつ、学校が地域住民の活動の場となり生き甲斐の場となるよう公民館ともタイアップして様々な活動に取り組んでいる。</p>				
活動名			学年・教科・領域等	
パステル画体験 せんだんもちつき交流会			全校児童・特別活動・学校行事他	
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方を招聘し、その専門性を生かしてパステル画体験をすることで絵についての関心と技能を高める。 ・地域住民に活動の場を提供すると共に、地域住民と子ども達や教職員、保護者との交流を深める機会とする。 		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域を結ぶ手段として、地域人材や地域諸団体の情報を学校に提供し、地域の教育力を学校の教育活動に生かす。 ・学校と地域、また、地域住民同士のつながりを深める活動や生き甲斐づくりを支援する。 		
支援者及び支援組織 龍神公民館中山路分館・絵本作家やのともこ氏				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>本年度の学社融合の取り組みとしては、龍神公民館中山路分館の協力を得て、地域を知るとともに地域の教育力を活用して教育目標と照らし合わせ、地域の方を講師に招く取組を行った。また、学校の専門性を生かしながら地域の方々に活動の場を提供し、三世代交流の場としての取組を行った。</p> <p>7月11日(水) パステル画体験 (対象)2年生児童・保護者 (ねらい)地域人材の教育力を活用し、親子で描けるパステル画体験を通して絵画への関心と技能を高め、絵の楽しさを感じさせることをねらいとする。 (活動内容)親子によるパステル画体験 (支援者)龍神公民館中山路分館・絵本作家やのともこ氏</p> <p>11月7日(水) せんだんもちつき交流会 (対象)全校児童・保護者・地域住民 (ねらい)過疎化・高齢化により一人暮らしの方も多くなるなか、公民館と協力して地域住民に活動の場を提供し、地域住民同士・保護者・地域と学校の交流をねらいとして、もちつきとぜんざいの試食、ゲームによる交流会に取り組んだ。 (活動内容)小学生・保護者・地域住民による三世代もちつき交流会 (支援者)龍神公民館中山路分館 ・3地区敬老会</p>				
				

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館で講師を紹介していただいたり、学校行事に参画していただくことで、学校との協力関係が密になった。 ・パステルを使った絵画描写について専門的な観点からの指導と体験を受けることで、教師の知識と描写指導の向上になった。 ・クレヨンや絵の具とは違った柔らかなパステル画の特徴を知り、教具に対する認識が深まり、今後の指導の参考になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も公民館とタイアップを図り、地域を知り、地域教材の発掘と地域の人材の確保を意識することが大切である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・親子によるパステルによる描写の楽しさや協同作業の楽しさを体験することができた。 ・講師の先生の絵に対する思いを通して一つのことに打ち込む尊さや苦労など、生き方について保護者と共に考える機会がもてた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や地域の方に目を向けさせ、自分の住んでいる地域のよさに気づかせ、地域の一員としての自覚を持たせる取組を今後も続けたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流を通して、地域の方を知る機会となった。 ・地域の方々と協力することで、地域の一員としての自覚を持つことができた。 ・常に地域の方々を支えられていることを感じる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進み、保護者自身も伝統行事の体験が少なくなってきた昨今、地域の方が講師となり、三世代交流の場を持つ取組を今後も企画したい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年は3地区の敬老会に参加協力を呼びかけたことで、初めて参加していただいた方が増え、学校と地域のつながりを広めることができた。 ・地域の方から職員も教わりながら作業を体験することで、地域の方々とより親密なつながりを持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の施設福祉施設等への訪問交流や地域探検の機会を多く持ち、地域学習の機会を増やしたが、今後も取組を続けたい。 ・公民館主催の行事等への参加についても取組を検討したい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

・公民館と協同して講師紹介をしていただいたり、学校行事に参画していただくことにより、地域の人材を知り、学校と地域の交流がより深まった。また、子ども達の地域を大切にすることを育て、学校や保護者と地域の方々との交流の場となったと考える。


・学習発表会を休日開催にすることで、多くの方に来校いただくことができた。また、地域の方の豊富な経験による教育力や専門的な力を活用した取組を増やすことができた。

(次年度に向けての取り組みの方向)

・学校の専門性を生かしながら、公民館や地域の諸団体と協力して地域住民の活動の場を提供し、地域に貢献できる「地域の学校」となるよう取組を進めていきたい。

・地域を知り、地域人材を活用した取り組みが行えるよう、地域学習、ふるさと学習に取組みたい。

学社融合活動実施報告

学校名 田辺市立上山路小学校		公民館名 龍神公民館丹生ノ川殿原分館・東西分館・宮代分館
学社融合における学校・地域の様子 本年度、本校と公民館・三分館は「地域の教育力を生かした学社融合事業の推進 ～統合校と地域における学社融合のさらなる推進をめざして～」というテーマで田辺市教育委員会より研究指定を受け、本年度から3年間研究を進めることになった。 本年度は、研究初年度として、現在実施している学社融合の各事業の進め方や地域の人材を活用した授業の在り方について検証すると共に、地域の特色を生かした新たな授業づくりについても研究を始めている。今年度の取組の改善点を探り、次年度につなげていきたいと考えている。そして、この研究を進めながら、教職員や地域の方の学社融合への意識をより深め、永く継続的に取り組める新たな形を作り上げていきたい。		
丹生ノ川地域交流授業		学年・教科・領域等 交流授業(5年道徳・6年国語)、交流
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が統合して広くなった校区を知る。 ・丹生ノ川地区の様子を知り、そこに住む地域の方と交流をしながら心を通い合わせる。 ・地域の方と話をすることにより、丹生ノ川地域の文化や歴史、産業について知る。 ・挨拶や言葉づかい等、適切な対応ができる態度を養う。
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と交流することにより、校区の学校としての認識を深める。 ・授業や活動を通して、子どもと触れ合うと共に学校教育を理解する。
支援者及び支援組織 丹生ノ川区・丹生ノ川はてなしクラブ・5年学級PTA・6年学級PTA・校区に在住の丹生ノ川小の元職員		
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)		
7月21日	6年生学年PTA行事で丹生ヤマセミの郷(元丹生ノ川小校舎)を訪れる。その際、保護者からこの校舎で授業を行えたらとの提案が出される。	
9月21日	丹生ノ川集会所にて、区長、はてなしクラブ会長、民生児童委員、PTA、龍神公民館主事、学校とで取組の計画を立てる。	
10月初旬	丹生ノ川地域にビラを配布。区長が各戸を訪問する。校区在住の丹生ノ川小元職員に招待状を送付する。	
10月18日	上山路小学校校区全戸に案内ビラを配布する。	
10月22日	準備機材の確認。 行政局にてダンプを借り、移動黒板、太鼓等を学校より運搬。講堂とミーティングルームを教室に整える。	
10月23日	当日の地域の人の送迎は地域の保護者で行った。 丹生ノ川地域交流授業を実施する。	
10月24日 事後	太鼓、移動黒板等を学校に運搬。机を行事前の状態に戻す。 児童の手紙を地域の方に送付する。	
		

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで出向くことができていなかった丹生ノ川地区で行った地域の方々との交流授業が、子ども達の様子や学校教育を知って頂く機会となった。 ・地域の人が参加する授業づくりを行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、地域の方が参加しやすい展開となるよう工夫する。 ・交流では、ゲーム等の仕方を理解してもらう時間を確保することが必要である。 ・次年度以降も交流授業が続けていけるようにする。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流を通して、目上の人に対する言葉づかいや挨拶など道徳性や規範意識が高められた。 ・日頃の学習の成果を発揮することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の企画に児童も参加させたい。 ・どの子どもも自ら進んで交流しようとする態度を養っていく。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・校区でありながらこれまで交流することができなかった地域の方々とのふれ合うことで、そこに住まわれる方々への関心が高められた。 ・交流を通して、地域への理解が深まり、地域の方々の思いや考えを知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事等へ積極的に参加していこうとする意欲や態度を養う。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や交流を通して子どもたちとの結びつきが深まり、校区の学校という意識を高めることができた。 ・学校と一緒に交流計画を立てることで共に学社融合を進めていこうとする機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターの役割や学校教育を支える体制を強めていく。 ・学校、公民館、地域が一体となった取組を今後も進めていく必要がある。 ・学校、公民館、地域が連携しながら学社融合の授業づくりに積極的に参加する。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

今まで旧宮代小学校、旧殿原小学校に出向くことはできていたが、殿原地区からさらに奥に入った丹生ノ川地区まで出向くことができていなかった。そのため、本年度、丹生ノ川地区にも出向くように計画した。学校から地域に出向き、日頃学校で行っている授業の様子や子ども達の様子を知っていただけるように交流内容を考えた。

5年生の授業では道徳として「手話」の授業を行った。手話を使って自分の名前を表す方法を学び、それを使って地域の方とコミュニケーションを図った。6年生の授業では「短歌」を作る授業を行った。‘楽しいとき’をキーワードにして、各自が短歌を作成し、参加者にも短歌を作ってもらい、発表することによって交流した。その後、アトラクションとして上山路小学校校歌の斉唱と太鼓の演奏を聞いていただいた。すると、地域の方から「丹生ノ川小学校の校歌を歌いたい」という話が出て、さっそく披露していただいた。地域の方の生き生きと歌う姿に感動を覚えた。最後に「豆つかみ競争」と「ジャンケンカード取り」のゲームを行ったが、地域の方の笑顔が印象的であった。

今回の取組で校歌を聴かせていただいた児童から、丹生ノ川の人たちの学校への思いや自分たちと一緒に交流することを心待ちにされていたことを実感できたという声があった。また、敬老のお手紙としてさしあげていた「折り紙でおった鶴と亀」のプレゼントを大切に保管してくださっていたという方のお話も聞くことができた。短歌作りでは、「たのしみは 学社融合 丹生ノ川 清き流れに 昔を語る」という素敵な歌を作ってもらった。今回の交流を心待ちにされていた表れだと思う。

今後もこうした交流を末永く続けていく必要があることを認識した。

学社融合活動実施報告

学校名 園名		龍神小学校	公民館名		龍神公民館 龍神分館
学社融合における学校・地域の様子					
ふるさと龍神の自然や歴史、文化を学び、地域の人々とのふれあいを大切にしながら活動しています。保護者や地域の方々は、学校にとっても協力的であり、今年度の全国へき地教育研究大会での発表に際しては、多くの方からご支援をいただき、盛り上がりのある発表会となりました。2限目の公開授業では、「ぼくとわたしの龍人学」と題して、龍神太鼓や地域の祭りの神楽(笛)、群読「かっぱ」(地域の民話が題材)、地域の歴史などを発表しました。龍神太鼓や神楽の笛の演奏、地域の歴史を地域の方から教えていただきました。					
活動名			学年・教科・領域等		
ぼくとわたしの龍人学:伝承文化編			全学年・生活科・総合的な学習の時間		
目標	学校・園	・龍神地区(皆瀬神社)に伝わる祭りの神楽にふれ、地域の伝統文化のよさを味わう。 ・地域に伝わる文化を学び、文化を継承してきた人々の思いを知り、ふるさと再発見につなげる。 ・ふるさとのよさを見つけ、ふるさとを誇りに思い、ふるさとを愛する心を育てる。			
	公民館(地域)	・地域の文化にふれ、地域文化を大切に、地域文化を継承する担い手の意識を育てる。 ・龍神地区の祭礼を地域の一員として尊ぶ姿勢を培う。 ・ふるさとを愛し、ふるさと(社会)とかかわりをもとうとする心を育む。			
支援者及び支援組織					
保護者・地域の方々					
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)					
①篠笛作り 千葉浩志氏より、篠笛の作り方の指導を受け、3年生から6年生までの12名で篠笛を作った。手作りの笛で神楽(笛)の演奏に取り組んだ。将来は、この笛で祭りに参加できる。 ・5月8日 竹の皮むき、穴あけ ・5月14日 笛の内側の色ぬり ・5月23日 吹き口まで粘土を詰め、色ぬり ・5月23日 吹き口の方の穴に栓をし、色ぬり ・6月1日 笛を磨いて、カシューを塗る ・6月5日 糸を巻き、笛の補強 ・6月14日 ひもを通して完成					
②龍神太鼓・神楽(笛) 小谷博史氏より、龍神太鼓や龍神地域(皆瀬神社)に伝わる神楽(笛)を学んだ。龍神太鼓は全学年で取り組み、神楽(笛)については3学年以上で取り組んだ。のべ9日間、指導を受けた。 7月24日 7月26日 9月6日 9月20日 9月27日 10月4日 10月9日 10月11日 10月16日					
					

	成 果	課 題
学 校 園	<p>地域に伝わる伝統芸能を地域の方から直接学ぶことで、地域の方の思いを肌を感じる事ができ、児童の取り組む姿勢にも真剣さを感じ取る事ができた。</p> <p>学校の教員が教える事のできない地域の文化や篠笛づくりを教えていただくことができ、学校と地域がつながり生きた教育になっていることを実感した。</p>	<p>全国へき地教育研究大会で発表するという大きな目標があったので、教職員と児童が一致団結して取り組むことができた。そこでの発表の成果が自信と誇りにつながっている。</p> <p>今後は、それに変わる発表の場をいかに設けることができるかが課題である。発表は、学校内にとどまらず、積極的に地域に出向いて発表することも必要だと考えている。</p>
* 子どもにとって	<p>地域の伝統文化(龍神太鼓、祭りの神楽)を学び、ふるさとの文化のすばらしさを味わうことができた。</p> <p>また、学んだことを様々な場で発表することで、自信にもつながり、活動への意欲付けとなった。</p>	<p>活動に要する時間数にも限りがある。その中で時間を工夫し、今後も活動をどう継続させていけるかが課題である。</p>
* 子どもにとって	<p>地域の方の思いにふれながら、伝統文化を学ぶことができた。龍神太鼓や神楽(笛)を体得したことや手作りの篠笛は、大きな財産となった。</p>	<p>これらの活動を通して、より多くの人とふれあうことができるようになればすばらしいと思う。子どもたちの活動の様子を地域の方に見てもらえるような場を作り、多くの人から盛り立ててもらえるようにしたい。</p>
地 域 (公民館)	<p>小学校高学年になると祭りの担い手として地域の祭礼に参加している。学校と地域が共同で地域の伝統文化を支えることは大切なことである。子どもたちもそういった伝統文化に対する意識の高揚を図ることができた。</p> <p>また同時に教職員も地域の伝統文化に対する認識を深めることができた。</p>	<p>皆瀬神社の祭礼が近づくと子どもたちは、各地域の会館に集まり練習をしている。学校と地域が連携して、教育活動の一環として、学校で取り組むことができれば、地域にとってもうれしいことだと思う。互いにメリットのある活動にしていくことが大切だと考える。</p>

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

今年度は、全国へき地教育研究大会での発表の年でもあり、児童・職員とも取り組む姿勢にはなみなみならぬものがあった。発表を無事終えた時には、児童とも職員もやり遂げたあとの充実感でいっぱいになった。同時に今後の活動への大きな弾み(やりがい・意欲)をつけることができた。また、全国へき研で発表するということから、保護者や地域の方から大きな支援を受けることができ、今までにない新たなつながりが生まれたようにも感じた。

若者が少なくなり、子どもたちの力を借りないと祭りを運営することは難しいという状況が出始めている。そうした地域の現状を克服するために、小学生低学年から地域の伝統芸能にふれ、地域の伝統を学び、地域文化の担い手としての意識を育てることに大きな意義があるように思う。

今回、子どもたちが作った篠笛は、地域の方も祭りで使っている立派なものである。自分の笛を持つことは、いつでもどこでも練習ができ、神楽(笛)に対する愛着を持つことができた。

今後も活動を継続し、今まで以上に地域の人とのふれあいを深め、地域と学校が互いにメリットのある内容にしていきたい。

(昨年の報告での実現目標であった「梅干し」は、子どもの手作りシールを貼ったバック詰めにして龍神小学校梅として、全国へき研で配布した。「お茶」については、参加者のみなさんに昼食時に飲んでいただいた。)



学社融合活動実施報告

学校名 園名		栗栖川小学校	公民館名	中辺路公民館 栗栖川上分館 栗栖川下分館
学社融合における学校・地域の様子 ・豊かな自然の中で、地域の方々や保護者に見守られ、育まれ、子どもたちは明るくのびのびと学校生活を送っている。 ・開かれた学校を心がけ、地域の方が学校に訪れて頂ける様々な行事を計画し、子どもたちが頑張っている姿を見て頂いたり、共に活動することでふれあい、協働の機会を持てるように努めている。 ・学校が学習内容から要望する学習支援者を公民館に伝え、公民館が地域の中で、要望に添った人材をさがし学校に紹介する。授業者は、紹介頂いた学習支援者(AT:エリア・ティーチャー)と授業について、事前打ち合わせをする。				
活動名			学年・教科・領域等	
「ふるさとガイドブックを作ろう」			6年国語科「ガイドブックをつくろう」	
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと学習を充実させる。 ・「ふるさとを知り、ふるさとを誇りに思う子」を育てる。 ・子どもたちの元気、学びの成果を地域へ届ける。 ・地域の方の支援を頂き、協働体験を通して、子どもたちと地域の方のふれあいを深める。 		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館は、地域の学習支援者(エリア・ティーチャー)を探し、学校と地域の橋渡し役をする。 ・公民館は、学校でのふるさと学習について、学校との共通理解を大切にしつつ、地域の学習支援者の授業支援について、公民館として可能な支援体制をとる。 ・地域の歩みや文化を子どもたちに伝え、ふるさとを誇りに思う子の育成に務める。 		
支援者及び支援組織 学習支援者(AT:エリア・ティーチャー)・・・公民館から紹介された地域の方				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) ・「ふるさと学習」の充実に向けて、授業者と地域の学習支援者(AT:エリア・ティーチャー)が授業について事前の打ち合わせを大切にして取り組んできた。学習支援者はそれぞれの地域のかつての小学校卒業生の方。				
1学年 生活科「がっこうをしらべよう」 めあて「学校のふしぎをみつけよう」 学習支援者と担任の打ち合わせ 5/28、6/6、6/9、6/18 授業の事前研究 6/18 研究授業及び事後研究 6/20				
2学年 生活科「学校をとびだそう」 めあて「友達の住んでいる地域に関心を持とう」 学習支援者と担任の打ち合わせ 6/8 授業の事前研究 6/11 研究授業及び事後研究 6/13 学校の周辺地域探検 6/15、6/27				
3学年 総合的な学習の時間「知らない町へバスツアー(西谷・石船)」 めあて「校区の地域について発見しよう」 学習支援者と担任の打ち合わせ 10/11、10/19 授業の事前研究 10/17 研究授業及び事後研究 10/24 地域探検 10/16				
4学年 総合的な学習の時間「ふるさとを知ろう(北郡)」 めあて「閉校した学校の校歌を調べよう」 学習支援者と担任の打ち合わせ 12/4、 授業の事前研究 11/28 授業 12/14 研究授業及び事後研究 1/15 地域探検 12/11				
5学年 家庭科「おいしいね毎日の食事」 めあて「地域の方から調理の知恵を知ろう」 学習支援者と担任の打ち合わせ 10/15、10/29 授業の事前研究 10/17 研究授業及び事後研究 10/31				
6学年 国語科「ようこそ私たちの町へ(西谷・石船)」 めあて「ふるさとガイドブックを作ろう」 学習支援者と担任の打ち合わせ 11/9 授業の事前研究 11/7 研究授業及び事後研究 11/13 11/14 地域探検 10/19				

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと学習を充実したものにできた。 授業者が学習の意図、ねらいをより明確にする授業作りに取り組んだ。 学習支援者に授業に入って頂く前に、授業者と学習支援者とが打ち合わせをていねいに実施したことで、授業の中での支援者の役割が了解できていて、授業の充実に大きな効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 広域な校区において、6年間を通したふるさと学習をより充実させるには、どうすればよいかを検討し、具体的な年間学習計画を作成することが課題である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方に学習支援で授業に入って頂くことで、細かなことでも質問に答えて頂くことができ、「ふるさとガイドブックを作ろう」の学習に意欲的に取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ガイドブック作りに向けて、正確で多様な文章表現力をつけておきたい。 「見やすい、きれい、目立つ」といったガイドブックに必要な要素について、読む人の視点からの感覚を身に付けたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと学習を通して、地域への知識が深まり、地域の方のふるさとを思う気持ちを感じることで、自らのふるさとへの愛着が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 校区にたくさんの集落があるが、学習の時数の関係で学習対象とする地域に限られる。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> 学校が要望する学習支援者を地域から探し、授業充実に協力できた。 子どもたちと学習支援者の方との心の交流も促進された。 ガイドブック作りの学習を町文化祭で発表したことで、地域の良さ、文化的財産を校区の大人の方も再発見できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館は、学校と地域人材の橋渡し役として、地域人材の情報をつかんでおくことが今後も大切である。 学校と公民館がきめ細かい打ち合わせをすることを、今後も大切にしたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

ふるさと学習のために学習支援を頂く地域の方と担任が、事前に打ち合わせをして授業に臨んだことで、充実した授業にできた。学習支援者の方からも、「地域のことを学び直す機会になった」という感想を頂いた。次年度も、今年度の取り組みを継承し、充実したふるさと学習にしたい。

＜石船、西谷両地域の学習支援者と担任が授業に入る前の打ち合わせをした。＞



＜6年「ガイドブックをつくろう」の授業に学習支援者の協力を頂いた。＞



学社融合活動実施報告

学校名 園名		田辺市立二川小学校	公民館名	中辺路公民館 二川分館
学社融合における学校・地域の様子 核家族の増加や情報社会の浸透など社会の急激な変化の中で、生活のゆとりや、人と人との心のつながりが希薄になってきている。私たちの地域でも、過疎化、高齢化、少子化が進んでいる。そうした中でも、学校の運動会や文化祭は地域ぐるみの取組みとして、地域の各団体の協力を得て毎年行っている。				
活動名			学年・教科・領域等	
クラブ 運動会、文化祭			全校・特別活動	
目標	学校・園	1 芝生化された運動場で競技や演技を行う。また、運動会、文化祭を通じて技能を高めていく。 2 地域の消防署の方にお越しいただき、防災について学ぶ機会を設ける。 3 地域の方と一緒に作業したり、交流する中で、地域の様子や文化について学ぶ。		
	公民館（地域）	・地域の独自性・主体性を大切に、円滑に取り組むことができる環境づくりに努める。 ・家庭・学校・地域のあらゆる教育機能を活用して、事業の効果的な実施に努める。		
支援者及び支援組織 二川小学校教育後援会、二川地区老人会、二川女性会、川合町内会、大川区、福定区、内井川区、小松原町内会、温川区、高原町内会、二川子どもクラブ、公民館二川分館				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
【運動会】 9月16日(日) 7月27日(金) 二川地区運動会実行委員会 運動会の日程、内容、分担などについて協議 (二川小学校、育友会、公民館分館、公民館協力委員、二川女性会、二川地区町内会・各区・老人会) 9月16日 運動会				
【文化祭】 11月4日(日) 9月28日(金) 文化祭実行委員会 文化祭の日程、内容などについて協議 (二川小学校、育友会、公民館分館、公民館協力委員、二川女性会、二川地区町内会・各区・老人会) 11月4日(日) 文化祭 開会式 保護者によるリサイクルバザー 餅つき(児童が餅つき体験) 児童のコーナー 地域の方の作品を展示 学習発表(児童による地域の民話読み聞かせ、劇、歌やダンス) 育友会によるビンゴゲーム、出し物 職員の出し物 閉会式・餅まき				
【防災教室】 11月22日(木) 地域の消防署の方にお越しいただき、防災について学ぶ。				
【グラウンドゴルフ大会】11月21日(水) 地域のお年寄りといっしょにグループを組み、やり方や点数の付け方など教えてもらいながら、グラウンドゴルフを行う。				
【白百合ホーム訪問】11月30日(金) 老人ホームで、劇や歌などの発表をしたり、老人の方といっしょに握手をしたり、歌を歌ったりしてふれあう。				

	成 果	課 題
学 校 園	<p>児童数が少ない中で、運動会や文化祭は地域の協力を得て実行委員会形式で行っている(運動会は地区運動会として実施)。</p> <p>文化祭では、地域の方々の作品出品や保護者によるリサイクルバザーも開催できた。児童のコーナーで、プラバンづくりやゲームなどを子どもたちが自主的に計画、運営できた。</p> <p>本年度は、運動会や文化祭だけでなく、クラブにもゲストティーチャーに来ていただいて、指導していただいた。</p>	<p>子どもたちの活動を進めていくための、時間確保(時数確保)や準備などの工夫が必要。</p> <p>地域の方々の高齢化が進み、文化祭での「野菜の朝市」や「作品展」については、開催が難しくなっている。</p> <p>地域ネットワークを活用した取組みを継続させていくことが、今後の課題である。</p>
* 子ども にとって	<p>子どもたちは、芝生の上で裸足になったり転んだり、草の感触を味わいながらのびのび活動している。運動会・文化祭ともに、普段の練習の成果を十分に発揮できた。また、地域の方と一緒に活動したり、交流することによって、地域の方々とのつながりをさらに深めることができた。</p>	<p>子どもたちの自主的な活動や地域と結びついた学習活動をもっと進められるよう工夫していくこと。また、ゲストティーチャーの利用等、地域を活用した学習を考えていくこと。</p>
* 子ども にとって	<p>子どもたちが地域の方々と一緒に作業をしたり、ふれあい、交流することで、地域と子どもとの関係を深め、地域の中の子どものたちを見守る目を増やすことができた。</p>	<p>・子どもたちが、地域の方とのふれあいや交流をすすめていけるよう、公民館(二川分館)と地域が一緒になって考えていかなければならない。</p>
地 域 (公民館)	<p>・二川小の運動会や文化祭は、学校を中心として公民館(二川分館)・地域とが一带となって取り組んできた行事であった。また、クラブや授業などに地域の方々にゲストティーチャーとして来ていただいたり、伝統芸能を教えていただくことで、地域ぐるみで子どもを育てていくことにつながっている。</p>	<p>・学校・地域・公民館(二川分館)が連携して取り組んできた運動会、文化祭等で地域の方々が集う場が、難しくなってくる中で、公民館(二川分館)として地域の方々が集う行事等が今後の課題としてあげられる。</p>

運動会や文化祭は、地域ぐるみの行事として定着してきている。本年度も、公民館分館をはじめ、地域の様々な団体の連携で、開催できた。

こうした取組みを進めてきたことで、学校が地域の中の学校として位置づけられている。また、文化祭は、地域の方々も参加して、作品展やリサイクルバザー、発表など様々な文化的活動を行うことができ、大変有意義でもある。

運動会や文化祭が学校と地域、あるいは子どもたちと地域をつなぐ行事であるとともに、地域の方々の交流の場としても大きな意義を持っている。

児童数の減少や地域の方々の高齢化が進む中で、運動会や文化祭は従来どおりの形での開催が難しくなっている。内容を工夫し精選していくとともに、地域ネットワークの活用をさらに進め、統合後も学社融合の取組を深めたい。

学社融合活動実施報告

学校名 園名		田辺市立近野小学校	公民館名	中辺路公民館 近野分館
学社融合における学校・地域の様子				
年間を通しての諸行事の中で、保育園、小中学校、公民館、校区の諸団体との連携を図るため、代表者による実行委員会を設置し、諸行事を運営していくことで学社融合の取り組みを進めている。地域の方々は大変協力的で、子どもたちとも積極的に触れあってくれ、その触れあいを喜んでくれている。さらに、地域や公民館との連携を充実させ、学社融合をめざして取り組みを進めていきたい。				
活動名		地域の人々との交流学习		学年・教科・領域等 全学年 生活科・総合的な学習等・特別
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や人々とのふれあいを深める。 ・自然に親しみ、体験することで自然の偉大さを知り、自然環境の保全を学ばせる。 ・地域学習を通して、地域の産業や文化・伝統にふれ、郷土に誇りを持つ児童を育てる。 ・学社融合を推進して、学校・家庭・地域の教育力の向上を図り、特色ある教育づくりに努める。 ・学校の様子を保護者や地域に広く公開し、意見を聞き、開かれた学校づくりを行う。 		
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の独自性・主体性を大切にし、円滑に取り組むことができる環境づくりに努める。 ・家庭・学校・地域のあらゆる教育機能を活用して、事業の効果的な実施に努める。 		
支援者及び支援組織				
保育園、中学校、PTA、近野振興会、JA女性会、野中果無寿会、地域住民、中辺路森林組合、日置川漁協				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>① 学校行事と地域との関係 児童会が主体的に計画・運営し、地域の方々を招待し集会を開催。七夕集会、節分集会(2月予定)高学年による高齢者介護施設「グループホームちかの」への交流訪問。</p> <p>② 郷土文化に親しむ 近野獅子舞団の方々に講師を依頼し、全児童が県無形文化財「野中の獅子舞【道中】」の笛・太鼓を練習する。全国へき地教育研究大会全体会アトラクションとして、獅子舞団と児童が共演する。</p> <p>③ ふるさと学習 生活科・総合的な学習に体系化されたふるさと学習の推進。語り部団体「瓢探古道」に依頼し、古道学習を実施。日置川漁協に依頼し「アマゴの放流体験」を実施、また中辺路森林組合からの依頼により「JTの森」に参加。地域の方の協力により、田植え・稲刈り体験を実施。近野地区敬老祝賀会にて、全校児童が野中の獅子舞「道中」を笛・太鼓・獅子舞で演舞。(10月6日)</p> <p>④ 近野区民体育祭 実行委員会の結成、9月23日実施。保育園、小中学校、保護者、JA女性会、7地区の住民の参加</p> <p>⑤ 近野フェスティバル・文化祭 第15回近野フェスティバル・文化祭を11月25日(日曜日9:00~14:30)に実施 実行委員会を設置し、小中学校が主体的に取り組む。地域住民の方々に協力・支援を依頼する。学校開放月間に係る学校開放行事の一つに位置づけ、保護者・地域住民が集う学校づくりを推進する。小中学校の音楽・学習発表、保護者・地域の方々との交流ゲーム(小学校)、交流ゲーム・模擬店(中学校)コーラスグループ「シングカンパニー」による合唱披露、保護者による昼食提供、JA女性会の野菜即売会の実施。公民館近野分館と連携し、地域住民の方々に作品の出品を依頼し、同会場で文化祭を開催。</p> <p>⑥ クラブ活動 後期クラブ活動において、地域の方々に指導の依頼をし、3活動に計7名の協力を得た。</p> <p>⑦ 第40回近野山間マラソン大会 社会体育活動の一環として、実行委員会主催による地域ぐるみで取り組むマラソン大会を3月20日に予定。</p> <p>⑧ 広報活動 毎月1回「学校だより」を発行し、月初めに全戸配付を行っている。</p>				

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に住む多くの方々が様々な行事に参加してくれたことは、より一層の学校理解につながった。 ・県の無形文化財に指定されている郷土の文化「野中の獅子舞」を支える近野獅子舞団の方々から指導を受け、笛・太鼓の練習を重ねることは、郷土を愛する態度を養い、文化を継承する大事な取り組みとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第15回近野フェスティバルは、たくさんの方の支援・協力で盛大に執り行うことができた。しかし、地域の特定の方への負担が大きいことが依然課題として残っている。また、今年度行った広報方法だけでは不十分であるということが、地域に住む方々からの情報で分かったので、来年度は新しい広報手段を取り入れる必要がある。 ・地域からの情報提供等により新しい行事や取り組みを行うことは地域との関係を深めるためにはとても大切ではあるが、授業時数との関係から全体の行事の精選に努めていかなければならない。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、全国へき研という大舞台での発表、敬老祝賀会に出演、グループホームちかの訪問、アマゴの放流体験、ジュニア語り部体験(3学期予定)など新たな取り組みを行い、さらに郷土の理解や郷土の自然との触れ合いを深めることができた。 ・少人数ではあるが、公民館の活動にも積極的に参加してくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流等の取り組みを行った場合、お手伝いをいただいた地域の方々に対する感謝の気持ち、奉仕やボランティアの精神を忘れないように注意して指導していきたい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館(近野分館)を中心として、学校・地域が連携して、近野区民体育祭、近野フェスティバル、近野山間マラソン等の取り組みは地域あげての活動として定着しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館(近野分館)の行事活動について、子ども達により理解を深めて貰えるよう広報活動をしていきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館(近野分館)を中心として、学校・地域が連携して、近野区民体育祭、近野フェスティバル、近野山間マラソン等の取り組みは地域あげての活動として定着しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が増えている中で、このように地域の方々が一気に集う行事が、地域のコミュニティとして大変必要になってきますので、公民館として今後もより一層の協力体制を築いていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・本校の教育活動は、地域の方々の協力、援助におっている部分が非常に大きい。そのためにも、地域に出向いたり、来ていただいたりして、確実に学校の様子を伝えるなど、より一層開かれた学校作りに努めていかなければならないと考える。

・今年度新たな取り組みとして、敬老祝賀会への出演、地域の高齢者介護施設訪問、地域の方々のクラブ活動指導という3つの取り組みを行った。それぞれの活動において地域の方々には好評であったので、単年度の取り組みに終わることなく継続的に実施していきたい。

・交流・体験学習としての「七夕集会」では、高齢の方々とはふれあい、楽しく交流できたが、地域の参加者が数名であり、しかも毎年特定の方だけになりつつあるが、大切な行事として今後とも取り組んでいきたい。

・緊急時の避難場所としての役割を果たすためにも、引き続き地域とのつながりをより一層緊密にしていきたい。



・今年の近野区民体育祭は、初日雨天延期になり、1週間後の開催となった。その日も雨となり体育館開催となった。午後からは天気も回復し、芝生で行うことができた。1日を通して200名近い参加者があり、地域あげての大運動会となった。しかしながら、予備日開催の場合は、雨天でも体育館で行うという情報が伝わっていなかったため、開催を知らなかったという方もいたということである。この行事は、近野地域の世代の方々と一緒に会える大変重要な場として位置づけられているので、今後とも情報提供には十分配慮していかなければと反省した。

・近野フェスティバル・文化祭は、前述の体育祭と共に、当地域における大変重要な行事であるので、課題等を改善しながらより一層充実したものになるよう、地域学校が協力して進めていきたいと考えている。

なお、フェスティバルでは、毎年小中のプログラム順が同じであるため、観客数に毎年差が見られるという意見が新たに出された。あらゆる角度から行事の見直しを図ることの重要性を再確認した。

・今年度から新たに行事の運営面で中学校との協力・連携のために、担当者会議を設定したが、なお課題が見られたため、来年度からは全職員による合同会議を行うことになった。

学社融合活動実施報告

学校名 園名		鮎川小学校	公民館名	大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子 当地域は田辺市街地および上富田町に勤務する人々が多く在住しており、児童の保護者世帯も共働きで核家族が多い。 集合住宅に入居している児童の割合も高く、子育て世代同士が隣近所に集中して暮らす良さがある。その反面、中高年や熟年世代の暮らしとは交流が少なく、近所にすむ大人を知らないと言う児童や、顔は見知っていても挨拶や言葉をかかわす習慣がないという児童もいる。 町内会としての活動で、年に一回の余暇行事などに参加する世帯はあっても、世代を越えて同じ勤労的な共同作業をするという機会は減多にないという現状がある。				
活動名		大塔リフレッシュ大作戦(ATOM学習)	学年・教科・領域等	全学年・学活・総合的な学習
目標	学校・園	ふるさとを愛する心をはぐくみ、自発的に学び考える力や社会の変化に柔軟に対応できる力を培う。 お互いの個性を認め合うためのコミュニケーション能力を高め、自己実現に向けて努力しようとする態度を育てる。		
	公民館(地域)	・地域住民が、児童・生徒との清掃活動を通し、地域の恵まれた自然環境を見つめ直し、その保全に努めるとともに、子どもたちとふれあう機会をもつことで、地域の子どもは地域で育てるといふ気運を高める。		
支援者及び支援組織 大塔公民館、大塔行政局、大塔自治連絡協議会、大塔老人クラブ				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のポイ捨てや不法投棄について調べ、ゴミの種類、環境に与える影響、ゴミを出さないような工夫を考える。 ・地域の人々に呼びかけ、計画を立てて、一緒に清掃活動をすることによって、みんなで協力する大切さを知る。 ・小中一貫教育の主旨を体現し、大塔地区の1年生から9年生まで全員が集まり交流する場とする。 				
8/24	ATOM部会①			
9/3	ゴミリサーチ			
9/26	グループ分け・説明・データ整理・冊子作成			
10/1	ATOM部会②			
10/22	公民館との打ち合わせ			
10/25	ATOM部会③ リーダーと担当者との打ち合わせ			
11/14	大塔リフレッシュ大作戦 説明会・班会議・清掃活動・反省会 (燃えるごみ12袋 プラスチックごみ28袋 資源ごみ16袋 埋め立てごみ15袋)			
				
				

	成 果	課 題
学 校 園	保護者のアンケートの結果からも、この活動については肯定的な意見が大半で継続を願う声が多い。その理由として協力することで将来に役立つし、活動を通して学び取ることが多い・自分の地域をきれいにすることの大切さが身につく・自らゴミを拾い整理するという事で自分もポイ捨てをすることが減る・この地域ならではの行事であり、地域とのつながりに期待する・生活にも良い影響がある等の意見が多い。	・当日に至るまでの打合わせは綿密に行えているが、事後の反省会が十分でない。班会議の仕方や時間が統一できていなかったりしたので、計画表にもっと詳しく表記する。 ・子どもたちに出発前の集合のときに地区名を書いたプラカードを持たせれば学校に集合してくれた地域住民も合流しやすい。
* 子ども にとって	この活動のほかにも、小中一貫教育の成果として、クラブ見学や選択交流学习を通して中学校生活への事前認識が深まることで、6年生にとっては安心感を持って中学校に進学できる。	各班が集めてきたごみの総量などを視覚的にもわかるように示し、活動の成果を子ども自身にもフィードバックさせる必要がある。また、ごみを捨てないことの方が大切であることを理解させる。
* 子ども にとって	・地域の大人たちと協力して活動することで社会性を育み、また自分たちの住んでいる地域を清掃することで自然環境を見つめ直し、日頃、気づかなかった新たな発見をする機会となった。	・地域の恵まれた自然環境を大切にするという意識を育むとともに、より多くの地域住民と交流を図っていくことで、地域づくりへの参加につなげていく。
地 域 (公民館)	・地域によっては、小中学生のいない地域もあり、住民にとっても子どもたちと交流できる喜びを感じるとともに、これからの地域を担う子どもたちにいろいろなことを伝えていきたいという思いが高まっている。	・地域の各種団体に協力いただいているが、平日に行っていることもあり、参加者が限られている。多くの地域住民に参加いただくための工夫も必要となってくる。また、活動の打合わせ等にも地域住民の参加が望まれる。
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <p>・9年生(中学3年生)のリーダー性を育てるのにより取り組みとなっている。 小学校の教員でその生徒を小学校時代から知っている者からも「あの子がこんなに成長した」という感想が多い。 自分自身も小中一貫教育の中で育ってきた保護者からは、縦のつながりを持つことや活動を通して新しい発見や気づきがあったという声がある。</p> <p>・こうした清掃活動などの地域環境への貢献のほかにも、保育所・高齢者世帯など災害弱者をも視野に入れた地域防災の連携を深める取り組みを模索してはどうか。 まずはその中核にこれまで続けてきている小中一貫教育を据え、中学生が、小学校低学年をフォローしながらの避難訓練などを試行してみることなどを検討したい。</p>		

学社融合活動実施報告

学校名 園名		三川小学校	公民館名	大塔拠点公民館・大塔公民館三川分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>本校は、伝統的に地域の協力を得ながら学校行事等を行っている。また地域には、障害者支援施設「あすなる木守の郷」や高齢者の福祉施設、児童擁護施設「くすのき」がある。これらの施設との交流も視野に入れて学社融合を行っている。授業にも地域の方に関わってもらい、「ふるさと学習」を進めている。特に毎年11月に開催される「三川地域お楽しみ会」は、地域と学校が一体となった取組になっている。</p>				
活動名			学年・教科・領域等	
ふるさと学習			全学年・生活科・総合的な学習 ・各教科・道徳・特別活動	
目 標	学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者や大人の方と交流することで、地域の伝統や文化を学ぶ。 ・児童の様子を見てもらうことで、学校教育や児童への理解を深めてもらう。 ・保護者や地域の方と一緒に取り組むことを通してふるさとを愛する豊かな心を育てる。 		
	公 民 館 (地 域)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童との交流を通して、地域で子どもを育む意識を向上させる。 ・児童との交流を通して、活力や希望を持って生活する。 		
支援者及び支援組織				
三川小学校PTA・PTAOB・大塔公民館・大塔公民館三川分館・区長会・老人クラブ・ボランティア協会等				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
『ねらい』 ふるさとを誇りに思い、自慢することのできるよりよい社会を作りだそうとする子の育成				
『活動と内容』				
○山菜採り ・5月11日(金) ・1～4年生が、竹ノ平地区の山で竹の子ほり・山菜採りを体験する。				
○米作り ・田植え 5月28日(月)・稲刈り(9月21日) ・5・6年生が、面川地区の田んぼで、田植え・草引き・稲刈りなどの仕方を教えてもらい、世話をしながら米ができるまでの様子や苦労について学ぶ。				
○「匠の森」 下草刈り ・6月13日(木) ・関東地方の建設業者さんの組合「匠の会」が田辺市の業者さんとともに、日本の木材のよさを広めることを目的に取り組んでいる活動に全校児童で参加。保平地区の山林にて実施。				
○芋ほり ・10月30日(火) ・1～4年生が木守地区の畑で、芋ほり体験をする。				
○しめ縄作り ・12月20日(木) ・地域の方からしめ縄作りを教わり、全校児童でしめ縄を手作りする。				
○地域探検 ・1、2学期 ・1・2年生が、診療所や連絡所、駐在所、郵便局等を訪問し、働く様子の見学や交流を通して地域を知る。				

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが地域を知り、地域の高齢者の方や地域の方との交流を深めることができた。また、地域の方々に子どもたちの様子や学校教育について理解していただく機会になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが自分の住んでいる地域に関心を持ち、積極的に関わっていけるような取組を工夫する。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域の生きた知識を学ぶ機会になった。 地域の方と一緒に活動したり交流したりすることを通して、地域の方々とのつながりをさらに深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ふるさと学習」や学校行事での交流を日常的なつながりへと発展させていく
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方との交流が深まり、地域へ親しみや愛着を持てるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館や地域の取組(行事)に積極的に参加していく。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> 竹の子ほりや芋ほりなどのふるさと学習は、高齢者や地域の方にとって、子どもたちと交流する大切な場となっている。 子どもたちと一緒に活動することは、高齢者や地域の方の喜びや活力につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と共に「児童を育てる」という観点に立ち、今後も学校と地域のつながりを大切にしてい

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

本校では、様々な教育活動を通して、学校と保護者、地域の連携に努めてきた。地域の方や高齢者の方が学校教育に関わることで、学校への理解が深まり、活動に積極的に協力していただけるようになった。また、授業を参観していただいたり、学校の取り組みについて評価していただいたりすることにより、学校を身近に感じてもらえていると考えている。児童数の減少、保護者数の減少が進む中で、公民館や地域の方々の支援と協力により、学校教育活動を円滑に進めることができるよう、さらに連携を強めていくことが大切である。

「ふるさと学習」は、子どもたちが地域に目を向けたり、地域の良さを感じたりするよい機会になっている。今後は、地域行事への意識をさらに高め、もっと日常的に地域の方との交流が深められるような取組を工夫していきたい。



学社融合活動実施報告

学校名 園名		田辺市立 富里小学校	公民館名	大塔公民館・富里分館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>地域の自然や文化に触れるため、諸施設や関係機関に積極的に協力を求めたり、地域の方を講師として招聘したりするとともに、地域の行事などに積極的に参加していくなど、社会教育との連携を深めるように努力している。</p> <p>公民館、保育園と運動会などの行事等を共催したり、後援をいただいたりしている。地域の方々も協力的で、様々な活動に支援をいただいている。</p>				
活動名		ふるさと学習	学年・教科・領域等	全校児童・ 全教科・総合・特別活動等
目 標	学 校 ・ 園	<p>秋季運動会等での縦割り班活動を利用して、学年を越えた協力や助け合い、役割分担を身につけさせるとともに、自主的に活動できる子どもを育てる。</p> <p>また、教材として地域の人材や環境を取り入れることで、ふるさと教育を推進していく。</p>		
	公 民 館 (地 域)	<p>地域住民が、学校の授業に関わったり、各種行事に積極的に参加し、地域の子どもたちと交流をもつことで、身近で子どもたちの成長を見守るとともに、子どもたちにとっては地域のいろいろな人と交流することで、自分たちのふるさとに愛着をもち、地域住民との結びつきを強める。</p>		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>大塔拠点公民館・大塔公民館富里分館・各区长・富里小学校育友会・とみさと保育園・とみさと保育園保護者会・富久寿会(敬老会)・あすなる平瀬の郷・大塔あすなる会・ふる里富里会・俳句指導の方々・コンニャクつくり指導の方々・みそ作り指導の方々・JA紀南女性会富里支部 等 各団体の 方々</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p>				
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・大塔に伝わる食文化を体験するコンニャク作り (JA紀南女性会) ・大塔に伝わる食文化を体験する味噌作り (JA紀南女性会) 			
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で、俳句作りをされている方々との句会 			
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・秋季運動会実行委員会開催(種目決定・当日参加協力体制の構築) 			
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・民舞サークルの方々による秋季運動会に向けての大塔音頭(地域に伝わる踊り)の講習会 ・秋季運動会開催(公民館による地域住民の一般種目参加の呼びかけと出場) 			
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ふる里富里まつりにむけての実行委員会への出席・協力体制の確認 ・地域で、俳句作りをされている方々との句会 ・JA女性会富里支部、地元いけばなサークル、交通安全協会富里支部、育友会等の地域の各種団体の協力を得て、全国へき地教育研究大会の第I分科会 			
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ふる里富里まつりへの参加(職員の役員参加・児童のソーラン節・運動会・作品展への出品) ・富里ふれあいスクール(英会話教室)(11/8・15・22) ・富里ふれあいスクール(ビーズ教室)(11/10) 			
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の句会 ・卒業の句会 			

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や地域の協力を得られ、多様な交流ができるようになった。 ・授業や学校行事を行なう際に、地域の方々にといろいろと関わっていただく機会が増えたことにより、地域と学校の絆がより一層深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流にあたり、児童の発達段階に合わせた適切な敬語やマナーを習得させるようにする。 ・単なる交流ではなく、交流後の児童の気づきや次への課題を大切にする。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な行事やボランティア活動にたいする地域の方々の積極的な参加と協力で、各団体の様々な活動に触れることができ、児童の地域理解がさらに進んだ。 ・地域の伝統・行事・自然に触れることで、ふるさと富里を愛する気持ちが育ちつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を大切にする気持ちは育ってきたが、主体的に関わっていこうとする子はまだ少ない。ふるさとを愛し、伝統や行事に進んで関わり、今後、10年後、20年後の富里を支えていく担い手を育てていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流や地域の行事を通して、地域の方々との交流が図れたのと同時に、児童たちにとって、「自分達の住む地域」への関心・理解が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの地域住民の方々に学校へ関わっていただくことにより、児童が地域を身近に感じ、社会性を育み、自分も地域の中の一員であるという意識をさらにたかめたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報発信により、地域住民にとっても学校がより身近な存在となり、学校活動への協力、参加が多くなってきている。地域住民にとっては、学校や子どもたちと関わる機会を多くもつことができる現状を大変うれしく思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の地域を担う子どもたちや学校と地域住民が今後さらなる交流を図ることで、地域の強いきずなを形成し、地域力を高めていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

(評価)

- ・特別活動年間計画の整理と見直しにより、新たな活動が計画に加わった。
- ・地域住民とふれあう機会の多い本校の運動会やふる里富里まつりなどで、児童は地域をより身近に知ることができている。
- ・ふるさと富里まつりなどに参加したり作品を出品したりすることで、ふるさとを支える一員としての自覚が育ってきている。
- ・学校職員と公民館や地域の各団体の方々との距離が近くなった。

(次年度に向けての取り組みの方向)

- ①公民館をはじめ各団体の協力を得ながら、児童と地域のふれあう機会を設けていく。
- ②児童へのふるさと教育の継続。
- ③大塔公民館富里分館との連携(今年度は、ふるさとふれあいスクール)のさらなる強化。(交流会議などの実施)

学社融合活動実施報告

学校名 園名 田辺市立 本宮小学校		公民館名 本宮公民館 (本宮分館・四村分館・請川分館)	
学社融合における学校・地域の様子 本宮地域に住む子どもたちは、過疎化・少子高齢化が進み、統廃合により校区が広がったことから友達との交流がなかなか深まらない状況にある。こうした背景において、学校だけでなく家庭・地域社会の中で、将来地域社会の一員として貢献できる子どもを育てていくという考えのもと、保護者・地域・専門家による支援を受けながら学社融合の取組を進めている。保護者・地域にとって、子どもたちへの関心は高く、参観日や懇談会はもとより各行事への出席率が高い。地域に住む、各サークルの方々も積極的に授業支援に参加して頂いたりしていることから、地域ぐるみで子どもを育てようとする意識が高い。			
活動名 保護者・地域に住む方・専門家による学習支援		学年・教科・領域等 全学年 ・国語科・総合的な学習の時間	
目標	学校・園	・保護者・地域に住む方・専門家による学習支援を受け、主体的に学習に取り組む態度を養う。 また、地域の方々の専門的な知識や技能を学ぶことで成就感を味わう。 ・地域の方々との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。	
	公民館(地域)・地	・地域の持つ教育力およびそれぞれの分野で専門的な知識を持つ方々を学校教育の中に活かすとともに地域ぐるみで子育てをする意識を高め、本宮町の歴史や文化、自然に親しむ子どもの育成のための手助けを行う。	
支援者及び支援組織 保護者 地域に住む方 本宮食育推進協議会 学習環境アドバイザー			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) 本年度、本宮町全体で学社融合の取組をさらに推進させるために、「音無の里地域共育コミュニティ本部事業」が展開されることとなった。本宮小学校では、この組織を活用し、さらに充実させる取り組みを考えた。そこで、学習パートナーに支援頂くための教科・領域として国語科・総合的な学習の時間・家庭科を中心に据えることとした。			
月	対象	教科	内容
5月	第5学年 第3学年	家庭科 総合	ナップザックづくり 音無茶調べ
6月	第6学年 全学年 第3学年 第4学年	家庭科 国語科 総合 総合	朝食に合うおかず 読み聞かせ 音無茶調べ 水生生物調査Ⅰ
7月	第4学年 第2学年	総合 国語科	水生生物調査Ⅱ わたしの好きな本
9月	第4学年 第2学年	総合 国語科	水生生物調査Ⅲ わたしの好きな本
10月	第5学年 第6学年 第2学年 全学年 第4学年	家庭科 家庭科 国語科 国語科 総合	ミシンを使おう 栄養バランスのよいおかずを作ろう わたしの好きな本 読み聞かせ 水生生物調査Ⅳ
11月	ささゆり 低学年	総合 生活科	陶芸教室Ⅰ・Ⅱ 昔の遊び
12月	全学年	国語科	読み聞かせ
通年	1～3年生	国語科	読み聞かせ
			支援者 地域在住 地域在住 食育推進 お話玉手箱 地域在住 専門家 専門家 保護者 保護者 地域在住 食育推進 保護者 るるる読み聞かせ隊 専門家 地域在住 老人会 図書館 保護者
第一に子どもたちの躰きに寄り添い、アドバイス(支援)いただくことで、子どもたちが意欲的に主体的に学習に取り組むことができることをねらいとしている。また、多くの方による交流によってコミュニケーション能力を養いたいと考えている。			

	成 果	課 題
学 校 園	(1)外部人材を活用した授業を行うことで、児童の学習意欲を高めることができた。 (2)各学年で授業の中に話し合いの時間を設け、互いの考えを伝え合う機会を増やしたり、書く活動を各教科の中に取り入れたりすることで、児童の自己表現力が徐々に向上してきた。 (3)外部団体からの授業への参加依頼があるなど、地域の方の学校教育への関心が高まりつつある。	(1)さらなる学習活動の充実を望むため、外部人材を活用した授業を計画する。 (2)外部人材をスムーズに集めるシステム作りを進める。 (3)学習パートナーとの打合せの時間を確保し、授業内容について理解して頂き、授業での支援方法などお互いの出番を確認しながらよりよい授業作りを目指す。
* 子どもにとって	・学習パートナーの方に入って頂いたおかげで、学習の意欲が高まり、内容も深まった。 ・教えて下さる学習パートナーさんへの感謝の気持ちを持って交流することができた。	・自分の必要とする支援をはっきりと伝えることでより活動が深まっているため、児童のコミュニケーション能力を高める。
* 子どもにとって	・学習パートナーの専門的な知識や技能を学ぶことで、尊敬の念や地域に対する関心も深まった。 ・地域の大人の人们に支えられていることを実感し、感謝の気持ちをもつことができた。	・この学習機会を契機として、地域住民との交流を深め、地域の良さをもっと知ってほしい。
地 域 (公民館)	・サークル活動などで取得した知識や経験を生かせる場となっており、日頃の活動がより一層深まった。 ・子どもたちと接することで、元気をもらい活力につながるとともに、学校が身近に感じられるようになった。	・学習パートナーとして、多くの地域住民に参加してもらえるように周知するとともに地域と学校との交流の機会を増やしていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

今まで、学校は多くの方々の支援を受け教育活動を行ってきたが、その成果として、地域の方が学校に来て下さることで規範意識が高まり、挨拶や会話の力が向上してきていることが挙げられる。また、学習パートナーが授業に入って下さることで授業の中身が深まったことなどが挙げられる。



国語科



総合的な学習の時間





家庭科

昨年度の「次年度に向けての取組」として挙げていた各種団体との更なる交流も意識して取り組むことができた。また、昨年度以上に地域の方々が入りやすいように、学校行事としては公民館・保育園との合同運動会や避難訓練や人権の花への取組なども連携しながら積極的に取り組むことができた。

「次年度に向けての取組」

公民館や行政との連携をさらに密にし、学校が学びの核となる素地を固めていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名 園名		三里小学校	公民館名	本宮公民館三里分館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>・本校校区は、世界遺産である熊野古道が通り、きれいな川が流れ、緑いっぱいにもまれた自然豊かな地域である。しかし、過疎化、高齢化が進み、児童数も40名前後を推移し、複式の学年もある。地域の人たちは、学校を思い、子どもたちを普段から見守ってくれている。このようなことから、学校に対して協力的で、以前から生活科や総合的な学習を中心とした体験学習に積極的に関わってもらってきた。また、三里中学校が閉校になり、本宮小学校、本宮中学校など本宮町内全域との交流を深めるため、今年度から本宮地域の共育コミュニティ事業に参画し、コーディネーターからアドバイスをもらい、活動に取り組んでいる。</p>				
活動名		三里祭り	学年・教科・領域等	全学年
目 標	学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に生きる学校として、地域を活かした学びを深める。 ・学校を中核とした、社会教育団体との融合を模索する。 ・共育コミュニティ事業に積極的に取り組み、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実を目指す。 		
	公 民 館 (地 域)	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館事業と学校の授業が一体となった学社融合に取り組む。 ・地域の人材確保とその知識・技能を活かしたボランティア活動を推進し、参加した地域住民の教育力、学習意欲を高める。 		
支援者及び支援組織				
本宮公民館三里分館・三里小学校PTA・地域住民等				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>日 時……11月23日(勤労感謝の日) 午前9時～午後3時30分</p> <p>場 所……三里小学校講堂</p> <p>ねらい……家族のふれあいを深め、友達や地域の人と交流することで豊かな心を育む。</p> <p style="text-align: center;">小学校 公民館</p> <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> * 11月初旬…三里祭りで披露する合奏・合唱の練習 * 11月初旬…育友会でバザー出店の話し合い * 11月22日…前日準備(出品作品の展示) ★11月23日…児童・生徒・園児の作品展示 ・児童による合奏・合唱の発表 ・子どもたちの有志による創作ダンス(小・中学生が参加) ・育友会によるバザー出店 (うどん・そば・フランクフルト・チョコバナナ・おにぎり) <ul style="list-style-type: none"> * 10月…演劇の小道具作り * 11月…三里祭りで演じる時代劇の練習 * 11月22日…前日準備(農林産物の展示・劇の準備) ・農林産物(野菜等)の品評会・即売会 ・三里劇団による時代劇の発表 ・大抽選会 ・もちなげ 				
				

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や地域との結びつきが一層強くなった。 ・地域の多くの方々が、学校に来てくれた。 ・地域の方々に対して、学校の教育活動を発信できる絶好の機会となった。 ・育友会のバザーの仕事については、役員だけでなく、ほとんどの保護者が手伝ってくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱や合奏の発表だけでなく、子どもたちの劇なども時間があれば取り入れていきたい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・創作ダンスの発表に向けて、昼休みなどを活用して、自主的に練習に取り組んだ。 ・多くの人前で、合奏や合唱の発表ができ、自信がいった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスだけでなく、他の活動でも自主的・積極的に取り組んでほしい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇や農林産物の品評会を見ることで、地域の伝統や良さを知ることができた。 ・地域の人と話をする機会が増えたりして、交流を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最後まで集中して劇を見るなどの鑑賞マナーをきちんと身に付けてほしい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・三里祭りを通じて子どもたちや地域の人たちが、喜んでくれるのがうれしい。 ・多くの地域の方がこれだけ集まる機会がないので、公民館の取り組みが発信できる場になって良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちが多く集まり、交流できるような行事を行っていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・今年度から、本宮地域の共育コミュニティ活動に参加し、今まで取り組んできた学社融合の活動をさらに充実することができた。
- ・子どもたちも多くの体験を通して、自己を高め、ふるさとを愛する心が育まれてきているように思う。
- ・地域の方々が、学校に足を運んでくれることが多くなり、結びつきも強くなってきた。
- ・学校、家庭、地域が一緒になって子どもたちのことを考えてくれている。
- ・三里祭りは、学校と地域、子どもたちと地域をつなぐ伝統的な行事として、交流の場になっていることは、大変有意義である。
- ・今後、さらなる結びつきを深めるために、周辺地域に情報発信を行い、学校行事にも多くの方に参加してもらいたいと考えている。



学社融合活動実施報告

学校名 園名	東陽中学校	公民館名	東部・南部公民館
<p>〈学社融合における学校・地域の様子〉 本年度は地域連携部から学社融合部と改名し、様々な取り組みを行った。その一つとして地域の高齢者の方々を対象とした職員、コンピュータ部員による「パソコン教室」を初級、中級、上級に分けて3日間実施した。 また、新たに地域の方を指導者とした「囲碁教室」や「写真教室」を夏休みに実施し、特に「写真教室」では、手芸調理部とコンピュータ部が地域の写真に詳しい方々と写真撮影を通して有意義な交流を行うことができた。他には、地域で子育てを支援する組織の「子どもサポートネットみらい」と連携し、NPO法人ジェントルハートプロジェクト小森美登里氏を招き、「やさしい心が一番大切だよ」と題した教育講演会を実施した。</p>			
活動名	地域・公民館・小学校と連携した取組	学年・教科・領域等	全学年・総合的な学習の時間
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を生かし、地域の様々な教育資源を活用した学社融合の実践を進める。 ・小学校との連携を深め、児童・生徒が交流できる企画を進める。 ・学校と公民館と市立図書館「たなべる」との連携・融合体制の充実発展を進める。 	
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校と地域のつなぎ役として、地域の教育力を生かした取り組みを企画、運営する。 ・生徒達と交流し、つながりを作ることで、学校外に於いても地域と生徒達が交流できるようにする。 	
支援者及び支援組織			
東部公民館			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>【地域との連携】</p> <p>○11月10日(土)11日(日) 南部センターフェスティバルへの参加 本校吹奏楽部と1年生のよさこいリーダーが地域との交流を目的に参加、オープニングイベントの演奏を行いフェスティバルを盛り上げた。また技術家庭科、美術科等の生徒作品も出品し、交流を深めた。</p> <p>○1月22日(火) どもサポートネットみらい第8回子育ての集い 地域で子育てを支援する組織である「子どもサポートネットみらい第8回子育ての集い」として、田辺第二小学校6年、本校1年、保護者、地域の方々を対象にNPO法人ジェントルハートプロジェクト小森美登里氏に「やさしい心が一番大切だよ」という内容でいじめ防止についての講演を実施した。</p> <p>【公民館との連携】</p> <p>○8月20日(月) 写真教室 写真に詳しい地域の方を講師にお招きし、コンピュータ部、手芸調理部の生徒を対象に、写真の写し方、画面の構図の取り方等について教えていただき、写真撮影のテクニックを学ぶことができた。</p> <p>○8月22日(水)23日(木)24日(金) 高齢者パソコン教室 公民館と本校のコンピュータ部が連携して、地域の高齢者の方を対象にパソコン教室を開催した。パソコンの学習を通して地域の方々と中学生の交流ができた。</p> <p>○8月22日(水) 囲碁教室 囲碁に詳しい地域の方を講師にお招きし、囲碁の基本的なやり方について講義していただき、生徒も真剣に学ぶことができた。</p> <p>○11月17日(土)18日(日) 東部公民館文化展への作品出品 公民館に、各子ども会、生け花子ども教室、東部公民館ペン・習字教室、東部公民館婦人学級、婦人会、楽生会、各町内会、神島高校、本校の生徒作品等が展示され、作品を通して地域の方々と本校生徒が有意義な交流を行った。</p> <p>【小中の連携】</p> <p>○11月14日(水) 小中育友会主催の教育講演会 育友会文化部主催の教育講演会に俳優の小西博之様をお招きし、田辺第二小学校全校児童、本校全校生徒、保護者地域の方々を対象に「生きている喜び」と題し、講演を実施した。</p> <p>○11月27日(火) 中学校授業体験入学 田辺第二小学校6年生を対象に、中学校とはどのようなところかを体験してもらうために、中学校体験入学を実施した。本年度で3年目となり、理科、社会、美術の授業とクラブ見学を中心に行った。</p> <p>○2月に予定 田辺第二小学校出前授業 田辺第二小学校の6年生を対象に本校の英語教諭が小学校に出向き、授業を実施した。</p>			

	成 果	課 題
学 校 園	写真教室、囲碁教室、コンピュータ教室については、地域の方々の教育力を生かした大変有意義な取組であった。	写真教室には本年度は本校のコンピュータ部、手芸調理部等が参加したが、生徒の自主的な参加を促すための方策を考えていく必要がある。 公民館や小学校の学社融合担当者と共に連携を深めて行事の精選、実施時期等深く検討していく必要がある。
* 子ども にとって	パソコン教室では、生徒は地域の高齢者の方々にパソコンの学習を支援するという立場に立ち、どのように支援すれば良いのか試行錯誤を繰り返しながら真剣に交流できたことで、温かく触れ合う優しい心が育まれたことが大きな成果であった。	地域の方から教えていただくのも大切であるが、パソコン教室のような生徒主体の充実感や達成感を味わうことのできる活動を増やしていく必要がある。
* 子ども にとって	地域に出向き、よさこい踊りや音楽の演奏をすることは生徒にとっても地域と交流できる貴重な機会であるといった点からもさらに充実させていきたい。	特定の生徒のみの参加体制ではやはり充実した取り組みとはならない。生徒が選択できる幅広い活動を計画する必要がある。
地 域 (公民館)	公民館主催で行った様々な行事では、地域の方々が生徒達と交流し、中学校と地域をつなぐ活動ができたと思われる。 公民館主催の文化展では、地域住民、学校と作品出展があり、学校・地域・公民館への理解を深めてきた。 写真展では、写真教室の作品出展により、世代間交流がさらに深まった。	年間を通していくつかの行事を定着させ、その内容をさらに発展、深めさせていく必要がある。 小学校、中学校の地域連携担当者と定期的な会議をできるだけ持って、行事の精選、実施時期等深く検討していく必要がある。 地域の教育力を生かせるよう、地域の人材を把握する必要がある。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

公民館との連携では囲碁教室や写真教室等、地域の教育力を生かす取組ができた。また高齢者パソコン教室では生徒が主体となって地域の方々と温かく触れ合うことができ、優しい心の育成にもつながった。



NPO法人ジェントルハートプロジェクト小森美登里氏による講演では、地域の子育て支援組織である子どもサポートネットみらいと連携し、新たな取組の方向が示される企画となった。

育友会文化部主催の教育講演会では、小西博之氏の講演を通して、小、中の全校生徒、保護者、地域の方々が「生きている喜び」について深く考えることができた企画であった。育友会も中心となって進めていく企画も今後増やしていきたい。

中学校、公民館、地域、小学校がお互いに連携を深めるために、定期的な合同会議の実施回数を増やしていく必要がある。その中で、年間を通していくつかの行事を本当に有意義かどうか精選・定着させ、それらの行事の内容を深めさせていく必要がある。



学社融合活動実施報告

学校名 園名		田辺市立明洋中学校	公民館名		芳養・西部・中部公民館
学社融合における学校・地域の様子 ・学社融合においては、明融会(学社融合推進のための3公民館と明洋中学校学社融合担当との会議)を母体に、本年度は、小中交流も並行して取り組んだ。このことは、防災訓練の広がり、地域行事への参加、常時の学校開放につながってきた。明融会本年度のスローガンは、“防災でつながろう”であったが、地域での防災訓練に、1～2年生が参加できたことは、大きな成果であった。このことは、生徒が様々な機会を捉えて、地域の人々とコミュニケーションをとっていく力を養えた。また、地域の人々に生徒を理解していただく一助となった。さらに、西部・芳養それぞれのシンポジウムで生徒の意見の提言ができたことは、初めての試みではあったが、地域との融合の手立ての一つとして捉えた。地域の人材により、授業の幅が広がったり、ふるさとを考えるよい機会ともなった。					
活動名			学年・教科・領域等		
防災訓練・地産地消料理づくり・生け花作品制作			全学年/家庭科/特別活動		
目標	学校・園	・地域との交流を図り、ふるさとを愛する気持ちを育てる。 ・地域での体験活動を行うことで、一体感を持たせ、貢献できることを知らす。 ・様々な人との関わりで、コミュニケーション能力を高める。 ・地域の行事として参加し伝統を受け継いでいく気持ちを養う。			
	公民館(地域)	・学校で生徒達とふれあうことで、地域の人々の活力を高める。 ・地域と学校が繋がることで、防災力強化を図る ・地域の方に生徒達を見守ってもらう意識を持っていただく。			
支援者及び支援組織 芳養地域人材バンク登録者、各地区の方々・西部地区自主防災会連絡協議会・西部地域共育コミュニティ本部					
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)					
【防災訓練】 6月3日、地域の防災訓練に参加した。防災訓練は、保育所幼児の手を引っ張りながらの訓練を実施した。その後、炊き出し体験・煙体験・救命講習・防災講演会(講師:和歌山高等工業専門学校小池信昭准教授)を行った。		【明融会】西部・芳養・中部三公民館主事と学社融合推進教員との連携を図り、二ヶ月に一度の打ち合わせ会を持つ。本年度スローガンは「防災でつながろう」でした。			
【地域行事への参加】 ・しおさい祭り(4/28・11/3)・天神児童館祭り(11/3)・ふたばミニ秋祭り(11/10)芳養敬老会(9/16)西部地区花植えボランティア(11/1)芳養地区シンポジウム(8/29)・西部地区シンポジウム(8/30)田一小校内音楽会(11/21)地域の行事へは、各部活を中心に参加した。地域のみなさんに喜んでいただいたり、地域への貢献活動を行った。西部・芳養各地区シンポジウムで、全校生徒にアンケートを採って集約した内容を、代表者が発表した。		【小中交流】 ・次のような形で、交流を行った。芳養小学校の体育での体操教室(7/2)第三小学校音楽部とブラスバンドの交流(7/18)芳養小学校職員への美術教室(7/30)などである。・校区校長・教頭・教務・養護の会をそれぞれもつことができた。・小中連携生徒指導研修会を講師を招き実施した。(8/10)			
					
		5月 防災訓練		6月 家庭科調理実習	
【授業に地域の人材を招いて】 ・芳養婦人会の皆さんにお手伝いをお願いし、家庭科の時間に、鰯の三枚おろしを学習した。地産地消の考えに基づき、魚の豊富なこの地方で魚をさばくことができるようにという願いからである。夏休みの家庭学習としたこともあり、魚を使った数多くの応用メニューが提出された。 ・1年ふるさと学習(高山寺和尚曾我部大剛氏)・2年人権学習(石田ゆうすけ氏)・3年先達に学ぶ(故中西力三郎氏)・全学年(太田田辺市図書館長)と多くの方々の有意義な講話やご指導をいただいた。 ・家庭部の生け花の活動に、ゲストティーチャーとして地域から那須満喜子さんを講師に迎え、生徒達が指導を受けながら作品を制作した。完成した作品は、中学校文化発表会で披露された。					

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とともに防災訓練を行うことについては、2年目となり、本年は1～2年生の生徒が保育所の子どもの手を取っての訓練が実施できた。また、地域の人々とともに、講演を聴いたり、作業をしたりとコミュニケーションをとれるよい機会であった。 ・鯨を開く学習では、地域の方々が各班での作業を受け持ってくれ、効果的に学習が行えた。 ・生き方の学習は、各学年で、地域の人材から話を聞くことができ、ありがたかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練では、地域・関係機関と学校がよく審議し、実際に起こった場合の時に必要となる活動を選び出し、行っていく必要がある。 ・専門性を生かした教職員の交流も小中で実施したが、多忙な中での小中の交流は、年度を重ねるにしがたい、多忙感を凌ぐだけの成果を小中双方が確認できるように取り組む必要がある。 ・義務教育九年間を通して子どもを見守っていく視点を今後も持ち続けていきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域について考え、地域の人々とのコミュニケーションをとる場を様々な形でとれることは、すばらしい体験学習である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な関わりが多くの人とできるように、自覚をどのように促すかが課題である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域シンポジウムへの参加や、鯨の三枚おろしなど、普段の授業では得られない、貴重な体験をすることができた。 ・子どもたちが学校外で地域の活動に触れたり、アンケートに取り組む中で、自分が住む地域との関わりについて自然と考えるようになっていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と関わるたくさんの取り組みを、普段の学習や生活に結び付け生かせるようなものにした。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に住む、生徒達の考えや生活を聞くことができ、今後の地域づくりに大いに参考になった。 ・さまざまな取り組みの中で地域から学校へ、学校から地域へという機会が増え、子どもを介して地域と学校との距離がより縮まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明融会での意見交換の場を有意義に活用し、今までの取り組みを踏まえて子ども・地域双方にとって充実したよりよいものを常に柔軟に考えていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・評価としては、昨年度の課題を生かし、地域の人材・交流を中心に子どもたちの活動を促すことができたと考える。取り組みの種類・活動については、割合多く実施したと考えるが、内容の充実と多忙な中での取り組みの精選に努めたい。逆に、組織として明融会の実施、校区の校長・教頭・教務・養護の立場でのそれぞれの交流を深め、基礎をしっかりとしていきたい。



8月 芳養公民館での美術教室





8月 第三小の音楽部の体験



8月 西部地区シンポジウム

学社融合活動実施報告

学校名 園名		田辺市立 高雄中学校	公民館名 秋津公民館	
学社融合における学校・地域の様子 ◎校内体制として ・全体の地域担当主任を配置し、各校区協議会・各公民館ごとに担当者を配置し、公民館主事等との連携を図るための組織を構築している。 ◎今後の課題として ・生徒へ地域行事の参加を促すとともに、地域での生徒の生活の様子等の把握 ・学校の実践が保護者や地域に理解されているかを検証する必要がある。				
活動名 高齢者との避難訓練		学年・教科・領域等 総合的な学習の時間		
目標	学校・園	生徒は地域の一員として意義や自覚を深め、地域社会に貢献する意欲や態度を身に着け高めていく。		
	公民館（地域） （地）	大人と子ども双方にまちづくり行事に積極的に参画してもらい、参加者相互の交流を通じて、地域社会の一員としての意識を高めてもらう。また秋津・万呂両地域間のつながりを深め、地域外からも広く多くの方に参加していただくことで地域活性化へと繋げる。		
支援者及び支援組織 育友会・町内会・公民館・地域団体等				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
高齢者との避難訓練				
日時 11月 19日(月)				
ねらい・目的				
<ul style="list-style-type: none"> ・中学生は守られる立場ではなく、守る立場であることを自覚する。 ・協力して避難することの大切さを学ぶ。 ・合同避難訓練をする中で課題を見つけて今後に生かす機会とする。 				
活動内容				
<ul style="list-style-type: none"> ・4つの班に分かれて高齢者宅へ移動 ・高齢者宅 → 宝満寺 				
				

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と一緒に避難訓練をすることによって、高齢者とともに避難することの大変さを学んだ。 ・地域の方々と共に、防災訓練の大切さを共有でき、意識付けを深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生は守られる立場ではなく、守る立場であることを自覚し、避難訓練を行ったが人の命を守ることの難しさを痛感した。 ・地域の方々といっても限られた人だけだったので、もっと数多くの地域の人たちと避難訓練をすべきである。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に想定しての訓練だったので、手すりがあった方がいいとか、ロープを使うなど、いろいろな課題を自ら見つけることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命を守ることが最優先に考えることが大事なのだが、守る立場であることが強すぎないようにすることが課題である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と一緒に訓練することで顔、名前、地理等を覚えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員として自分には何ができるかを、考えていただきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々には避難場所までの到達時間等を確認することができた。 ・訓練を通じて中学生とのつながりをもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所までにある危険な場所等を、地域住民へ周知する必要がある。 ・今後も継続して防災意識を高め、多くの地域の方々に参加していただけるよう活動する。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

評価

・地域の方々と共に、防災に関して見つめ直すことができただけでなく、意識を高めることもできた。

次年度に向けての取り組みの方向

・もっと数多くの地域の人たちと避難訓練をすることを考えていく。



学社融合活動実施報告

学校名 園名 田辺市立新庄中学校	公民館名 新庄公民館
---------------------	---------------

学社融合における学校・地域の様子
 今年12年目を迎えた3年生の「新庄地震学」の取り組みでは、本年度9教科10テーマを設けて学習しました。地域の地震・津波の経験者から教訓を学んだり、阪神淡路大震災や東日本大震災から学んだことを地域に発信したり、地域の防災意識を高める取り組みをしています。
 「地域学習」は、主に「地域の伝統文化」「福祉活動」「環境整備」を通した取り組みです。本年度はさらに「地域のお年寄りとのふれ合い」を計画しました。昨年は新庄中学校の校歌にも歌われている国指定の特別天然記念物「神島」を現地調査しました。今年も国指定天然記念物「鳥の巣半島の泥岩岩脈」や県指定天然記念物「奥山の甌穴」の現地調査を行うことができました。また、田辺市無形文化財の「新庄杜氏唄」では保存会の方々から詳しく教えていただきました。
 他にも、「児童生徒の学力向上・地域の教育力向上」をめざした取り組みとして、写生会で地元の絵画教室の先生を招いたり、体育の授業で地元のグランドゴルフ愛好会の方々と交流するなど、地域の自然や歴史を調べる地域学習、地域のゲストティーチャーをお招きしての授業、地域住民対象の教育講演会などを展開しています。

活動名 地震学・地域学習・各教科の取り組み	学年・教科・領域等 3年：地震学、1年：地域学習、全学年：ゲストティーチャー招聘授業など
--------------------------	---

目 標	学 校	【地震学】9教科10テーマから地震・津波を中心とした防災学習に取り組み、学習の成果を後輩、保護者、地域に向けて発信する。 【地域学習】新庄地域の自然・産業・歴史・文化について学び、学習の成果を先輩、保護者に伝える。
	園 公民館（地域）	【各教科の取り組み】各教科授業に合わせて地元のゲストティーチャーを招いた授業など。 中学校の取り組みを通して忘れ去られようとしている地域の歴史・文化や地域の課題などについて改めて気付くことのきっかけとなること。 また、生徒（学校）は地域の歴史・文化などを知ると同時に、生徒が広く地域の方々と触れ合い、新庄地域そのものに愛着を持ってもらいたい。

支援者及び支援組織
 保護者、小学校、幼稚園、保育所、高校、新庄公民館、地域住民、新庄漁協、個人事業所、関係各機関

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

【地震学】(3年生)本年度開設の9教科10テーマから取り組み
 * 防災マップの改良 * 備蓄庫の現状と課題 * 防災カレンダーの作成
 * 防災紙芝居の作成 * 防災啓発ダンス&替え歌 * 防災標語
 * 「安否札」の作成 など



- 各テーマごとに計画を立てて活動
 - ・校区内の避難路を地域住民とともに確認
 - ・お年寄りからの津波体験聞き取り調査
 - ・幼稚園、小学校を訪問し、紙芝居やダンスで交流
 - ・敬老会にて「安否札」の配布 など



- ◆11/25 「新庄地震学」発表会
 各テーマともパワーポイントを使って発表した。
 ダンスや紙芝居は舞台発表をした。
 新庄漁協女性部による「かまどベンチ」を使っての炊き出し協力を得た。
 最後に校庭で餅まきをし、地域住民も参加して大いに盛り上がった。



【地域学習】(1年生)6つのテーマを設定して、新庄地域について学ぶ。
 * 国指定天然記念物「鳥の巣半島の泥岩岩脈」の現地調査
 * 県指定天然記念物である「奥山の甌穴」を現地調査
 * 田辺市無形文化財「新庄杜氏唄」 * 紀南索道 * 中山城
 * 新庄で目にする外来種の生物と絶滅危惧生物
 ◆11/25「文化祭」
 各グループの学習成果をパワーポイント、及び掲示にて発表した。

【学社融合中間発表会】
 ◆12/19「学社融合中間発表会」
 新庄地域共育コミュニティ(3つの里づくり)として
 * 防災の里づくり……地域住民と共に避難訓練
 * 学びの里づくり……地域からゲストティーチャーを招いて授業
 * ふれあいの里づくり……講話「人生の先輩に学ぶ」



	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・10月末に跡の浦地区から新庄中学校へと続く避難経路が新たに整備され、「中間発表会」では、跡の浦地区の住民も参加した避難訓練を実施することができた。 ・地域住民の教育力を借りて、ゲストティーチャー招聘授業を実施することができた。 ・「地域学習」において、地元の伝統文化である「新庄杜氏唄」を保存会の皆さんから学ぶことができた。 ・県指定天然記念物「奥山の甌穴」を地域の方々と共に現地調査することができた。 「地震学」では、防災マップの改良や、カレンダー、標語、安否札などを通じて地域の防災意識の向上に貢献できた。 ・地域を学び、地域を知ること、地域への愛着や誇りが育まれているように思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地震学」では、本年度までの取り組みを継続しながら新しい視点でのテーマを開拓していく必要がある。 ・「地域学習」では、新庄地域に限らず、田辺市、和歌山県へと範囲を広げていくことも考えられる。 ・授業時間の確保、担当する教員の配置。 ・地域との連携に係る諸経費の捻出。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地震学に取り組むことで、地域防災や減災に関する意識を高め、幼稚園、小学校、地域の敬老会を訪問することにより、異年齢世代との交流、地域との絆を深めることができた。 ・プレゼンテーション能力を高めることができた。 ・地域住民の協力を得て、多くのことを学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的、自主的な活動となるような取り組み方法を考える。 ・さらに地域と関われるような活動を考えたい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・「奥山の甌穴」のように地域住民でも、忘れ去られようとしている事柄についても見聞きし体験できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校(教師)主導の域を出ていないように見受けられる分野があるので、生徒の自主性にさらに期待したい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民との触れ合いのなかで、特に高齢者からは「楽しかったよ」「若返った」など、概ね好感を持って受け入れられた。 ・鳥の巣地区の戦時中に作られた洞窟などのように、新庄地域の中でも限定された地区でしか語り継がれていないような事柄を取り上げて発表出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み内容や対象の新たな開拓が必要である。 ・一つの事柄を継続的(多年にわたり)に取り組むといったことも必要ではないだろうか。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

〈評価〉

- ・3年生が取り組んでいる「新庄地震学」は、本年で12年目を迎え、生徒の防災意識の向上や、公民館の協力を得ながら、近隣の幼稚園、小学校、敬老会に発信することにより、地域に一定の貢献ができていると考える。また、マスコミに取り上げられることも多く、関係機関からも注目され評価を得ている。
- ・「地域学習」では、地元の人々の協力により「新庄杜氏唄」(田辺市無形文化財)を学び、文化祭で再現することができた。
- また「奥山の甌穴」(県指定天然記念物)では、上流から現地調査に赴き、その存在を確認することができた。






〈次年度に向けての取り組みの方向〉

- ・学社融合推進補助事業の指定を受け、来年度は3年目となる。その成果を発表する時期や方法、発表の仕方など、本年度の中間発表の反省を踏まえて考えていく。
- ・「地震学」での学びを地域の防災学習へと発展させていきたい。本年度の中間発表会では、「跡の浦地区」の住民も参加して避難訓練を行ったが、新庄地域全体へと広げていきたい。
- また、新たな視点でのテーマ、内容を考えていきたい。
- ・「地域学習」では、校区内のものから市内、県内へと範囲を広げていくことも考えたい。



学社融合活動実施報告

学校名 園名		上芳養中学校	公民館名	上芳養公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子 本校では育友会をはじめ、公民館・町内会・敬老会など地域との連携を深める取り組みをいくつもやっている。昨年度と同様に、上芳養地域にある保育所・小学校・中学校・公民館・第二のぞみ園との地域連絡協議会をもち、各機関の年間行事の確認や、今年度の連携に向けた話し合いをおこなった。 また参観日以外の学校開放週間・体育大会・文化発表会などのときには保護者だけでなく地域の方々も来校し、学校の様子を見てもらっている。</p>				
活動名			学年・教科・領域等	
ころころ山読み聞かせ			全学年総合的な学習の時間	
目標	学校・園	地域の読み聞かせサークルであるころころ山の方々に、ゲストティーチャーとして毎月集会に来ていただくことにより、本に親しみを持ち、読書することを通じて、思考力・表現力を育成する。		
	公民館（地域）	地域の大人と子どもとの交流の機会を多く設け、地域の子どもは地域で育てる気運を高め、地域全体の活性化につなげる。		
<p>支援者及び支援組織 上芳養中学校 読み聞かせサークルころころ山</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等) この活動は昨年度から開始された。今年度も年度当初にころころ山サークルさんと国語科担当教員で打ち合わせを行い、取り組みを継続していくことと日程を調整した。そして月1回の本の読み聞かせ・ブックトークを行うこと、ころころ山文庫(ブックトークで紹介された本の貸し出し)の設置、夏休み中の学校図書館の本の分類・整理を行うことが決定した。</p>				
4月	読み聞かせの実施			
5月	全校集会でブックトーク ころころ山文庫の実施の報告			
6月	読み聞かせの実施			
7月	読み聞かせの実施			
8月	学校図書室の本の分類・整理			
9月	読み聞かせの実施			
10月	読み聞かせ・ブックトークの実施			
11月	読み聞かせの実施			
12月	読み聞かせの実施			
				
			全校集会でのブックトーク	
				
各教室での読み聞かせの様子				

	成 果	課 題
学 校 園	近年、中学生の読書不足が課題となっている。その中で地域の方に読み聞かせやブックトークをしてもらうことによって、生徒が本に触れる機会をつくることができた。	ブックトークで紹介していただいた本をころころ山文庫として、スペースをつくって設置したのだが、借りる生徒が一部に限られてしまった。今後、さらに連携を高めて、生徒の読書への関心を高めていくことが必要だと感じた。
* 子どもにとって	地域の方に本の読み聞かせやブックトークをもらうことにより、本に触れる機会ができた。 読書に対する関心が高まった。	ブックトークなどで紹介していただいた本を積極的に読んでいく必要がある。
* 子どもにとって	・地域の方と触れあうことで、社会性や規律性を身につける機会となっている。 ・地域での日常生活においても、見守られているという安心感が育まれる。	・地域との関わりを深め、主体的に交流を深められるよう進めていきたい。
地 域 (公民館)	・地域の子どもと触れあうことで、地域の子どもは地域で育てる機運が高まる。 ・日常的に接する機会の少ない子ども達からは、新鮮な発見や快活さを与えられている。	・今後も地域と学校との連携を深め、お互いが無理なく続けられるような取り組みを進めていきたい。
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向 (評価)</p> <p>・生徒たちにとって、本に触れる機会をつくることができた。この活動を継続的に取り組んでいくことにより、生徒の本に親しむ態度を育てていきたい。そしていろいろな本を読むことにより、思考力・表現力を養っていきたい。</p> <p>・ころころ山サークルさんのおかげで、学校図書室の本の分類、整理を行うことができた。そのおかげで、生徒が自分の目的に合った本を探し出しやすくなった。</p> <p>(次年度に向けての取り組み)</p> <p>・これまで小学校・中学校・公民館・地域サークルなどで連携した取り組みを継続して取り組んでいきたい。</p> <p>・地域の連携をさらに深め、生徒たちにとって、地域にとって有意義な活動を模索し取り組んでいきたい。</p>		

学社融合活動実施報告

学校名 園名	田辺市立中芳養中学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校では、「梅勤労体験」「中芳養夏祭り」「芳寿会との交流」「芳養の里交流」など、地域との交流を通して、「豊かな心」や「生きる力」の育成を目指している。保護者や地域、関係団体の方々はこうした学校の取組に対して協力的で、異世代との交流や地域の自然や文化、芸術との触れ合いの機会をより多く設けることができています。</p> <p>また、本年度は、中芳養地域連絡会の開催(月1回)や三校一園交流会への公民館主事の参加などにより、中芳養地域の幼・小・中・公民館の連携・協力の推進を目指した。</p>			
活動名	地域に学び、地域に返す	学年・教科・領域等	全学年・総合的な学習の時間
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会から多くのことを学び、その学びを地域社会へ返す。 ・多くの人との出会いから、心を育て、生き方を学ぶ。 	
	公民館 (地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・次代を担う子ども達は地域で育てるという意識を高め、郷土の伝統・文化・歴史に親しみを持たせることにより、郷土への愛着を育む。 	
支援者及び支援組織			
中芳養公民館 JA紀南中芳養支所 地域の梅農家の方々 田辺市社会福祉協議会 芳養の里 地域老人会(芳寿会)			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
《 地域に学ぶ 》			
梅勤労体験学習 実施 6月26日 (全校生徒)	地域の基幹産業である梅の作業を通して、働くことの喜びや苦勞を知り、郷土愛を育むことをねらいとして実施。本年度は、自宅・知り合いの梅農家・JA紀南中芳養支所による紹介など46カ所の梅畑に分かれて、青梅採り・落ち梅拾い・選別などの作業を体験した。		
芳寿会との交流 実施 8月26日 (2年生)	「先達から学ぶ」をテーマに校区に在住されている方から貴重なお話を聞かせていただくことで、心を耕し、豊かな心を育むことをねらいとして実施。本年度は校区の老人クラブ「芳寿会」の方から貴重な体験談や文化・伝統などについて聞かせていただいた。		
芳養の里交流学習 実施 10月30日 (3年生)	高齢者福祉についての理解を深めるとともに、交流を通して豊かな心を育むことをねらいとして実施。本年度は、1学期に田辺市社会福祉協議会の協力により、視覚障害・発達障害・肢体不自由などについて(4回-7時間)学習した上で、地域にある高齢者福祉施設『芳養の里』を訪問し、施設や業務内容を学ぶとともに、入居者の方々との交流を行った。		
《 地域に貢献する 》			
中芳養夏祭り 実施 8月4日 (2年生)	子どもたちの交流と伝統文化の継承を目的に開催される『中芳養夏祭り』で、中学2年生とPTA役員が夜店を担当し、祭りの盛大な開催に協力した。		
《 地域に返す 》			
中芳養祭 実施 11月25日 (全校生徒)	地域での体験学習・交流学習について学んだことを、本校文化祭『中芳養祭』で発表。全戸配布による学校だよりやポスターにより広報し、地域の多くの方に参加していただいた。また、午後は『交流タイム』として、総合学習で学んだお茶のおもてなしや、体験ブースを開き、地域の方々との交流を深めた。		

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に出て活動することにより中学生の姿を地域の方々に理解していただくことができた。 ・教職員が地域に出て活動することにより地域の方との顔の見える関係をつくることができた。 ・学校の取り組みを理解し、協力していただくことにより、学校・家庭・地域が一体となって地域の子どもを育てるという意識や協力関係を築くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習が体験だけに終わってしまわないよう、事前・事後の指導の充実など、教職員も生徒も目的意識をもって取り組む活動にしていきたい。 ・公民館との協力体制を密にし、地域の教育力をさらに生かした取り組みとなるようにしたい。 ・内容の精選と時間数の確保を考えていく必要がある。
* 子 ども にと っ て	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に出て活動することにより、挨拶や礼儀、マナーを学ぶ良い機会となった。 ・さまざまな人との交流を通して、コミュニケーション能力を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事のときだけでなく、日常的に地域の方と挨拶や会話ができるようにしていきたい。 ・様々な人との出会いや体験を通して、自分の生き方や進路を考える学習につなげていきたい。
* 子 ども にと っ て	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々との交流により、地域を知るとともに、地域の一員としての自覚を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員として、地域の行事に積極的に参加していこうという気持ちを育てていきたい。
地 域 (公 民 館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子どもは地域で育てるという気運を高められた。 ・普段子どもと接する機会の少ない高齢者にとっては、子どもとの交流を通じて、快活さを与えられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が一体となって、組織的に行事に取り組めるよう連携を密に進めていきたい。 ・地域の方が参加しやすいよう、取り組み後の事業報告や、参加者の感想などを積極的に発信していきたい。
<p>評価及び次年度に向けての取り組みの方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中芳養祭での発表などにより、学校への協力という形に終わらず、「地域に学び、地域に返す」という、学校と地域との双方向性をもった取り組みとすることができた。 ・生徒、教職員、保護者、地域の方々が、お互いの顔が見える活動をすることで信頼関係を深め、「学校・保護者・地域が一体となって地域の子どもを育てる」という意識を高めることができた。 ・出会いや触れ合い、体験を通して「豊かな心」や「生きる力」の育成を目指したこの取り組みがさら充実したものとなるよう、道徳の時間との関連や指導内容などについても検討していくことが大切である。 ・今年度より定期的に開催するようになった中芳養地域連絡会を、お互いの交流から、共通、共同の取り組みへと発展させていきたい。また、公民館との関係をさらに密にし、地域の教育力の掘り起こしを進めていきたい。 ・「総合的な学習の時間」の減少により、内容の精選や時間数の確保をはかっていく必要がある。 		

学社融合活動実施報告

学校名 園名		上秋津中学校	公民館名	上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>梅・柑橘類を中心とする専業農家が大半を占める農村地帯であったが、宅地化が進み交通の便もよいため、他地域からの転入者も増えてきた。地域住民は、教育に高い関心を持ち、地域に対する誇りと郷土愛にあふれる土地柄である。</p> <p>また、農事体験学習における実行委員会組織(公民館主事・町内会長・JA・きてら・ガルテン・中学校職員)や、愛郷会などが本校教育活動を支えてくれている。</p>				
活動名			学年・教科・領域等	
上秋津中学校 文化祭			全学年	
目標	学校・園	4月からの学習の成果を発表する場としての文化祭であるが、保護者のみならず地域の方々に来校していただき、地域との関わりを深め、上秋津中学校を今以上に知ってもらう機会とする。特に、今年度は、公民館教室・サークルの方々の作品を展示させて頂き、地域の文化祭としての色合いをプラスする。記念講演では、オリンピック選手(本校卒業生阪本直也氏)を招き、「夢との出会い」を語っていただく。		
	公民館(地域)	学校行事に積極的に参画することで、公民館での学びの成果を披露するとともに、子どもたちの豊かな心や感性を育む一助としたい。また、これを機に多くの方々が気軽に学校の取り組みに触れることができるよう、地域と学校との繋がりを強くしていきたい。一方で、公民館活動の周知とさらなる活性化にも繋がりたい。		
支援者及び支援組織 上秋津公民館 上秋津公民館サークル(絵画・書道・写真)				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>《公民館との連携》</p> <p>5月…学校行事の日程説明、特に1年生の農事体験学習についての協力を依頼する。</p> <p>6月…幼、小、中、公民館との連携について協議する。</p> <p>9月…農事体験学習のうちあわせと、文化祭の日程報告</p> <p>10月…公民館主事を通して、サークル展の方に作品出品を依頼する。</p> <p>11月22日…展示用パネルの借り受けと体育館への搬入(本校育友会役員で運搬、搬入を行う。)</p> <p>23日…パネルの組み立てと作品掲示(公民館主事、サークル展の会員、本校育友会役員で行う。)</p> <p>24日…文化祭当日 公民館サークルの作品展を開催。 生徒会福祉委員会がチャリティバザーを行い、収益金を上秋津町内会に寄付し防災活動に寄与した。</p> <p>《その他の取り組み》</p> <p>1年…農事体験学習、郷土学習(班別に分かれて、ふるさと自然公園センターや田辺城水門跡などを訪問)</p> <p>2年…職業体験学習、JCティーチャー(白浜・田辺青年会議所の協力を得て、税理士、保険業、司会業などの方に職業にまつわる話をしていただいた。)ほんまもん体験(旧日置川町にて藍染め、陶芸、ソーセージ作りを体験する)</p> <p>3年…「ジュニアあきつの塾 第3弾 あきつの山川 あきつのイレブン」1年生から積み上げてきた地域学習をPR冊子に仕立て、修学旅行で配布、テナントショップ「喜集館」にも陳列する。さらに、英語版も作成し外国人が訪れる観光地や施設に配布した。</p>				

	成 果	課 題
学 校 園	・公民館サークルの作品を展示することで、保護者以外の地域の方々が文化祭を観覧してくれた。また、そのことにより、公民館サークルをアピールでき、地域の生涯学習を推進する一助となった。	・文化祭当日は小さな子どもの来場もあるので、作品の破損がないよう注意を払ったが、不測の事態が生じたときのことを事前に考えておくことが必要である。 ・生涯学習フェスティバルと日程が重なるので、準備なども含めて、公民館主事さんやサークル展の会員の方に負担がかかる。
* 子どもにとって	・昨年までは、生徒作品の展示しかなかったが、サークル展のレベルの高い絵画や書、写真にふれ、鑑賞の心が育った。	・地域や家庭における社会体験や自然体験がどんどん減少している現状があるので、様々な体験、様々な作品にふれさせてやりたい。
* 子どもにとって	・地域の方々の作品を通して文化・芸術活動への関心を高めることができた。 ・普段あまり接することが少ない方々の活動を知ることができ、また、自分たちの学校での取り組みや作品を見ていただくことができた。	・今後も地域の活動や行事等に積極的に参加し、地域の方々とのおふれあいを育み、コミュニケーション力、社会性を高めていってほしい。
地 域 (公民館)	・日頃、中学校と疎遠になっている方々が気軽に足を運びきっかけとなり、中学校、生徒の様子、取り組みなどに触れることができた。 ・生徒、保護者をはじめ文化祭参加者に地域の教室・サークル活動の一端をみていただく良い機会となり、また、会員にとっては新たな創作活動への励みになった。	・展示スペースの配分や出品数を含め、教室・サークル代表者、学校とも詳細な事前打ち合わせをして、スムーズな活動が行えるようにしていきたい。 ・今後、逆に公民館でのロビー展や文化展等で子どもたちの日頃の活動報告や作品発表の場を設ける等して、学校と地域との繋がりを深め、交流をより広げていくような活動も検討してみたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・地域の方の学校や教育に対する関心のおかげで、農事体験や文化祭はもちろんのこと各学年の取り組みにおいてもさまざまなゲストティーチャーに指導していただくことができた。

・3年生では、三年間の「ジュニアあきつの塾」の地域学習、PR冊子の作成・配布を通して、地域への理解を深め地域の一員としての自覚を高めた。地域唯一の高齢者施設でのクリーンボランティアや交流を通して中学生としてできる地域貢献をし、その意識をより高めることができた。公民館主事さんには、講師先生の紹介や地域教材(資料)をお借りするなど随分と協力していただいた。

・文化祭に作品を出品していただいたサークル展の会員の方々に、美術や国語の授業のサポートや、総合学習でのゲストティーチャーとして来ていただくことも可能ではないかと考えている。

学社融合活動実施報告

学校名 園名		秋津川中学校	公民館名	秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>秋津川中学校は、秋津川小学校と同じ敷地内に隣接して廊下でつながり、運動場や体育館、プール等を共用しながら学校生活を送っている。児童・生徒間でも教職員間でも交流が行われ、小中連携が進んでいる。ほとんどの生徒は、保育所から小、中学校と一緒に生活しているため、生徒同士の間関係もよい。また、保護者も長い年月と一緒に活動しているため連帯意識が高く、地域の人々も子ども達を見守り育てていこうとする意識が強い。</p> <p>学社融合の取り組みから、子ども達が地域の方々と触れ合うことで、視野を自分のみから地域へと広げて考えられるようになるとともに、備長炭等の優れた地域の文化を学び、炭琴の演奏を披露することで、地域に誇りをもち、地域の方々も学校行事や子ども達との活動を仲介として、地域内の交流が活発に行われている。また、コミュニティーとしてのまとまりが保持され、各種お祭り行事等、秋津川地域としての文化の形成・継承が行われている。</p>				
活動名		秋津川ふるさとまつり	学年・教科・領域等	全学年 (国語・社会・数学・理科・英語・音楽・総合)
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちとのふれあいを深め、地域を知るとともに地域の良さを発見し、地域を愛し、地域を誇りに思い、大切にすることを育てる。 ・炭琴演奏を全員で行うことで、生徒各々が責任を自覚し、発表力を高める。 ・授業を公開することで、秋津川中学校を地域の方々知ってもらい、開かれた学校づくりを進める。 		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と子どもたちが交流を深めることで、郷土愛を育み、地域としての連帯感を高める。 ・地域住民、各種団体、学校が協力して一つの行事に取り組み、来場の方々に秋津川の産業や伝統文化、教育活動の一端を知っていただくことで地域の活性化を図る。 ・地域住民に学校の取り組みに目を向けてもらい、子どもたちの健全育成に関心を持っていただく。 		
支援者及び支援組織				
秋津川小中学校育友会、秋津川公民館、秋津川町内会、秋津川振興会、JA紀南上秋津支所秋津川店、JA女性会、秋津川婦人会				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>○ 5月21日(月) 平成24年度第1回 公民館協力委員会 平成24年度秋津川公民館事業計画の提案・承認、役員の選出 第28回ふるさとまつり 11月18日(日)開催 決定</p> <p>○ 7月27日(金) 平成24年度第2回 公民館協力委員会 盆行事について</p> <p>○ 9月10日(月) 平成24年度第3回 公民館協力委員会 ふるさとまつり 開催日時の確認(11月18日(日)) 農林産物品評会へ出展の呼びかけ・お願い</p> <p>○10月23日(火) 平成23年度第4回 公民館協力委員会 ふるさとまつり 運営について協議 準備・片付けの分担や、当日の役割、当日のイベント日程等を決定</p> <p>○11月16日(金) 生徒の作品等の飾りつけ、炭琴演奏等の準備</p> <p>○11月17日(土) 地域の方々による会場設営並びに農林産物品評会等</p> <p>○11月18日(日) ふるさとまつり当日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、2限は公開授業(地域の方々に自由に授業を参観してもらう) 3、4限はふるさとまつりに参加。炭琴演奏・南中ソーランを披露 演奏曲目「トルコ行進曲」「ジュピター」 5限も公開授業 				
※昼食は、婦人会の方々が作ってくださった「おにぎり」と「五目寿司」をいただきました。				

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多くの方々が「ふるさとまつり」に来校し、秋津川小・中学校を身近に感じ、児童生徒の様子を知ってもらうよい機会となった。さらに、炭琴演奏や南中ソーランを披露することで、秋津川中学校の地域に根ざした教育活動の一端を知ってもらうよい機会となった。 ・授業参観をしてくださった方は少なかったが、本校が実施している少人数を活かした丁寧な授業の良さを認識していただけた。 ・普段の学校生活は少人数で過ごしているため、大勢の人を前に発表するという、貴重な体験を積む機会であった。 ・地域の催しへ参加することで、地域の一員としての連帯感や自覚を促すきっかけとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかく多くの来校者がいたにもかかわらず、そのほとんどは催し物会場の運動場や体育館へ行ってしまう、授業を参観して下さる方が少なかった。もう少し、当日の広報に力を入れる必要があるようだ。 ・11月には本校の文化祭も開催された。少人数の中で素晴らしい発表が続き、一部でもよいからふるさとまつりでも実施できないものかと思い、今後の課題としたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・炭琴演奏や踊りなどの披露を通して、自分たちの取り組みや地域行事に関わっている姿を多くの来場者に見ていただくことができた。 ・地域の皆さんが、一生懸命、この行事に取り組んでいる姿を通して、ふるさと秋津川の良さを再確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ないということもあって、地域からは大切にされ過ぎるところがあり、自立心の芽生えが遅れがちになりやすい。それぞれに役割分担をし、責任感を高めるようにしたい。 ・地域に対して、自分たちは何ができ、何をすべきかを考える主体的な態度を育てたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・炭琴演奏や踊りなどの披露を通して、自分たちの取り組みや地域行事に関わっている姿を多くの来場者に見ていただくことができた。 ・地域の皆さんが、一生懸命、この行事に取り組んでいる姿を通して、ふるさと秋津川の良さを再確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも地域の行事や活動に積極的に関わって、多くの方々と交流し、人間性や社会性を高めていただきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と学校が協力してこの行事を開催することで、地域の活性化にもつながっている。 ・多くの来場者に秋津川の産業や文化、そして、学校や子どもたちの取り組みを知っていただく良い機会となった。 ・少人数ながらも、子どもたちがひたむきに行事に参加・協力してくれていることで、地域住民も元気と活力をもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢、過疎の進む地域にとって、このような交流行事が益々重要になってくると思われる。今後も継続して開催していけるよう、学校ほか各種団体とも連携しながら取り組んでいきたい。 ・時間的な制約があるが、行事をさらに盛り上げ、マンネリ化を避けるために、子どもたちの声を取り入れたり、世代間で交流ができるような新たなイベント内容も検討してみたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・ふるさとまつりへは多くの来訪者があったにもかかわらず、授業参観をして下さる方が少なかったのは残念だった。授業参観をしてくださった方からは「少人数の授業がとても良かったです。」「先生が丁寧に指導している。」等、少人数故、一人ひとりに目の行き届いた授業の良さを褒めていただいた。



・7月から練習をつんできた炭琴の合奏は、「トルコ行進曲」「ジュピター」ともたいへんよいできばえで炭琴サークルの方々から、また、元気のある「南中ソーラン」は地域の方々からもお褒めの言葉をいただいた。そのことは、生徒達にとって自分を肯定的に見る材料となり、自信につながったものと思われる。

また、合奏は、一人ひとりが責任をもってよい演奏をしなければ全体としてまとまらないものであるため、各自の責任感を高める役割も果たしていると思われる。

・大勢の人前で発表できる数少ない機会であり、普段、少人数の仲間内だけでしか生活していない生徒達にとっては、たいへん貴重な体験の場となった。今後も小規模校の本校においては、大勢の場で発表する機会は大切にする必要がある。

・生徒達は、今は、地域の方々から与えられた受身の参加意識しか持っていないように思われる。今後は、企画のマンネリ化を避ける意味からも、生徒達から主体的にこのまつりを盛り上げようとする機会が設けられないものかと思う。それを考えさせることは、生徒達に秋津川地域の将来を考えさせることにつながり、郷土を思う気持ちをより一層強くすることにつながるように思う。

学社融合活動実施報告

学校名 園名	衣笠中学校	公民館名	三栖公民館・万呂公民館
学社融合における学校・地域の様子			
<p>本校では、学校が抱える教育課題を積極的に家庭・地域に訴えることにより、課題を共有化し、学校と地域が共に子育てに関わっていきこうとする地盤が確立されている。さらに取組を深化させるために、生徒と関わってくれる多くの人たちとの交流が一時的なものにならないように取組を系統立てたものになっている。</p> <p>地域の人たちとの体験活動を通して、生徒は好ましい人間関係のあり方を学び、人を思いやる豊かな人間性を身に付けつつある。</p>			
活動名	みんなが輝こう みんなで輝こう	学年・教科・領域等	全学年 総合的な学習の時間・美術・技家等
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や地域の人々とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、地域に貢献する態度を育成する。 ・地域を知り、たくさんの人やものとの出会いから、心を育て、生き方を学ばせる。 	
	公民館（地域）	<p>生徒の作品展示の場所の提供を行ったり、公民館報で行事を紹介するなど学校、生徒の様子を地域の方に知ってもらい、地域の学校としての認識を深めてもらう。</p>	
支援者及び支援組織			
三栖・万呂公民館、南紀田辺観光センター、JA三栖等地域団体、地域住民、羽田空港			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<h3>1. 地域を知って、地域の良さを発信する活動</h3> <p>① 地域産業の学習（梅農業体験等） <総合的な学習の時間></p> <p>② 地域を誇る作品づくり・生徒作品展の開催 <美術科></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域の素材を使用した作品 … 地元企業、地域住民から提供された梅枝・種、備長炭を使っての制作 *「梅・地域の良さアピールポスター」(1年)「田辺のスペシャル工芸品」(2年)「梅キャラクター」(3年) ◆ 導入：地域住民と共に地域の良さを語る会…公民館の紹介による講師招聘 ◆ 作品展：12月～2月 駅前南紀田辺観光センター、11月文化展等万呂・三栖コミュニティセンター <p>③ 世界とつながる羽田空港でのふるさとPR活動 <総合的な学習の時間・美術科></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 情報発信：5月3年修学旅行団が、郷里田辺紹介カード・梅工芸品・梅干(地元梅加工業者協力)を配布。 ◆ 取組のねらい： 空港を訪れる全国・世界の旅行者に、ふるさと田辺の良さを知ってもらう。 また、郷里への思いを深めながら取り組んだ作品を、広く味わってもらう。 			
<h3>2. 公民館を通じた学校と地域の連携の取組、三栖幼稚園との協働実践</h3> <p>(1) 共育ミニ集会「語り場～輝く星の下で、衣中生のハートに迫ろう～」(11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 星野恭子先生の教育講演会後、学校・育友会主催で共育ミニ集会を開催。 地域住民・公民館関係者・三栖幼・三栖小・衣笠中の保護者・職員で意見交流。 <p>(2) 「きぬがさポンチをつくろう！」を通じた実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 導入：幼稚園児への大型絵本読み聞かせ <国語科> ◆ 授業と保育のコラボ：「わかやまポンチ」の衣笠バージョンを、園児と共にクレイ制作 <美術科> ◆ “ ” :「きぬがさポンチ」合同調理実習 <家庭科> ◆ 三栖共同調理場の協力を得て、三栖小・衣笠中の給食メニューとして提供 ◆ 情報発信：学校新聞・公民館報でレシピ紹介、学校・公民館でレシピ配布 <p>(3) 交流の場としての三栖幼稚園庭の花園作り <技術科></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ なかよし庭園に植える花の苗の栽培、造園 「園児と栽培を共に」 ◆ 地域住民への花の苗無料配布会(2月)…館報掲載・呼びかけ 			
			
			

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりを体感する様々な取組を通して、郷土愛が生まれ、自分たちがこの地域で生きているということを実感させることができた。 ・地域の方から、学校内や教師との関わりとは違ったアプローチを受けることで、人の温かさ等を感じるとともに、コミュニケーション力を高めることができた。 ・教職員の地域や社会に対する認識が深まり、さらなる連携への意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関わり・交流を通して、生徒の規範意識をさらに高めていきたい。 ・今後とも積極的に地域、外部講師とのつながりを深め、より一層子どもや学校に関心をもってくれる人を増やしたい。 ・共育ミニ集会の実施など、学校としても、地域に対して様々な角度で関わる機会を増やしていきたい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの大人との関わりを持つことにより、多様な価値観を知り、社会性を身につける機会となり、子どもたちの成長に大きなプラスとなった。 ・活動を通して多くの方に認めてもらうことで、自信を持ち、地域への愛着を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとPR活動など、主体的に企画・運営できるようになる。 ・地域の一員として自覚し、継続して地域に貢献できるようになる。
* 子ども にとって	作品が様々な場所に飾られ、地域の人の目に触れることでやりがい、達成感に結びついているのではないかと考える。	直接地域の方とふれあう機会を増やす必要がある。
地 域 (公民館)	学校の取組、生徒の様子を地域に不定期ではあるが紹介することで、学校に親しみを持ってもらえたのではなかろうか。	まだまだ地域の方を巻き込んでの取組としては不十分であるので、学校と地域をつなぐ役割を強化する必要がある。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

本校では、「生まれ育った地域について学び、地域への愛着の気持ちや、地域に貢献したいという気持ちを育てる」という目標を掲げ、様々な取組を進めている。


この目標実現のためにも、さらに公民館との連携を深め、子どもたちにとって有効な活動に発展させられるような企画・運営をしていきたいと考えている。学習したことを情報発信していくという意味で、JR田辺駅前南紀田辺観光センター・公民館での地域を誇る生徒作品展を開催した。本年度はさらに発展させ、修学旅行でのふるさとPR活動の取組を子どもたちと共に企画、実施した。隣接の三栖幼稚園とのさまざまな実践は、子どもたちが自己肯定感を持つことができるなど多くのメリットを得ており、本校の特色ある取組となりつつある。

真の学社融合をすすめるために、学社融合活動の必要性を全職員が感じ、今後も公民館と協議・検討する時間を増やし、様々な取組を発展させていきたい。また、保護者・地域住民にも積極的に学社融合活動への関わりを強めてもらい、子どもたちの礼儀・マナー等の規範意識向上も含めた有意義な活動につなげていきたい。

《 3年修学旅行団 》
「東京 羽田空港での
ふるさとPR活動の様子」



学社融合活動実施報告

学校・園名		田辺市立長野中学校	公民館名	長野公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>地域の方々や保護者の皆さんは、学校に対して「地域の学校」という思いが強く、何事にもとても協力的である。本校は様々な体験活動を取り入れているが、地域内での体験が多く、地域との交流や郷土の学習を深めている。その都度公民館と連絡調整しながら行い、地域の人々の参加も協力的である。また、地域の人たちは長野中学校の活動を楽しみにしてくれている。</p> <p>そのような地域の雰囲気の中で生徒たちはのびのびと活動し、地域の一員として地域行事や公民館行事へも積極的に参加したり、清掃活動・プルタブ回収などボランティア活動も行っている。</p>				
活動名		熊野古道案内板作り(地域学習)	学年・教科・領域等	総合的な学習の時間
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の指導者を招き、熊野古道が通っている地元の歴史や文化について学習する。 ・熊野古道を訪れる旅行者に、わかりやすい案内板を作製する。 		
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から地域のことについて教わることで、自分達の住んでいる地域に「熊野古道」というすばらしい文化遺産があることを実感すること。 		
<p>支援者及び支援組織</p> <p>長野長尾区</p>				
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>5月 9日 こんにやく作り</p> <p>5月 田植え(天候の関係で実施できず)</p> <p>7月～</p> <p>9月 熊野古道(長尾区)案内板作製</p> <p>10月 3日 稲刈り</p> <p>10月31日 わら草履作り</p> <p><熊野古道(長尾区)案内板作りの実施要領></p> <p>1. 日時・活動内容</p> <p>5月22日 長尾地区代表と学校の打ち合わせ</p> <p>7月 9日 熊野古道(長尾区)に係わる地域学習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史に詳しい方々に来ていただき、地図を見ながら熊野古道の場所やそれに係わる名所旧跡について詳しく教えていただく。 ・熊野古道を歩く人にとって分かりやすい案内板にするためにはどのようにすればよいか話し合い、アドバイスをいただく。 <p>7月下旬 アドバイスを参考に原案を作成。地域の方々にチェックをしていただく。</p> <p>8月～9月 クラブ練習の後や、昼休み、放課後等も使って作製する。</p> <p>10月 案内板設置(地域の方々に)</p> <p>2. ねらい</p> <p>自分たちが住んでいる地域の素晴らしさを再認識する。</p> <p>遠くから来られる旅行者への思いやりの心を育てる。</p> <p>地域の人々との交流を深める。</p> <p>物を作る楽しさを味わう。</p>				
				

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが、歴史・文化のある素晴らしい地域に住んでいるという認識とともに、郷土を愛する心が芽生えた。 ・日頃お世話になっている地域に貢献することができた。 ・案内板の図案や文字を考える中で、旅行者を思いやる心が育った。 	<p>案内板作りは今回限りであるが、学校で説明を受けただけでは分かりにくいし、長尾坂を歩いたことのある生徒はほとんどいなかったのので、現地に行って調査や聞き取りをするフィールドワークが必要である。</p> <p>地域学習については、他の行事等と時間数を調整しながら継続の方向で検討していきたい。</p>
* 子どもにとって	<p>生徒の感想</p> <p>私は今まで15年間この地域に住んでいますが、改めて地域の方から話を聞くと、知らないことばかりで大変勉強になりました。</p> <p>案内板を作らせてもらえたとき、地域の役に立てうれしかったです。</p>	<p>旅行者に対する責任のある案内板作りは、大変勉強になり達成感も大きかったが、今年限りで継続できないのが残念である。</p> <p>今後は地域学習として残していく必要がある。</p>
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の史跡について詳しく知ることができ、「熊野古道」という文化遺産があることに誇りを感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内板の作成は今回限りだが、長尾区以外の地区についても今後学んでいきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の知識や経験を子ども達に伝えることによって、歴史や文化の伝承をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、地域の方の協力を得、地域学習等により、子どもが地域の歴史や文化を学べる環境を提供していきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

<評価>

・地域の方々と協力してふれあいながら活動を行うということは、中学生に地域への帰属感をいだかせるうえで大変有意義な取り組みであるとともに、地域の文化を継承し心豊かな人間の育成にも大変有意義である。

・地域の方々にとっても、学校便りで活動の様子を知るよりも、直接学校での活動や生徒の様子を目にすることで学校への理解も深まったと思う。また、わら草履作りや菊祭りなども含めて若い中学生との触れあう機会を、みな心待ちにしてくれている。

<次年度に向けての取り組みの方向>

・本校が行っている体験学習は大変バラエティーに富んでいて生徒たちの「豊かな心」を育む上で非常に有効で、全国学力学習状況調査の質問調査結果にもよく現れている。今後も授業時数を確保しながら、有意義な地域に根ざした「体験活動」を学社融合の柱に据え、効果的な実施に向け方法等を公民館・地域との協力の下進めていきたい。

・今までは授業を地域の方々と協働する狭義の融合であったが、授業時間外で学校施設を地域の方々と共用する広義の融合(コミュニティスペースの開放)も検討していきたい。

学社融合活動実施報告

学校名 園名		田辺市立龍神中学校	公民館名	龍神公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>地域の人と接することで、地域を知り、地域に学ぶという「ふるさと学習」を基本として、「自然・環境」「歴史・文化」「産業」「福祉」の4つの分野において、それぞれの発達段階に応じて特色ある実践活動を展開している。具体的な取り組みは ①「学校だより(夢抱き)」の校区全戸(約1700戸)への配布 ②体育大会、文化祭等の学校行事への参加の推進 ③ボランティア活動の推進 ④地域行事への中学生の積極的な参加 ⑤職業体験活動の実施 ⑥外部講師(ゲストティーチャー)の活用等を行っている。</p>				
活動名		地域ふれあい活動		学年・教科・領域等 全学年、各学年・総合・特活・学校行事
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の中で、子どもたちの豊かな人間性、社会性を養う。 ・活動を通して地域の方々との交流を図り、地域の文化や、地域を愛する心情を養う。さらに、地域の教育力を生かした様々な活動に発展させていく。 ・ボランティア活動やリサイクル活動を通して、地域の環境美化・保全の意識を高める。 		
	公民館(地域)・地	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を担う人材を育成する。 ・地域の人材からふるさとを学ぶ機会を提供する。 ・生徒との交流を通して、地域団体の活性化を図り、生きがいを見出す。 		
支援者及び支援組織				
龍神地域各地区、龍神公民館、龍神中学校PTA、学校評議員、社会福祉協議会、西牟婁振興局、市・環境課、龍神行政局、龍神森林組合 等				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
5/27 第1回古紙古着回収活動(旧龍神村3中学校を拠点に実施)				
5/29 1年 林業教室(講師:藤本 花子氏、西牟婁振興局林務課)				
6/13 1年 キッズスクールサポート事業(講師:和歌山県警)				
6/20 1年 リサイクル学習会(講師:田辺市市民環境部環境課職員)				
6/28 1年 食育授業(講師:咲楽小学校 松谷栄養士)				
7/9 1年 交通安全教室(講師:田辺警察署職員)				
7/11 3年 進路学活【高校数学のすすめ】(講師:井松龍神分校教頭)				
7/17 全校 租税学習(講師:田辺税務所職員)				
8/20 地域清掃ボランティア活動				
10/1 小学校運動会への参加(全校 出身小学校へ)				
10/3 全校 薬物乱用予防:北山敏和				
10/30 2年 食育授業(講師:)				
11/3, 4 荒島神社、皆瀬神社 祭礼。丹生神社 祭礼。				
11/5 3年 保育実習(柳瀬保育園)				
11/8 全校 福祉学習(講師:田辺市社会福祉協議会職員他)				
11/9 1年文化芸術ふれあい事業				
11/11 第2回古紙古着回収活動				
11/23~27 村民文化祭 美術作品展示(全校)				
11/23 村民文化祭 舞台発表 3年「混声二部合唱」で参加				
12/13 校区内の高齢者(65歳以上一人暮らし)の方にお手紙を書く。(田辺市社会福祉協議会、龍神行政局)				
1/8 虎ヶ峰清掃作業(全校)				
1/29 3年「食」に関する指導、調理実習(咲楽小 栄養士)				
2/ 宮代文化祭 美術作品展示				
3/3 第3回古紙古着回収(旧龍神村3中学校を拠点に実施)				
3/ 1年 林業体験学習(龍神森林組合)				
4月~3月 学校だより「夢抱き」の手渡し配布活動				

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方に学校の様子や活動をより多く知ってもらうことができ、地域の学校としての意識をより高めることができた。 ・活動に対して大勢の方に協力していただくことができ、学校と地域の関係を密にすることができた。 ・講師(ゲストティーチャー)招聘により幅広い分野の学習をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取り組み) ・地域の方々の協力により、自分たちの教育活動が成り立っていることを自覚させるとともに、地域の方々への感謝の気持ちを育成する。 ・地域の方への挨拶や交通ルール、マナーを向上させる。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大勢の方々の協力により、さまざまな活動ができ、より大きな達成感を味わうことができた。 ・環境美化・保全への意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に感謝する心や、これらの取り組みが貴重な体験であるということを感じてもらいたい。 ・地域の行事や活動に積極的に関わって、より多くの方と交流し社会性を高める。 ・地域の方への挨拶や交通ルール、マナーを向上させる。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある組織や団体がゲストティーチャーとして学校に入ることにより、地域で活躍している方から直接話を聞くことは、子ども達にとっても意義深い学習になっている。 ・地域の方と活動を通して交流を深められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学社融合活動で学んだことや経験を地域や今後の人生の中で生かしていけるよう大切にしてほしい。 ・地域で活躍できる生徒の育成。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が学校に出向くことにより、学校活動に対する関心が高まり、保護者以外の地域の皆さんにも「地域の学校」として、学校活動に協力いただいている。「学校だより」を手渡しで配布することにより、校区の住民がより中学校の取組に関心を持つようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合活動をスムーズに行うために、地域と学校をつなぐ人材の育成。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

評価

- ・学校だより「夢抱き」の校区(約1700戸)への手渡し配布を、年間を通じて行うことができ、学校での活動を地域に発信することができた。
- ・体育祭や文化祭に、保護者だけではなく大勢の地域の方々に参加していただくことができた。
- ・村民文化祭の舞台発表や美術作品の出品、宮代文化祭に美術作品の出品において、大勢の地域の方に鑑賞していただくことができた。
- ・祭礼の和太鼓や笛の演奏などに、積極的に参加することができた。
- ・リサイクル活動には、保護者や地域の方共に大変協力的で、たくさんの古紙、古着などの提供や回収等をしていただくことができた。
- ・清掃活動では、地域の方々からいろいろ教えていただきながら作業をするなど、異世代の方との交流を深めることができた。
- ・虎ヶ峰清掃作業の活動を通して、学校が地域にとってより身近なものになった。
- ・外部講師(ゲストティーチャー)の招聘により、幅広い分野の体験や学習をすることができた。

取り組みの方向

- ・学校、公民館、各関係団体による組織作りを行う。
- ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取り組み。)
- ・環境美化・保全活動に対する住民意識を高めていくために、広報活動の工夫をする。
- ・年3回のリサイクル活動の継続。(普段から古紙、古着をためておいてもらえるような活動としていく。)
- ・環境教育を充実させ、意識を高めるとともに、主体的に活動を進めていけるようにする。
- ・学校だより「夢抱き」配布の際に、地域の方への積極的な挨拶や、親しみのある会話ができるようにしていく。

学社融合活動実施報告

学校名 園名	中辺路中学校	公民館名	中辺路公民館・栗栖川下分館 栗栖川上分館・二川分館
学社融合における学校・地域の様子			
趣旨			
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育活動全体にわたって地域との連携をはかり、開かれた学校として、ともに地域の未来を担う生徒を育成する。 ・地域の諸団体(老人会・女性会など)との交流を通し、地域の一員としての自覚を高め、地域を見なおす態度を育成する。 ・地域の自然(熊野の森)に対する理解を深め、熊野の森の再生活動や中辺路花いっぱい運動を推進することを通し、地域に貢献する態度を育成する。 			
活動名		花いっぱい運動	学年・教科・領域等 全校・技術科(栽培)・総合的な学習の時間
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ○花作り作業を通して、花の栽培についての知識を学ぶとともに、地域の方々とのふれあいの場をつくる。 ○地域社会の一員としての自覚をもたせ、故郷を愛する心を育む。 ○花を育てる多くの作業を根気強く続けることによって、自らが得られる達成感や、地域の方々から認められることで、自尊心を高める。 	
	公民館(地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館は、学校での地域活動における支援について、可能な支援体制に努めていきたい。 	
支援者及び支援組織			
花ボランティア(登録6名)中辺路行政局・中辺路郵便局・社会福祉協議会・田中歯科・白百合ホーム・一願寺・古道館・くりすがわ保育園・JA栗栖川支所・二川郵便局・白百合学園・松尾医院・大峰診療所・栗栖川小学校			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
活動内容			
<p>「中辺路を花いっぱいにしよう」という合言葉で全校生徒で花作りに取り組んだ。生徒が中心となり、花作りボランティアの方々と一緒に、春と秋に種を蒔き、毎日の水やりを欠かさず苗を育てた。苗は、公民館・地域の各団体に配布した。</p> <p>また、「<u>中辺路中学校 花いっぱい運動をしています</u>」という看板とともに、プランターに植えた季節の花を町内六つの施設に配った。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ●5月 「花いっぱい運動 中辺路中学校生徒会」という看板とともに、プランターに植え替えた花を置かせてもらう。(田中歯科・白百合ホーム・一願寺・古道館・中辺路行政局・北郡集会所) ●6月 花の苗の配布 町内を花いっぱいになりたいという願いを込めて、地域の皆さんに苗を配布。 ●6月 お世話になっているところに花の苗をプレゼント (栗栖川小学校・二川小学校・二川郵便局・白百合ホーム・大峰診療所・松尾医院・田中歯科・くりすがわ保育園) くりすがわ保育園・白百合学園では、生徒が苗を届け、園児と一緒に花壇に苗を植えた。 ●1年間の花作りに関する作業(生徒会を中心に全校生徒) <ul style="list-style-type: none"> ①水やり作業②苗植え作業③植え替え(移動)作業④プランターの移動作業⑤肥料やり作業 ⑥種まき作業⑦ポット植え替え作業⑧日よけ幕張り作業⑨花摘み作業⑩ネット張り作業 ⑪球根収穫作業⑫ポット・プランター整理作業 			
ねらい			
<ul style="list-style-type: none"> ○花ボランティア・地域の方々との交流 ○自尊感情の育成 ○花作りや栽培の知識をつける 			

	成 果	課 題
学 校 園	根気と手間のいる作業であるため、苗の育成・花の開花を皆で喜ぶ姿が見受けられ、取り組みへの関心が高まってきた。技術(栽培分野)としての位置づけで取り組んでいるが、肥料の配合や種まきの時期など、専門的な知識が必要なケースでは、地域の花作りボランティアの方々に教わりながら取り組んだ。外部の方々に生徒の作業の様子や活動を見てもらう機会を増やすことができた。	一年間を通しての年間計画が必要。
* 子ども にとって	地域の方に花作りの指導をしていただき、互いに交流を深めることができた。「花いっぱい運動」を通して、地域の方々に認めてもらうことで、自信を持ち、地元に貢献することの喜びや達成感を得ることができた。	スケジュール的に忙しくならないよう、ゆとりをもてるようにしたい。
* 子ども にとって	・花いっぱい運動の取り組みが、地域の環境美化に繋がることできた。	・地域(公民館)のつながりを大切にしていきたい。
地 域 (公民館)	・花いっぱい運動の取り組みが、地域の方々に大変喜んでいただいた。	・地域を美しくするこのような活動を、長く続けて行けるよう公民館(地域)として出来るかぎりのサポートをしていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

【評価】

- ・今年度で四年目の活動になるが、地域の方々の参加・協力の輪が徐々に広がっていき、多くの方々に「花いっぱい運動」に関わってもらえるようになってきた。学校職員も、地域の公民館や各団体の方々と距離が近くなったように感じている。
- ・花作りボランティア・花の指導員の協力もあり、一年を通して、栽培の分野に生き生きと取り組み、学ぶことができた。年々、生徒の取り組みが充実してきている。
- ・地域の方々に喜んでもらい、お褒めの言葉をかけてもらうことで、達成感や地域に貢献することの喜びを感じる機会がたくさんあった。

【次年度に向けての取り組み】

- ・今後も学校と地域をつなぐ取り組みの一つとして、「花いっぱい運動」を継続したい。
- ・公民館をはじめ、各団体の協力を得ながら地域とのつながりが深められる活動を設けていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名 園名		近野中学校	公民館名		中辺路公民館 近野分館
学社融合における学校・地域の様子 ・伝統的に学校と地域との連携が密であり、協力的である。 ・地域ぐるみで取り組む行事として、近野区民体育祭、近露まるかじり体験、近野フェスティバル、近野山間マラソンなどがある。 ・NPO法人、JA女性会、近野獅子舞団、振興会、育友会その他地域の方々との交流が活発である。 ・今年度は全国へき研の発表の取り組みがあり。保護者・地域の方々の全面的な協力を得て無事終了することができた。					
活動名			学年・教科・領域等		
稲作・親子遠足等体験学習			全学年・総合		
目標	学校・園	・地域での活動を通して地域を知る ・生産の喜びや勤労の尊さを学ぶ ・共同作業をすることにより助け合いや協調性を養う ・汗を流して働くことにより、努力することや耐えることの大切さを学ぶ ・人とのふれあいや栽培を通して思いやりの心を育てる ・地域イベントに参加し、楽しい思い出をつくる			
	公民館（地域）	・学校、地域（公民館）が連携し子どもたちの健全育成を図る。 ・地域にある歴史的文化遺産の保存継承に努めて行きたい。			
支援者及び支援組織 地域のまちづくり団体（NPO法人「古道の里に花と愛」、JA女性会）、振興会、育友会など					
取り組みの経過（日時・ねらい・活動内容等） 4月27日（金） 箱苗作り NPOの方々のご指導の下に、1年生が箱苗を作った。 5月2日（水） 地域の方の自宅で「もみまき」体験、箱にもみをまいた。 17日（木） 代掻き 耕耘機を使って田おこした田んぼの代掻きを2年生がした。 28日（月） 田植え 学年別に、もち米とうるち米を植えた。 6月14日（木） NPO法人の方の世話で「活け花体験教室」を行う。 8月19日（日） 生徒・職員・育友会で校内整備作業を行う。 9月25日（火） 稲刈りをNPOの方や地域の方のご指導の下行う。 10月5日（金） 地域の方のご指導のもと脱穀機を使い脱穀した。 8日（日） 全国へき研にむけて校内環境整備作業をする、保護者・地域の方が計18名参加する。 19日（金） 全国へき研では保護者・地域の方・コーラスグループの方が発表に協力。 11月9日（金） 親子遠足で熊野古道を歩く。保護者・地域の方7名参加する。 25日（日） 『近野フェスティバル』において1年生が米作りの取り組みを発表する。 * 夏休み中には2年生が地域の事業所で職場体験学習を行う。					
					

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・農作業を通して、働くことの大切さを学ばせることができた。 ・米作りを通して、生産の喜びを体験させることができた。 ・数多く共同作業を行うことで、協力しあうことの大切さを学ばせることができた。 ・勤労意識が高まり、清掃活動や生産活動に黙々と取り組む姿が感じられる。 ・地域の方との交流が深まり、地域への関心の高まりが感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みに対する時間数の確保が困難であり教科授業時数確保との関わりが難しい。 ・米作りの経験や専門的な知識が必要なので、特定の指導者に頼りすぎたこと。 ・生徒が計画し、主体的に活動できる場をふやす。 ・天候に左右されることが多く、予定通りの日に実施できず調整に苦労した行事があった。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りを一通り体験することができた。 ・地域イベントに進んで参加する生徒が増えてきた。 ・地域のたくさんの方々に指導していただき、お互いに交流を深めることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習と調べ学習との時間を適切に配分すること。 ・他の行事との関係で、スケジュール的に忙しかったため、もう少しゆとりをもってできるようにしたい。 ・来年度は学校と地域との共同作業等を検討していく。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が抱える問題に気づくとともに、活性化のために自分たちも関わられることを学ぶことが出来た。 ・地域のイベントに参加することで、地域との一体感を感じる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動及び行事等への積極的な参画を引き続き地域との協力のもとに取り組んでいきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には高齢者が多く、後継者が少ない中で学校との関わりを持たせて貰って、作る楽しさと生きがいができ、今後も引き続き学校との関わりを大切にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子、高齢化が増していく中、学校と地域が一体となった取り組みが長く続けていけるよう、公民館(分館)として今後もより一層の協力体制を築いていきたい。また地域には素晴らしい文化遺産が数多くあり、それらを伝えていきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

- ・米作りを箱苗作り、もみまき、田おこし、しろかき、田植え、草取り、草刈り、稲刈り、脱穀、まで一通り体験し、収穫した米を家庭に持ち帰って食べたり、餅つき体験をすることで、生産活動の大切さを学び、収穫の喜びを味わうことが出来た。
- ・多くの方々と交流することができたので、地域の方々とより親密になった。
- ・校内整備作業には保護者の方の他、地域の方も参加してくれた。
- ・夏休み中の校内整備作業や10月の臨時整備作業には保護者の他、地域の方・公民館主事も参加してくれた。
- ・秋の親子遠足には保護者の他、地域の方も参加してくれ、例年より交流が深まった。
- ・近露まるかじり体験への参加については、来年度は計画的に参加できるように取り組む。
- ・来年度も出来る範囲で、これらの取り組みを継続する方向で計画していきたい。

学社融合活動実施報告

学校名 園名		大塔中学校	公民館名	大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子				
<p>本校では「ふるさとを愛し、心豊かに、たくましく生きる児童生徒の育成」を目標にATOM学習を展開している。ATOM学習には鮎川・富里・三川の3小学校と地域とともに清掃活動を行う「大塔リフレッシュ大作戦」があり、中学校3年生を9年生として9年生を中心に計画し、大塔公民館と連携しながら保護者・地域の老人クラブなどからも多くの参加をいただき実施している。1年生において、大塔地区3小学校と協力して、地域の方をゲストティーチャーとして招いて授業をおこなう選択交流学習を行っている。全10コースのうち「郷土の食」、「囲碁」、「大塔探訪」、「生け花」、「昔の遊び」、「茶道」の6つのコースにゲストティーチャーに入らせていただいて交流を深めている。</p>				
活動名			学年・教科・領域等	
日本の文化にふれよう			1年生 総合的な学習の時間	
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の3小学校1中学校の5・6・7年生(中学1年生)を対象に実施し、異なる学校、異なる学年を縦割りにして、地域の方をゲストティーチャーに招いて、学習することで地域の方と交流するとともに日本の文化に触れる。 ・地域の方と交流することでコミュニケーション能力の向上を図る。 ・7年生(中学1年生)のリーダー育成を図る。 		
	公民館(地域)・地	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化や地域の伝統文化を伝えることで、子どもたちに新たな発見の機会を提供するとともに、地域住民にとっては将来の地域を担う子どもたちにいろいろなことを伝え、また交流することで地域の子どもの成長を見守っていく機会とする。 		
支援者及び支援組織				
公民館・地域住民				
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)				
○選択交流学習				
日時 6月13日(水)(第一回), 10月31日(水)(第二回)				
ねらい ○地域の5・6・7年生(中学1年)が共に学ぶことで、小学校から中学校へスムーズな移行を図る。 ○地域の方から日本の文化を学び、地域の方とふれあうことでコミュニケーション能力の向上を図る。 ○7年生のリーダー育成を図る。				
活動内容				
下の10コースの中から1つを選択して、年2回学習する。				
①郷土の食	大塔の郷土料理を作り、みんなで試食会を行う。			
②囲碁	地域の方から囲碁のルールや打ち方などを学ぶ。			
③大塔探訪	ふるさとの遺跡、民俗、ものづくりなど探訪する。			
④生け花	身近にある草花を工夫して生ける。			
⑤昔の遊び	昔の遊び道具を作り、実際に遊んでみる。			
⑥茶道	お茶のたて方やいただき方など茶道の文化や世界を楽しむ。			
⑦体育1	バスケットボールを楽しむ。			
⑧体育2	ソフトテニスを楽しむ。			
⑨体育3	卓球を楽しむ。			
⑩音楽	音楽を楽しむ。			
○大塔リフレッシュ大作戦				
日時 11月14日(水)				
ねらい ○地域のポイ捨てや不法投棄について調べることによって、ごみの種類、環境に与える影響、ごみを出さないような工夫を考える。 ○地域の児童生徒や身近な方々に呼びかけをし、計画を立てて一緒に清掃活動をすることにより、みんなで協力する大切さを知る。				
清掃場所	鮎川地区 ①下附1, 2, 3 ②下附4 ③下附5 ④下附県営 ⑤宇立 ⑥向越・能登 ⑦城ノ浦・内ノ井 ⑧宮代・津呂 ⑨県営1, 2・下平・市営 ⑩射場 ⑪鉛山 富里地区 ①竹西1 ②竹西2 ③上野 ④中ノ番・下川上 ⑤支所前・平瀬 三川地区 ①面川 ②合川 ③向山			

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の授業では体験できない日本の文化を地域の方々に教えていただくことで、より深い文化にふれさせることができた。 ・日本の文化について、今まで以上に興味を持つことができたため、より密なふるさと学習を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々から教えていただいた素晴らしい知識を、実際に次の世代に伝える場を作っていかなければならない。 ・生徒の反省の中に、このような日本の文化に触れることができる授業の回数を増やしてほしいという要望が多いが、総合的な学習の時間の減少により増やすことが難しいということが課題である。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・どの分野においても、普段体験することができない日本の文化にふれることで、新しい発見ができ、そして次の世代に伝える知識が豊富になった。 ・身近にあるものが日本の文化とつながりのあることを改めて発見できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択交流学習の場だけでなく、日ごろから日本の文化にふれることができる活動に参加してほしい。 ・触れる活動だけでなく、今度は教える側として活動していきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進み、文化や伝統を教わる機会が少ない中、子どもたちにとっては新たな発見となる良い機会となった。また地域住民との交流を通し、社会性を育むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後さらに地域住民とより多くの交流機会をもち、新たな発見をすることで、いろいろなことを学ぶとともに、ふるさとに対する愛着心を育む。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに伝統文化を伝えることができ、将来を担う人材育成にもつながったと考える。また、この交流により、子どもたちの成長を身近で感じることができるよい機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後さらに学校との連携交流を深め、協力体勢の充実を図り、将来における地域の担い手育成に努める。
<p>(評価)</p> <p>・どの生徒も「いい体験ができた」や「また日本の文化に触れる活動がしたい」など、今まで以上に日本の文化に興味を持たせることができた。また、「子どもたちの成長を見ることができてうれしい」など、地域の方々にとっても子どもたちと交流が持てる場の一つになっている。生徒・教師ともにいい体験活動なので来年以降も続けていきたい。</p> <p>(次年度に向けて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々がゲストティーチャーとして活動する「郷土の食」、「囲碁」、「大塔探訪」、「生け花」、「昔の遊び」、「茶道」への希望が多いため、希望のコースで体験することができない生徒もいる。その解消をするために、参加人数の調整や今あるコースに加えて新しいコースの設置をしていきたい。 ・選択交流学習、大塔リフレッシュ大作戦以外に、今年度も講演会や学校行事への地域の方々の呼びかけを行った。次年度も今年度以上に、地域の方々への呼びかけをより密にして地域と一体となった学校づくりをしていきたい。 		

学社融合活動実施報告

学校名 園名	田辺市立 本宮中学校	公民館名	本宮公民館 本宮分館・四村川分館・請川分館・三里分館
-----------	------------	------	-------------------------------

学社融合における学校・地域の様子

「学校教育のさまざまな場面で、地域と連携することにより、地域と共に歩む開かれた学校づくり」を目的とし、「音無の里地域共育コミュニティ」を中心として様々な活動に取り組んでいる。「音無の里地域共育コミュニティ」では、昨年度までの「本宮地域共育コミュニティ」の取組を継承し「子どもたちが地域の多くの方々と交流し、多様な体験や経験を積み重ねることで、規範意識やコミュニケーション能力、ひいては確かな学力の向上を図ると共に、地域の活性化にも貢献できるよう、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実」を目指している。具体的には学校での活動を「学習支援」「ふるさとづくり」「保育園・小学校・中学校連携」の3つの柱にわけ、地域コーディネーターの協力を得ながら、地域と一体となった活動を進めている。
地域の方や保護者は学校教育に協力的であり、学校や育友会からの行事等への呼びかけをした場合、多くの方が参加、協力して下さっている。

活動名	ふるさとづくり・こだま祭り	学年・教科・領域等	全学年・総合
-----	---------------	-----------	--------

目 標	学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携・協力し、開かれた学校づくりを進める。 ・郷土を愛し、地域に貢献できる生徒を育成する。
	公民館 (地域)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活かした活動を推進し、学校や子ども達の様子を知り、交流を深めると共に、地域を愛する子どもを育む。

支援者及び支援組織

地域コーディネーター・学校支援ボランティア・公民館・保護者・地域の方

取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)

○秘湯めぐり駅伝大会、こだま祭り

こだま祭りで撒餅づくり、秘湯めぐり駅伝大会とこだま祭りのステージ司会、イベントへの参加や手伝い等、地域の祭りに協力する。



- ・司会の打ち合わせ 12月6日
- ・餅づくり

12月6日 餅米研ぎ・・・餅米を研ぎ、水につけておく。地域の方から、餅米の洗い方を教えて頂いて作業を進める。
12月7日 餅づくり・・・地域の方と一緒に、餅米を蒸す、つく、丸める作業を、生徒が分担して行う。
餅米を蒸すため、薪で火を焚く。火の調節の仕方、蒸し上がりの状態を確認するなど、地域の方に教えて頂きながら生徒も作業をする。
餅を丸める作業では、地域のベテランの方が、餅をとってくれ、生徒が丸める。
多くの地域の方がそれぞれの行程に入ってくれたので、200kgという大量の餅を3時間程でつくる事ができた。
12月8日 袋詰め・・・作った餅を1つずつ袋に詰める。保護者や地域の方も参加してくれる。



- ・秘湯めぐり駅伝大会 12月9日
クラブ毎にチームをつくり、選手として参加する。
スタートのピストルやゴールテープなどの係をする。



- ・こだま祭り 12月9日
ステージで行われるイベントの司会を生徒が行う。
生徒がコダマレンジャーのキャラクターに扮し、飴配りをする。

	成 果	課 題
学 校 園	「ふるさとづくり」に関わる活動では、地域の協力が欠かせない。そのため、事前の打ち合わせなど、学校と公民館他、地域の方とのコミュニケーションの場が増え、信頼関係を深めることができた。また、地域の方の協力を頂いたことで様々な活動をスムーズに進めることができた。	今まで以上に学校教育に関心をもってもらえるよう、地域とのつながりを深め、積極的な働きかけをしていく。
* 子どもにとって	地域の方と一緒に作業を進める中で、子ども達は多くの大人と関わりを持つことができ、地域の一員としての自覚を促すことができた。また、地域へ貢献することの達成感を得ることができた。	子ども達が自主的に地域に目を向け、主体的に考え行動できる態度を育てていく。
* 子どもにとって	地域の方に教わり、一緒に活動する中で、地域とのつながりを実感する良い機会となった。	これからも多くの地域の方と交流し、地域の行事や活動に積極的に関わっていく意識を高めてほしい。
地 域 (公民館)	地域の方が学校に出向くことにより、子ども達の活動に対する関心が高まった。参加した方からは、「子ども達とふれあえて元気が出た」などの声が聞かれた。	地域を活性化するために、地域と学校が一緒になって子どもを育てていくという共通認識のもと、学校と地域の交流を深める活動を進めていく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

本校は、三里中学校との統合により、地域に1つだけの中学校となった。今年度は、新しい中学校ということで、統合前の2校の良いところを継承しながら教育活動を進めている。取り組みの経過で紹介したこだま祭りについては、昨年度まで餅づくりは三里中学校、当日のイベントの司会や飴配りは旧本宮中学校で分担して行っていた活動である。

統合により、校区が広がったことで、行事等に参加してくれる保護者や地域の方の数も増えた。

ふるさとづくりでは、子ども達が地域の方から直接教わることができ、地域の方と一緒に活動していることが実感できる。「餅米を洗うのは冷たかったけど、明日もがんばります」「土はすごく重かったけど、熊野古道をきれいにすることができてすごくうれしかった」など、子ども達にとって、楽しさや充実感を得られる活動となった。参加して下さった地域の方からも、「子ども達と活動できて元気が出た」「子ども達の豊かな発想力が新鮮だった」など、良い感想を聞くことができた。このように、地域の方が子ども達と一緒に活動することは、双方にとってよい体験となっている。

今後も、地域の方との交流を増やし、「地域と連携することにより、地域と共に歩む開かれた学校づくり」を進めるために、地域に貢献できる子どもの育成をしていきたい。

学社融合活動実施報告

学校名 園名	田辺市立新庄幼稚園	公民館名	新庄公民館
<p>学社融合における学校・地域の様子</p> <p>子ども達の家庭や地域での生活が変化し、核家族化が進み、近所でも一緒に遊ぶ同年齢や異年齢の友達が少ない傾向にある。また幼稚園の近所でも高齢化が進み地域の人との交流が少なくなってきつつある。そのため、本園では少しでも多くの地域力を幼稚園に取り込み、「社会全体で子どもを育てていく」という機運を高めていきたいと考える。そして「共にふれあい、学びあうー異年齢の人とのかかわりを通してー」というテーマのもと、取組を進めている。その1つには公民館活動と幼稚園教育を上手く組み合わせながら、地域と園児や保護者がお互いにかかわり、学び、育ち合える取組がある。月1回実施している公民館コーラスサークル「ハミングび〜ず」との交流やお茶教室、11月には園児の作品を展示した公民館ロビー展などを行っている。</p>			
活動名	公民館コーラスサークル「ハミングび〜ず」 との交流	学年・教科・領域等	全園児
目標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現することを楽しむ。 ・歌ったり、リズム打ちをしたりして、「ハミングび〜ず」の先生と一緒に音楽に親しむ。 ・先生や友だちと一緒に気持ちを合わせて合奏する楽しさを味わう。 	
	公民館（地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルメンバーが日常行っている活動発表の場や機会の提供の一環として、園児達と一緒に音楽活動を行ったり、ミニコンサートを開く。 ・園児達に多少なりともレベルの高い内容を、お互いに楽しみながらきめ細かく指導することで園児に音楽に触れてもらう。 	
<p>支援者及び支援組織</p> <p>新庄公民館、公民館サークル「ハミングび〜ず」</p>			
<p>取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)</p> <p>◇昨年度12月に公民館コーラスサークル「ハミングび〜ず」の先生が園で、ミニコンサートを開いて、クリスマスソングを聞かせてくださる。また一緒に歌ったり、楽器のリズム打ちをしたりして楽しむ。子ども達も大変喜んだので、平成24年度は定期的に「ハミングび〜ず」の先生と園児との交流がもてないかを公民館主事、「ハミングび〜ず」の先生、幼稚園職員と話し合い、計画する。</p> <p>≪平成24年度≫</p> <p>○4月27日 ねらい「きれいな歌声に耳をすます」 内容『サークルの先生がきれいな声で歌う園歌や「はる」などの童謡を聞く。園歌は歌ってもらうことが初めてだったので、自分たちが歌うことと違い、新たな感動を受ける。また「さっちゃん」などの童謡と一緒に歌う』</p> <p>○5月25日 ねらい「サークルの先生や友だちと一緒に歌に合わせて仲良く遊ぶ」 内容『園から「大きな栗の木の下で」などの手遊びを、サークルの先生から「あなたのおなまえは」などの手遊びを提示し、みんなで楽しく遊ぶ。隣りあって座ることで、親近感が増す』</p> <p>○6月22日 ねらい「サークルの先生や友だちと一緒にわらべ歌遊びを楽しむ」 内容『わらべ歌の「かごめかごめ」「はないちもんめ」「ロンドン橋」などをして遊ぶ』</p> <p>○7月16日 ・年少児 ・ねらい「音やリズムに興味や関心をもつ」 内容『いろいろな楽器の音あてクイズやカスタネットやリズム打ち遊びなどをする』 ・年長児 ・ねらい「楽器に興味や関心をもち、曲に合わせてならしてみる」 内容『トライアングル・タンブリン・すずなどの楽器を使って「さんぼ」の曲を演奏する。その時各グループにサークルの先生が入り一緒にリズムを考えてくれる』</p> <p>○9月 ・年少児 ・ねらい「身近にあるいろいろな材料を使って楽器を作る楽しさを味わう」 内容『ペットボトルや発泡トレイなどを使ってマラカスやギターなどの楽器を自分なりに考えて作る』 ・年長児 ・ねらい「音楽を楽しむ」 内容『「せんせいとおともだち」などの歌と一緒に歌ったり、童謡「虫の声」に合う楽器を選び、自分なりにリズムを考えてならす』</p> <p>○10月 ・年少児 ・ねらい「手作り楽器を作って自分なりに表現する楽しさを味わう」 内容『サークルの先生と一緒に「さんぼ」などの曲に合わせて手作り楽器をならす。また「大きな歌」などのかけあいの歌を歌う』 ・年長児 ・ねらい「楽器を使ってリズム打ちを考えグループの友だちと話し合い演奏をしてみる」 内容『サークルの先生やグループの友だちと一緒にリズムを考え話し合い、小太鼓・タンブリンなどの楽器を使って演奏する。また「ドロップスのうた」などをみんなで歌う』</p> <p>○11月30日 ・ねらい「友だちと一緒に気持ちを合わせ演奏することを楽しむ」 ・内容「発表会で演奏する合奏や歌やダンスをサークルの先生に聞いてもらう」</p> <p>○12月14日 ・ねらい「みんなで歌や楽器遊びを楽しむ」 内容『サークルの先生たちは文化祭で発表した曲を披露してくれる。未就園の友だちも一緒にクリスマスソングを歌ったり、楽器をならしたりして楽しむ』</p>			



	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルの先生が活動に入ってくれることで活動がスムーズに進んだり、一人ひとりに以前よりも細やかなかわりもてた。 ・サークルの先生のきれいな歌声を聞いたり一緒に歌ったり、音遊び等といったいろいろな音楽活動を楽しむことができ、園児の体験の幅が広がった。 ・サークルの先生に園に来て頂き子ども達と一緒に活動をしてもらうことで、園や子どもの様子を知って頂く良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアで来て頂いているので、負担にならないような活動内容や時間配分を考慮する。 ・活動内容について、お互いに得る物があるように話し合う場を設ける必要があるが、時間をとることが難しい。短時間で共通理解ができるような話し合いの進め方を検討していく必要がある。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルの先生に認められたり、楽しさを共感してもらったりすることで、自分の思いを体や言葉、演奏などで表現する楽しさを感じ、表現方法の幅が広がってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルの先生と交流を重ねることで、お互いに親しみをもつことができた。しかし嬉しすぎて言葉づかいや態度に問題が見られる時もあったので、その都度指導していく必要がある。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園職員でも家族でもない第三者的なサークルメンバーが、日常的に保育に参加することで園児達には良い刺激になり、楽しみにもなっている。 ・興味対象の選択肢の幅が広がると共に個々の課題について深まりが感じられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌や楽器の扱いなど一定のレベルを目指したときには、技量に対する個人差の壁は大きいように見受けられるので、注意が必要だと感じる。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルメンバーの生き生きとした表情からは、子どもたちとの触れ合いを楽しんでいる様子がうかがえる。 ・クリスマスコンサートなど節目の行事ではサークルメンバーの趣向を凝らした演目が披露され、保護者や地域の方々にも楽しんでてもらっている。またそのことに手ごたえを感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル本来の活動に支障をきたさないような日程(日時や回数)の調整に努める必要がある。 ・活動に必要な諸経費の扱いについての検討が必要である。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向


・担任一人では、音楽遊びをするなかで、一人一人の思いや考えを取り入れていくことは難しいが、専門の知識を多く持つ地域の方が加わることで、一層保育活動も充実し、子ども達の更なる成長につながることを考える。新庄地域では公民館事業(生涯学習活動)が盛んなので、その事業を上手に園活動に取り入れ、お互いにかかわり育ち合える取組を進めてきた。今年度から始めたコーラスサークル「ハミングび〜ず」との交流では、わらべ歌遊び・リズム打ち・手作り楽器・合奏など音楽に焦点をあてた。サークルの先生が活動に入ってくれることで、子ども達の体験の幅が広がり、表現する力の高まりや友だち関係の深まりなど子ども達の力につながっていった。それはサークルの先生が一人ひとりの子どもの思いを受け止めたり、楽しい思いを共感したり、意見を言うなどして新しい刺激を与えてくれたりしたことが要因だと思われる。

・サークルの先生も園に来てくれることで園や子どもの様子を知ったり、子ども達とかかわることで楽しさを感じたりしていた様子であった。地域とのつながりが深まったように感じる。

・サークルの先生との交流を保護者に伝えて、保護者も一緒に楽しめるような音楽活動を考えたり、月に1回招待する未就園児たちもまきこんでの交流活動ができたりするように進めていきたいと考えている。

・「サークルの先生の負担にならないような事前の話し合い、活動の時間を考えること」、「お互いに得る物があるような保育内容を考えること」、「共通理解ができるように話し合いを進めること」といった課題もあるので、検討しながら次年度につなげていきたいと考える。

学社融合活動実施報告

学校名 田辺市立三栖幼稚園		公民館名 三栖公民館	
学社融合における学校・地域の様子 「人とかがわり育ちあう」という研究テーマのもと、園児達が、人との関わり合いを深め、地域も園児も共に育ちあえるようにと願い、日々の保育充実に取り組んでいます。三栖幼稚園は、衣笠中学校と隣接しているという立地条件を生かし、日々授業や昼休みを活用し、園児と中学生とが交流する機会を多く持っています。このような交流を通して、幼稚園・中学校の子ども達の情緒の安定、内面的な育ちにより影響を与えるということを実感し、取組を進めてきているところです。			
活動名 ドットアート「世界に一つだけの花づくり」 <small>中学校美術科授業と幼稚園保育のコラボレーション</small>		学年・教科・領域等 全園児	
目標	学校・園	・中学生との交流を通して、園児達が中学生にあこがれの気持ちを抱き、親しみをもつ。 ・中学生と一緒に色の組み合わせを工夫し、ドットアートを楽しむ。	
	公民館（地域）	・三栖幼稚園と衣笠中学校が共同で取組みを行うことにより、お互いがプラスになる相乗効果を目指す。	
支援者及び支援組織 衣笠中学校・公民館			
取組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
世界に一つだけの花づくり —美術の授業を幼稚園で—			
秋のにこにこまつりに向けて、中学生と一緒に作れる作品はないか？・・・中学校に相談 美術の授業で「ドットアート」を一緒にしませんかと提案してくれる。			
↓			
幼稚園・中学校美術科教諭が一緒になって何度か教材研究を行う。			
↓			
6月15日 ドットアートの授業を幼稚園で行う			
・中学生が授業で取り組んでいるドットアートを園児も楽しむ。 ・中学生が園児達にドットアートの仕方を教えてくれて、一緒に作品を作っていく。 ・生涯学習指導員・公民館主事も授業の様子を参観			
↓			
8月1日 中学生による作品仕上げ		・美術の先生と作品がひきたつ台紙の色を相談したり、園児・生徒の作品を貼り合わせて完成させる。	
↓			
10月～ 公民館ロビーにて作品展示		10月30日 和歌山県公立幼稚園教育研究大会にて作品展示 11月13日～ 衣笠中学校 文化祭にて作品展示	
			
上からまっすぐ ちゃんと押して。		ありがとう！ 楽しかったよ！ (授業終了後)	
			

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の専門家から技法を学んだり、指導をうけることができ、園児だけではなく教師にとってもよい勉強になった。 ・他の教科でも中学生と園児が一緒に取り組める授業があるのではないかとこのきっかけの一つとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この交流を他の教科にもひろげていけるように、さらに職員同士も交流していきたい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生と取り組むことにより、初めての活動・制作が苦手な子どもでも安心感をもって取り組む事ができた。 ・園児の想像を遙かに超える完成度の高いものが仕上がり、喜びや充実感・達成感を味わうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児と中学生がさらに仲良くなるようなかわりが生まれる交流を工夫していきたい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に教えてもらいながら集中して作品を作り、「上手にできたね。」と褒めてもらい、とても喜んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・更に中学生に親しみがもてるように交流をしていきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・園児と生徒がペアになることにより、会話をしながら作品づくりができ、生徒は園児に優しく接し、園児は生徒に親しみを持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いが笑顔になれるような取り組みを展開していきたい。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

授業でのかわり、日常的なかわりを通し、園児と中学生が親しくなることで、内面的な育ちだけではなく、幼稚園の“安心・安全”にもつながってきています。例えば、合同避難訓練では中学生が迎えにきてくれることに抵抗なく身を任せる姿が見られてきました。“親しい人が見守ってくれている安心感”や“いつも気にかけてくれている心強さ”を実感しています。

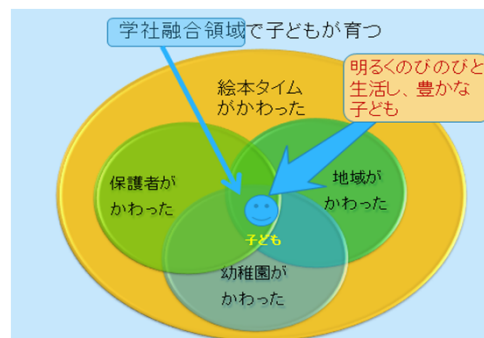
職員同士が親しくなった事で、美術以外でも技術・家庭科、体育、国語へと広がりを見せ、授業と保育のコラボレーションが次々と実現しています。今、広がりつつある交流をさらに深め、充実させていきたいです。

また、交流の仕方もお互いに無理なく、今までの取組の視点を変えたり、方法をよりよく工夫したりすることが必要となってきます。今回、ドットアートの授業では、新たに何かをするのではなく、今まで中学生が学校でしていた授業を幼稚園児も一緒に参加させてもらうという形をとりました。こうすることによって、今、授業時間の確保などが交流の課題となっている中、お互いに無理なく交流の時間を確保することができました。

そして、日常的に中学生と園児がかかわれるようにと、中学校のお昼休みを利用し、触れ合う機会(よろしくパレード・にこにこまつり・中学校へおさんぽ・季節のお花見)がもてるようにと工夫しました。授業の時間を使わずとも、隣接しているという好条件を生かす事ができるよい方法だったと思っています。

このように、お互いが無理なく長く続けていける交流の方法をこれからも模索し、実践へとつなげていきたいと思っています。公民館・地域・小学校・中学校とさらに交流の輪を広げていきたいと思っています。

学校名 園名 田辺市立上秋津幼稚園		公民館名 上秋津公民館	
学社融合における学校・地域の様子 旧田辺市の北東部、市街地より数キロ離れ、標高606メートルの高尾山のふもとに位置し、静かな環境の中に所在している。上秋津地区は年間を通して色々な柑橘類の生産が主であったが、近年は専業農家の家庭は減少していて、今年度当園における専業農家は13世帯である。また、若い年代の世帯数も増えてきて、本園では核家族25世帯、同居家族15世帯である。昔から教育熱心な地域であるので、幼稚園教育にも理解があり物心両面に協力的で、温かい支援を頂いている。地域には町内会はじめ、あらゆる組織・団体を網羅する「秋津野塾」という地域作り団体が結成されていて、様々な活動を行っている。			
活動名 「地域とかわった！」絵本タイムからの発展		学年・教科・領域等 全園児	
目 標	学 校 ・ 園	・絵本タイム支援をきっかけとして、幼稚園、家庭、地域がお互いに協力し、園目標である「明るくのびのびと生活し心豊かな子ども」を育成する。	
	公 民 館 (地 域)	・地域の方に絵本を通じた情操教育に協力していただくとともに、世代交流の推進を図る。 ・地域の方に生きがいの一つとなる活躍の場を提供し、地域の教育力の活性化を図るとともに、園の取り組みや子どもたちの育成に関心を持っていただく。	
支援者及び支援組織 公民館、町内会、保護者会			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
①絵本タイム支援 ・支援の回数を重ねるうちに、だんだんと幼稚園に関心をもってもらえたようで、地域の方々の言葉が変わってきた「この地域の子ども達をこの地域の大人たちが守って育てていきたいものだ」。 ・園児たちも、読み聞かせのお礼に、大型絵本やペープサート劇を見せた。支援の方々は、喜んで見て下さるだけでなく、上秋津地区を会場として練習している「いのちのうた」という曲の手話を披露してくれることになった。 ・同じ公民館区の炭琴サークルが、「いのちのうた」を演奏しに来てくれた。最後には、子どもも保護者も、手話つきの大合唱になった。幼稚園の活動外で余談だが、この演奏会で「いのちのうた」の関係者の方とサークルとの接点ができ「協力しましょう」との話があった。一つの活動が連鎖して地域社会に広がっていくと驚いた。			
②保護者の変容 ・保護者の方々の中にも協力したいとペンキ塗りや芝生張り、菜園の草抜きなどを申し出てくれるようになった。 ・保護者会の協力で、ホワイトボードやパネルシアターも備えたオリジナルの絵本棚が出来上がった。 ・誰も手伝ってくれなくなった「幼稚園の菜園を手伝ってあげよう。」と優しく植え方の指導までしてくれた。			
③地域の変容 ・幼稚園の垣根が低くなったことで、様々な情報を届けてくれるようになった。「地域の子どもも親も大切にしたい」という思いが感じられる。若い保護者に対して、挨拶したり、話しかけたりして見守りたいという温かい提案もあった。			
④幼稚園の変容 ・一連の活動により幼児なりに命を大切に思う気持ちが感じられるようになった。こうした、命に係わる小さな思いやりの芽を、さらに良い本との出会いの中でも、育てていきたいと思っている。 ・小学校との話し合いにおいて、「絵本」を話し合いのテーマとして提案してみたところ「絵本」「読書」という視点が切り込み口になると発達の違いによる絵本の扱い方や教育観、幼稚園で育てているもの、小学校へつなぐもの、小学校が大切にしている教育観といったことが具体的になり、話し合いの内容が深まって、幼稚園にとつては、意義あるものとなった。			



	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・本来の目的である絵本タイムが充実して、様々な力やコミュニケーション能力が育ち、園内研究の目的が、達成された。 ・絵本タイムをきっかけとして、幼稚園が身近に感じてもらえるようになり地域ぐるみの子育て意識が芽生えた。また、地域の方に様々な情報を伝えてもらうことができるなど、地域の人材により教育力が向上した。 ・小学校との連携では発達の連続性の中での幼児期の学びを再確認できた。 ・講演会や親子絵本読み聞かせなどを行い、保護者支援の充実につなげることができた。 ・絵本とのふれ合いで様々な人との信頼関係が生まれた。想像力が豊かになり思いやりの気持ちが育った。また、聞く力や集中力が高まった。 ・「命の歌」を大切にしている地域の方々の思いが伝わり、幼児なりに命を大切に思う気持ちが感じられるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方を教育の現場に生かすということは、何を育てたいために、どうかかわってほしいのかということをし、しっかりと押さえて、理解してもらえるよう丁寧に伝えておかなければいけない。 ・地域の方々が園の活動に参加されるということについては、これからも教師自身が開かれた姿勢を大切にして、自然な生活の流れの中で、共に活動の楽しさを共有できる実践となるようつなげていきたい。 ・幼稚園側から見えにくい家庭や地域の状況を把握できるなど、地域からの情報を生かして、より一人一人を大切にしたいきめ細やかな指導や配慮につなげたい。 ・命に係わる小さな思いやりの芽を、さらに良い本との出会いの中でも、育んでいきたい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を通して地域の方との交流を深めることができ、またコミュニケーション力や豊かな心を育む場となっている。 ・地域の方が自分たちのために園に来てくれているという感謝の気持ちや人を大切にするという心が育っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも地域の方との交流を重ねて、人間性豊かな思いやりのある子どもに育ってほしい。
* 子どもにとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と園のつながりが深まり、開かれた園づくりに役立ってきている。 ・当初は絵本の読み聞かせをしながらの交流のみであったが、回を重ねるごとに、子どもたちとの関係が深まり、協力者のアイデアによる「自分たちの活動の披露など」新たな交流の形にもつながってきている。 ・館報を通じての地道な広報活動や現協力者の口コミなどによりこの奉仕的な取り組みが知られるようになり、新たな協力者も出始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育んできた地域と園児とのつながりを他の園活動に活かしたり、地域の行事・活動にも広げ、地域活性化に繋げていきたい。 ・より多くの地域住民が気軽に園活動に関わっていただけるように努めていきたい。
地 域 (公民館)		

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

・今年度の園内研究では、「かわった」をキーワードに、絵本タイム、地域、保護者、幼稚園それぞれの変容を視点にした取り組みを進めることにしました。振り返って、この4つの変化の視点が組み合わったところが、学社融合の領域だと考えています。

ここで、私たちが1番大切にしたい子どもの育ち、本園の教育目標が達成されていきました。

・ゲストティチャーとしてではなく「日常の保育の場に地域の方々に入ってもらおう」・・・保育充実のために人手が欲しいという願いがあったのですが、最初は幼稚園にとっても勇気のいる一歩でした。しかし、踏み出してみると、予想していなかったような成果があり、広がりとなりました。来てくれる方々は個人情報や成長を見守るなど十分理解してくださっています、が、今後、想定外の課題にぶつかることもあるかもしれません。しかし、幼稚園と保護者、小中学校、地域との融合を図ることによって、「地域の明日を担う子どもを力を合わせて育てよう」という共通認識ができるということは素晴らしいことだと思います。

これからも実践が実現継続されていくよう努めていきたいと考えています。



絵本タイム支援



小学校図書室体験



炭琴サークル、支援者、保護者、園児の「いのちのうた」大合唱

学社融合活動実施報告

学校名 田辺市立中芳養幼稚園		公民館名 中芳養公民館	
学社融合における学校・地域の様子 中芳養地区には、地域あげでの夏の恒例行事『中芳養夏まつり』があり、今年は10回目を迎えた。実行委員会を中心として地域の各種団体の組織や協力体制の強化を図り、知恵と力を出し合い、地域の子ども達のため、また世代間交流・地域間交流、伝統文化の継承という大きな目的のもと、一大イベントとして定着してきている。 本園においては、「生き生きと活動し、豊かな心を持った子ども」の育成をめざし、地域のいろいろな人とのふれあいにより、身近な人々に親しみを持ち、人とかかわることの楽しさや、人の役に立つ喜びをという願いを持ち、中芳養地域の高齢者の会である『芳寿会』の方々や未就園児・小学校・中学校との交流も一年を通して計画的に行っている。交流の際の打ち合わせや定期的な会議などを持ち、組織的・継続的に進めることができつつある。新しい取組も入れながら関係を深め、お互いが楽しめる、お互いに意義のある交流となり続けているところである。			
活動名 芳寿会(中芳養高齢者の会)との交流		学年・教科・領域等 全園児	
目標	学校・園	・ 地域の高齢者やいろいろな人とふれ合い、人の温かさや優しさを感じ、人とかかわる喜びや楽しさを感じる。 ・ 地域の人・場・行事にふれ、地域や身近な人に親しみを持つ。 ・ 幼稚園を地域に開き、地域とのつながりや幼稚園教育への理解を深める。	
	公民館(地域)	・ 地域の人と子ども達を繋ぐ場を設け、連帯感を高める。 ・ 子ども達の健全育成に取り組む機運を高める。	
支援者及び支援組織 芳寿会(中芳養高齢者の会)・公民館			
取り組みの経過(日時・ねらい・活動内容等)			
4月25日 芳寿会・公民館・幼稚園連携会議(参加者 芳寿会会長・園長・公民館主事) 組織化に向けて平成23年度の交流活動の反省と、24年度の交流の展望を話し合い年間交流計画を立てる。			
7月 4日 七夕飾りを一緒に作ろう (年長児が先生になって)			
8月 3日 中芳養夏まつりに踊る盆踊りを教えていただく。(園児と保護者)			
9月12日 中芳養地区敬老会に出演し、歌や梅たる太鼓を披露する。			
9月28日 園児が作製した運動会のポスターを届ける。			
10月 7日 幼稚園運動会へ招待 玉いれで勝負しよう!			
10月11日 園児が書いた運動会のお礼の手紙と、園からの作品展への招待状(案内状)を届ける。			
11月 7日 作品展や園児が縦割りグループで作った遊びに招待する。 園児の絵画・自然物を生かした造形作品・花アレンジなどの園児の作品や、園児が作った「なかよしどうぶつえん」「にんじゃやしき」を一緒に楽しんでいただく。			
			
			
			
12月 4日 発表会ごっこ(生活発表会の歌や劇遊び、ダンス等)を芳寿会の方に披露する。 会長さんを通して、介護施設「グループホームなかはや」の皆さんも来てくださる。			
12月 7日 園児が書いた発表会ごっこのお礼の手紙を届ける。			
1月18日 伝承遊びで一緒に遊ぼう! 教えてね! 芳寿会の方が子どもの頃にした遊びを披露していただき、園児も一緒に楽しむ。未就園児や保護者も一緒に楽しみ、交流を図る。			
3月 一年間の感謝を込めてお礼の手紙を送る。 芳寿会の会長さんには、入園式や修了式にも来賓として来ていただき、1年を通して交流前には日程や内容の打ち合わせもお願いしている。			

	成 果	課 題
学 校 園	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進む中、どうしても幼稚園教育だけでは力の及ばない部分(いろいろな年齢層の方とのふれあい・地域の文化に親しむ経験等)を補える。 ・地域に開かれた幼稚園という意味でも、地域の高齢者の方が園に足を運び、園児と共にふれ合い活動する事は、地域全体の幼稚園理解につながっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人々との出会いや交流を通して、園児の社会性やマナー、人のかかわり方等の力を向上させていきたい。 ・芳寿会との交流を通して、地域の人々の温かさを感じ、人に感謝する心の育成や、地元の施設や自然・伝統文化等への興味関心を高めていきたい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わい、人とかかわることが好きになることにつながる。 ・愛情たっぷりの言葉かけやまなざしを注いでもらい、心豊かな時間が過ごせる。 ・昔の遊びなどを教えてもらうことで、園での経験の幅が広がり、園生活がより豊かになる。 ・地域の方との楽しい思い出は、郷土への親しみや愛着心につながっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流を持った方に、園外で出会った時も挨拶や会話が出来る力や心を育てたい。 ・地域や地域の方への愛着を心にしっかりと根付かせたい。
* 子ども にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大人と交流を深めることで、園生活以外でも見守ってくれているという安心感に繋がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生以外の大人と接することで、社交性や規律性などを身につけていきたい。
地 域 (公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとのはつらつとした交流を通じて、参加した高齢者は元気や朗らかさを与えてもらっている。 ・子どもへの教育に参加することで、地域の一員としての連帯感や一体感を育むことに寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加することへの抵抗感を無くしていくため、参加した方から、参加していない方への声かけや、公民館報などを使った情報提供をすすめていく。

評価及び次年度に向けての取り組みの方向

昨年度から、「応答性のあるかかわり・つながり・関係作り」ということを意識した取組を展開しているが、今年度も新しい取組を模索しながら進めている。

4月には、芳寿会・公民館・幼稚園連携会議を持ち、組織化に向けて平成23年度の交流活動の反省と、24年度の交流の展望を話し合う機会を設けた。互いの一年間の活動の概要がわかり、より理解を深めることにつながった。年度始めに、顔合わせや互いが顔見知りになっておくことが、交流活動をより円滑に進めるための大切なステップになると感じた。あわせて、その会で提案した11月の新しい交流会も実現して、お互いにとって意義のある楽しい時間を過ごす事ができた。

また、今年度も交流の事前事後の打ち合わせや連絡の際に、子ども達からのアプローチ(手紙や写真・寄せ書き)や、子ども達が自分の言葉で気持ちを伝えることに重点を置いてかかわりや関係づくりを進めている。このことによって、園と芳寿会の方だけでなく、子ども達と芳寿会の方、また、地域で出会った芳寿会の方から保護者が声をかけていただく交流も生まれる等、厚みのある関係づくり・交流が展開できている。それに伴い、事前と事後にもかかわりや交流がつながり、余韻の残る長いスパンでの交流になってきていると思われる。

24年3学期には、幼稚園側が予想していなかった芳寿会側からの主体的なアプローチが続いた。園にとってはとても嬉しいサプライズ。これは毎年より更なる心の通う交流を積み重ね、幼稚園と芳寿会・芳寿会の方と子ども達の絆が生まれた交流の成果だと確信している。

子ども達にできることは限りがあるけれど、子ども達とかかわる芳寿会の方にとって、子ども達の生き生きとした姿にふれることは、心が満たされ、人とふれあう喜びを感じていただけたのではないかと。また、子ども達や保護者にとっても、地域の方から温かく受けとめてもらえる経験となっている。この交流は、子ども達や芳寿会の方の双方にとって、自分自身の存在感や人とのつながりの楽しさを実感できる経験となっている。合わせて、子ども達の経験や教育の幅が広がり、豊かな心を育むことにつながっている。

次年度においても、この関係性を大切に、交流を深めていきたいと考える。

講評

I はじめに

田辺市の学社融合の実践には、いつも心がときめきます。

今年も48の実践報告が送られてきました。封を切る段階から胸が高鳴りました。報告を一つ読み終えるたびに、心が感動で埋め尽くされ、時が経つのも忘れ放心していました。今年もこのような体験を味あわせて頂けたことに感謝しています。

さて、今年度は、久々に、幼稚園区、小学校区、中学校区ごとに、それぞれの実践から学べることを記してみました。

このレポートを読み終えた時、皆様にも大きな感動を共有頂けるならば幸いです。

II 各区の特色

1 田辺第一小学校区

今回の実践は「読み聞かせ・ブックトーク・おはなし会」です。学校側が目標とするところは「地域の方とふれあいながら、読書の楽しさを体験する」「さまざまな作品に触れることにより、豊かな感性や情操を育む」「ブックトーク授業を通して、読みたい本の枠を広げる」です。また公民館・地域側のねらいは「地域の大人が、本を中心とした活動に参加することで、学校・公民館一体型施設を地域の交流拠点とする」「本を中心とした活動を進める中で、子どもたちだけでなく、共同学習者として、大人にも学びが生まれる活動とする」です。学社融合の考え方が活かされた目標設定となっています。

具体的な活動は、田辺第一小学校の保護者・地域の方、中部公民館読み聞かせサークル「リーブル」の参画を得て、「保護者ボランティアによる小学校多目的ホールの図書整備」「リーブルによる公民館ロビー図書コーナーの整備・地域への寄贈呼びかけ」が行われています。公民館ロビー図書コーナーに「約800冊の本が整備され充実した」とありますから、「リーブル」がとても熱心に活動されている様子が伺い知れます。

また、「全学年毎月2回の朝の読み聞かせ活動」も行われています。この活動について学校側は「授業に入る前の子どもたちの集中力を高め、その後の授業にスムーズに移行していく効果があった。また、子どもたちが継続的に本と接触する機会が増え、読書習慣の定着にも貢献した」と評価しています。

11月19日と20日には、学校で「ブックトーク授業」が行われています。一方、7月20日に「夏のおはなし会」、1月21日に「冬のおはなし会」が、それぞれ「長期休暇中の行事として、公民館・リーブルにて開催」されています。

これらの活動について、学校側は「さらに本を好きになる子どもが増えてきている」「今まで読んでいた本以外に様々な領域の本と出会うようにもなっている」「子どもたちはより熱中し、聞く態度が大変良くなっている」「子どもたちの読み方にもいい影響を与えている」と高く評価しています。また、それらの成果が生まれる根底には「地域の方々とのつながりの深いリーブルのみなさんが、先頭に立って本の寄贈のよびかけや、図書コーナーの整備を定期的に行うことで、子どもたちにとって常に読書活動の環境が整っている状態である」ことや、「子どもたちは、読書を通して地域の方と出会い、大

事にさせていただいているという実感が持てている」ということがあると記しています。つまり中部公民館読み聞かせサークル「リーブル」や保護者など地域住民の精力的な活動が成果を生み出す源となっていると指摘しています。しかし、それらの成果は、「継続的な活動を通じた関わりの中で、読み聞かせボランティアと子どもたちの絆が生まれ、ボランティアメンバーのやりがいや学びへとつながった」や、「たくさんの寄贈やボランティアによる整備など地域の協力で充実された公民館ロビーの図書コーナーによって、子どもも大人も公民館へと入りやすくなるきっかけとなった」と記されているように、学校や公民館が地域住民に活動の機会と場を与えていることから生じています。まさしく学社融合したことにより生じ、そして相乗的に高まってきた活動がもたらしている成果と言えます。

このような成果を生み出す根源は何かと言えば、それは「地域のサークル活動と国語の授業を融合させたことにより、子どもと大人が共に読書活動を楽しむことができた」ことにあると考えます。田辺市が“授業を核に据えた学社融合”を推進してきたことが成果をもたらしているのです。

2 田辺第二小学校区

「地域再発見『扇ヶ浜』」と題された実践は、「海開きを間近に控えた扇ヶ浜の清掃活動を町内会や保護者・観光協会の方々と一緒に行い、地域に貢献することの大切さや成就感を味わう」ことをねらう「地域ボランティア活動～扇ヶ浜清掃」（5・6年）、「市の観光協会の協力のもと、あんどん作りを行う。作ったあんどんを扇ヶ浜に並べることで、その価値を見直す」ための「あんどん作り～扇ヶ浜の夕べ」（3年生）、「今年初めて6年生は海開きに、4年生はイルカ島開きに参加することにより、さらに扇ヶ浜を身近に感じ、それを楽しむ」という「扇ヶ浜海開き」（6年生）、「イルカ島見学～in 扇ヶ浜」（4年生）から構成されています。

これらの活動によって、学校側は「地域の方と一緒に清掃活動をする中で、子どもたちは地域の方から聞く昔の思い出話や高齢者の方の知恵に興味を示し、自然とコミュニケーションを図ることができた。また、この活動は地域だけでなく、市の観光事業にも役立っているという実感を持つことができるものであった」と、その成果を記しています。また地域・公民館側も「学校行事に積極的に参加することで、学校の取組を知り、子どもたちにも声をかけやすくなった」「田ニッ子を育てる地区懇談会にも地域住民が参加し、共通の話題で話し合うことができた」「子どもたちが活動している様子に触れることで、今の子どもたちの様子が分かった。また大人も地域を振り返る機会とすることができた」という成果を手にしたとあります。

評価欄に「地域の伝統文化に目を向け地域の方から学ぶ機会はあるが、身近にありすぎるからか、地域の自然のすばらしさについてはなかなか気付くことができなかった。今回そのひとつに目を向けられた点は評価できる」とありますが、今回の実践は、日々の生活で見逃してしまいがちな地域の日常を学校や公民館が取り上げ、過ぎ去りがちな足を止めさせ、見つめさせたことに意義があると思います。それは子どもたちだけでなく、地域の大人にとっても意義深いものだったと思います。

「この活動のあとも常に意識を持って生活することができた」と結ばれたこの実践は、ふるさと田辺の明日を担う子どもを育てることや、地域に持続性のある活性化をもたら

すことについて、大きな示唆を与えていると思います。

3 田辺第三小学校区

「6月3日西部地域防災訓練に参加(全校)。「二次避難」・「炊き出し体験」他」「11月9日講師に招いての防災の授業」「11月17日保護者と避難経路の危険な箇所等を地図上で探す」「11月27日12グループに分かれてタウンウォッチング。各町内会、地域の人たちの協力」「11月30日防災マップ作成」「1月29日防災マップ作成について参観日で発表」という「防災学習」の実践は、学社融合の考え方と手立てが活かされた圧巻のある実践です。

この一連の学習は、「避難場所までの経路の安全性を各町内会の役員さんや各地域のリーダーの方と共に歩いて調べることで、防災学習を自分の問題と捉え、生きた防災学習となってきた。また、防災マップ作成にあたり保護者や地域の方々の意見・助言等を聞かせていただき、子どもたちのコミュニケーション能力を高める学習」であったと学校は報告していますが、見逃してならないことは「改めて児童や地域の方々双方が、自分たちの地域の防災について見つめ直すよい機会を提供できた」という部分です。子どもたちの学習が大人の学習にもなるという指摘です。また、その部分は、このような学習が、災害時に、子どもは大人を、大人は子どもをと、互いにそれぞれの存在を視野に入れて行動することを生み出す源にもなることを示唆しています。学校が学校教育の機能を地域にまでも活かしている素晴らしい実践だと思えます。

評価欄には、「子どもたちは、地域の方々に教えてもらったり、一緒に活動したりすることで、地域の防災活動にも関心を持って取り組めるようになってきている。また、自分たちの活動が地域の方々の役に立っているという実感を得ることが、自信と誇りにつながっている」とありますが、「実感」「自信」「誇り」が持てたことを評価する理由は、「この取り組みが、自分たちの命を守るためのものであると実感させるとともに、今後来るべき災害に対しての減災の意識の向上や地域の一員・或いは担い手としての責務を果たせるかが大きな課題である」からです。子どもを「地域の一員・或いは担い手」としてとらえ、子どもたちにも「責務」があると考えているのです。そのため、このように素晴らしい実践をしながらも、「一人一人のものとしてどれだけ防災能力を高められたかについては、未知数である」と厳しく評価しています。

子どもたちの命を守ることは考えても、考えても確かなものとするのが難しい課題ですが、今後は実践面だけではなく、子どもの命を守るための授業づくりという計画段階にさらに多くの方々に加わって頂くことで、より安全な環境を生み出していくことができるのではないかと考えます。また、そのことは、「30歳から50歳の方々の防災意識が薄いことから、今後は、こういった方々を精力的に巻き込むかたちで、取り組みを進めて行かなければならない。そのためには参加型から参画、実践型の防災訓練へと内容も検討していかなければならない」という課題の解決の糸口にもなると考えます。

4 芳養小学校区

芳養小学校区の皆さんと学社融合の研究・実践に取り組んでから早くも5年近くの歳月が過ぎようとしています。「学校・保護者・地域・公民館が一体となった子どもの健全育成を図るとともに、学社融合の取り組みを進めている」「地域の教育力を生かしたさまざまな授業にも、地域の方々がS P(スクールパートナー)として参画し、担任

とともに授業を作り上げている)」という報告を読み、芳養小学校区において学社融合の火が消えるどころか、ますます燃え盛っていることをとても嬉しく思いました。

「将来、地域活動に積極的にボランティアで協力する人になるという素晴らしい目標を持った子どもを育成することができた」という芳養小学校区の学社融合の原動力は、「平成19年から実行委員会を立ち上げスタートした『芳養ふれあい教室』」です。芳養小学校区の学社融合は、「芳養ふれあい教室」という放課後の子どもの居場所づくり活動を中核に据えた他に類を見ないスタイルを持つものです。放課後子ども教室を通じて地域の人材発掘が行われ、教室活動を通じて学校教育でも活動できる資質を身に付け、学校の授業に人材を送り出しています。そして授業で指導力を向上させた人材が、教室に戻ってきて教室活動をさらに発展させています。その「芳養ふれあい教室」に今年度「田辺市青少年健全育成市民会議より感謝状が贈呈された」とのことです。また、「芳養ふれあい教室」を陰で支えてきた芳養公民館も「文部科学省より第65回優良公民館として表彰された」とのことです。両者に心からの祝福を送ります。

「今年で6年目」となった「芳養ふれあい教室」は、「芳養地域人材バンク登録者を中心に、多くの地域の方々が主体的に教室運営を行っている」もので、「どの教室についても、みんな『生きがい』や『やりがい』を感じながら積極的に取り組みを進めている」とのことです。「教室」とは、「囲碁教室、茶道教室、生け花教室、書道教室、読み聞かせ教室、フェルト教室、キンボール教室の7教室と梅ジュースづくりの特別教室」です。これら昨年度までの教室に、「本年度から新たに『英語教室』と『中国語教室』を取り入れ、9教室になった。英語は、低学年（1～3年）と高学年（4～6年）の2クラスで、大変好評であった。児童に幼少期から外国語に触れる機会をもたせるために、中国語教室を開講した。和歌山県では、初めての取り組みであり、講師は芳養地域の住民である」「芳養公民館『秋の作品展』、に子どもの生け花・書道・フェルトの作品を出品する」と、活動をさらに拡大しています。活動の継続と拡大は「①講師・協力者全員が無償で運営していること②公民館の事務局が地域住民と学校と教育委員会のパイプ役となり、外部コーディネーターの役割を果たしてくれたこと③学校と地域(公民館)が両輪として機能したこと)の三つが要因であると分析されています。それらは、学社融合のシステムが芳養小学校区にしっかりと根付いたことを物語っていると思います。

5 大坊小学校区

「校区内には文化施設や商店はなく、学校は地域住民のセンター的役割を果たしている。そのため、地域住民は学校への愛着も強く、学校行事等の児童活動にあたっては、全地区あげての協力体制が得られている」という大坊小学校なのですが、学校行事への協力には「児童数、家庭数の減少により、保護者への負担が大きくなってきている。地域の人々の理解を得ながら、保護者に負担感のないようにしていく」配慮が必要となってきています。

そんな中で、児童にとって「地域の多くの人々に練習の成果を見ていただくことが大きな励み」となる「秋季運動会」を9月29日に行っています。「大坊小育友会」「白楽会(大坊・団栗 老人会)」「大坊・団栗青年団」「芳養婦人会」「中芳養中学校生徒」の協力を得ることができ、「中学生や青年団等若者の参加者が多く、活気のある運動会となった」とのことです。

この取り組みは、4月4日に「育友会役員会で運動会の日程について協議する」ことから始まり、「8月3日運動会での関係団体との連絡、調整や競技について役割分担を決定する。育友会役員と小学生以外の種目について協議する」「8月16日運動会実行委員会を開く。出席者（地区長・班長・校区協議会役員・白楽会・青年団・育友会役員等21名と学校職員3名）。競技等、運動会の内容について協議する。地区の班対抗競技の参加者集めが高齢化により難しくなっていることへの解決策など共通理解をする」、「9月25日芳養浦音頭講習会。芳養婦人会から4人来校し、踊りを教えていただく（保護者も参加）」、さらには運動会終了後にも「10月4日育友会役員会で運動会の反省と来年度に向けての課題を話し合う」と、およそ半年をかけて実践されています。

報告書ではこの取り組みを「取り組みが長期にわたることで、より密接な地域間・世代間の交流を図ることができた」と評価していますが、私も長期に及ぶものであったからこそ、子どもたちが「地域の人々が運動会を盛り上げてくれることを知り、地域の一員である自覚を育て、愛着を深めることができた」「子どもたちの取り組みをみたり、子どもたちとふれあったりすることが、地域の方々の活力となり、地域の活性化につながった」のではないかと思います。

この実践は、負荷を減らすことの重要性と同時に、教育効果をあげる上で時には負荷を活かすことも必要だと教えてくれているのではないのでしょうか。

6 新庄小学校区

「新庄地域は、夏の夜、通りの玄関先などに野菜等で作った作品をお供えする『ぎおんさん』という伝統的な行事が行われているそうです。

『ぎおんさん』から学ぼう」と題された今回の実践では、第3学年が「1. 新庄地域の、いつどこでどんな行事が行われているか調べる。2. ぎおん祭の『ぎおんさん』について調べる。3. 『ぎおんさん』に参加する（地域の方、保護者）①「ぎおんさん」についてのお話を聞く。②夜見世の出し物の作り方を教えてもらう。③出品する作品を考える。④作品をつくり、紹介し合う。出品する。⑤感想をまとめる」という活動を行っています。

また、第6学年は「1. 祇園祭について調べる。2. 地域の方に『ぎおんさん』の話聞く。3. 調べたことを新聞にまとめる。①紙面のテーマや内容を考える。②取材をする。③編集会議をする。④紙面に仕上げる。4. 紀伊民報『みんなで作る学校新聞』で、多くの人に読んでもらう。5. 学習を振り返る」を行っています。

2つの学年とも「『ぎおんさん』に参加する」「紀伊民報『みんなで作る学校新聞』で、多くの人に読んでもらう」と、子どもたちの学びを学校の範疇だけにとどめず、子どもたちに地域社会に直接働きかけさせていることが素晴らしいと思います。こうするからこそ「地域と連携し、地域を知り、地域を学び、地域を愛する児童を育成する」という目標が達成できているのだと思います。

新庄小学校区においてこのような質の高い学社融合が実践できているのは、「新庄公民館・新庄幼・新庄小・新庄二小・新庄中の担当者が定期的に集まり情報交換をしている。そこで、年に一度当番校が公開授業を行う合同研修会を開催し、全職員が共に研修をしている」からなのだと思います。今後の課題として「作品作りなどだけではなく、町並み保存なども含め、行事そのものの継続性を図ること」をあげていますが、担当者によ

る定期的な集まりや合同研修会に町並み保存の関係者等を加えることで課題が解決できるのではないのでしょうか。この実践の今後の深まりに大いに期待しています。

7 新庄第二小学校区

「みんなでワイワイ たのしい図書館講座」は、図書ボランティアさん打ち合わせで、「ボランティアの方々から、図書に関する講座開設の提案」があったことから始まっています。その後「新庄第二小学校全保護者に案内配布」が行われ、「図書館講座開催事前打ち合わせ」の後、「9月14日（金）に第1回図書館講座 テーマ『分類』。日本十進分類法に基づく、図書の分類のしかたについての講義」。その後さらに広報活動として「第2回開催のポスターを新庄公民館、新庄幼稚園、わんぱく保育所に掲示（以後継続）」が行われ、「10月30日（火）第2回図書館講座 テーマ『本・子ども・そしておとな』。子どもの読書環境への関わり方についての講義」がありました。そして再び「第3回開催案内を新庄小学校全保護者にも配布（以後継続）」し、11月22日（木）第3回図書館講座 テーマ『読み聞かせ』 読み聞かせと著作権、読み聞かせのメリットについての講義」、「12月12日（水）第4回図書館講座 テーマ『読み聞かせ②実践編』 講師指導のもと、絵本、紙芝居の読み聞かせ実践練習を行い」、「1月22日（火）第5回実施予定 テーマ『ブックトーク』」を行っています。

この取り組みは、これまでの活動報告書には例を見ないもので、田辺市における新たな学社融合の動きとして注目すべき活動です。報告にも「この活動がボランティアの方々からの提案で始まったということにも大きな意義がある。学校は事務的な仕事を担当し、運営などはボランティアの方々の主となって行っている。『子どもたちのために』という思いで、地域の方々が積極的に学校に出入りし、自発的な取り組みにより、子どもにとって良い教育環境が生まれ、また地域の方々にとっても良い繋がりを築ける場となっているという点では、正に学社融合の基盤となっているといえる」と記されていますが、まさにそのとおりであると思います。報告では、さらに、「講座で学んだ内容は、前年度から取り組んできた図書ボランティアの活動をより活発なものにすることができている」「今後はさらに活動を広げ、図書分野だけでなくボランティアの方々の得意を生かした新たな取り組みなどに発展させていければと考えている」と述べていますが、地域住民の主体的な学びがあってこそ田辺市の学社融合はさらに発展するのだと私も思います。

なお、「最初は本校保護者だけであったが、広報範囲を広げて回を重ねていくうちに、他校区からの参加も見られるようになった」という記述からは、田辺市の市民が主体的に学社融合に取り組み出したことを読み取ることができ、田辺市の学社融合がいよいよ行政主導から市民主導へと変化してきたことを感じ、とても嬉しく思いました。

8 稲成小学校区

「稲成地域ふれあいスクール」では、「土曜日の午前中や水曜日の放課後」に、「卓球、ドッジボール、サッカー、キンボール、水泳、オセロ・将棋、学習（自由課題）、サイエンス・スクール（科学工作）、カヌー、サッカー、囲碁・将棋・オセロ、音楽鑑賞、手芸、竹とんぼづくり、読み聞かせ」など行っています。水泳やカヌーなどの種目もあり、「放課後や休日の子どもたちが安全・安心してすごせる居場所づくり」としてはかなり珍しい存在であるように思いました。総合型地域スポーツクラブに近いような居場所づくり

がなされているように感じました。読み進めて、さらに驚きました。「ふれあいキャンプ」、「チャレンジ通学合宿」、「ふれあいハイキング」と記してあったからです。まるで公民館活動のようです。

このように多彩な活動は、「基本的には誰でも自由に参加できるので、今まで経験のない活動にも安心して気軽に取り組むことで、子どもたちの興味や関心の幅が広がっている」「学校生活の中では少なくなった異学年交流が自然に行えている」「教師や家族以外の大人と関わることで、地域の方々に対する感謝の気持ちをもつことができた」「自力で様々な活動に取り組むことから親の気持ちを理解できるようになった」といった成果を生み出しています。実に素晴らしいと思います。

運営面では「教職員だけでは十分な指導ができないことも、地域の方々にご参加いただくことによって指導可能となった」と地域住民の参加・参画が進んできたことが書かれていますが、「取り組む内容によっては、運営が学校主導になることも多いので、地域の方々の一層のご参加をお願いしたい」「ふれあいスクール本来の趣旨に則り、教職員の負担を軽減することが必要である」ともあり、これまでの成果をさらに発展させるには今後の検討、改善が望まれます。

9 田辺東部小学校区

報告の冒頭に、「ひがし公民館が隣接されている本校では、定期活動として児童による大集会室の清掃や、公民館報の裏面に学校だよりを掲載し、全戸配布を行うこと、連携行事として『ひがしふれあい秋祭り』の開催や、NPO花つぼみさんの協力により3年生が公民館前に花を植える活動等を行っている。また、地域にある4町内会（朝日ヶ丘・あけぼの・新万・南新万）には、登校時の子どもを守る『オールとうぶ一斉見守りの日』や学校支援ボランティア募集にかかる回覧協力、さらに秋まつりを通して2年生制作のポスター掲示をお願いしたり、当日のゲーム運営をしていただいたりと、多大なる協力をいただいている」とあり、田辺東部小学校区においては学社融合が日常的、積極的に行われていることが伺い知れます。

今回報告された「ひがしふれあい秋祭り」の実践に対して、学校は「11月の学校開放月間の取組の一つとして、低学年の生活科の取組を発表する『秋まつり』と、中高学年の授業参観を日曜参観日として位置づけることで、保護者や地域住民に学校の学習活動の様子を知らせるとともに、午後は地域のまつりとして根付いた『ひがしふれあい秋祭り』に学校をあげて参加することで、子どもたちに地域とのふれあいの大切さを気づかせたり、地域住民としての自覚をもたせたりすることを目指す」としています。また公民館は「核家族化や行動情報化、価値観の多様化などが進み、地域への関心が薄れつつある中、4つの町内会と地域の各種団体、学校、公民館が合同で年1回、地域の方々が集う催しを開催することで、幅広い世代の方々たちが知り合いふれあえるきっかけを作り、近隣住民の交流の促進を図るとともに、地域の連帯感を深めることを目指す」としています。

「1年ごとに1つの工夫をしていく」ことを意識したことにより、今年度の「ひがしふれあい秋祭り」は例年以上に盛り上がり、「ひがしふれあい秋祭りを通して、公民館をはじめ町内会や地域の各種団体と学校が協力して1つのものを作り上げることができた」「ひがしふれあい秋祭り」と本校の学校開放月間の取組（低学年秋まつり・日曜参

観日)がタイアップすることで、午前・午後を通して大勢の保護者や地域住民が小学校に集い、学社融合の理念に基づいた取組が行えた」という成果をあげています。

次年度には、すでに「参観授業において、地域人材を活用した授業や体験を行ったり、児童が中心となって学習したことを地域に発信したりする授業の展開」、「実行委員会としては、地域住民全員が1つになれるようなイベントを考える」、「学校と地域をつなぐ役割を公民館が果たすという本来の目的を再確認し、学校の力、地域の力を強いものにしていく」ことなどが確認されており、さらに充実した取り組みが進められることが期待できます。

10 会津小学校区

会津小学校区でも学社融合は日常的、積極的に進められており、「会津さわやかコンサートや麦の収穫体験をはじめ、学校が保護者や校区協議会、公民館、NPO等地域の各種団体と密接な連携・協力体制を図りながら、様々な地域活動・学校教育活動を展開している。現在481名の児童が通学しており、校区協議会の登下校の見守り活動や、公民館での子ども向け教室などをはじめ、地域で子どもたちを見守る活動にも積極的に力が注がれている。また、地域スポーツクラブ、会津スポーツクラブの活動は、子どもたちのスポーツに対する関心を高めると共にスポーツに親しむ機会となっている」と記されています。

報告された実践「夢あんどん祭りの開催」は、8月18日(土)に行われ、「第5回目となった今回は紀菜柑、会津小学校の両会場と会津川の両岸に前年度までに作製したものと合わせ計1500余りの「あんどん」を並べ点灯しました。会津小グラウンドに並べられた約500のあんどんには『夢』をテーマに様々なメッセージや絵が描かれており、様々な夢があり楽しんでいただきました」と記されていますが、あんどん作りは「7月中の各クラス図工の授業に位置付け、秋津・万呂公民館を会場に計8日間にわたりあんどん作り教室を開催。両老人会のご協力もいただき、大人からの指導・補助のもと」に行われたそうです。

当日の様子は、「あんどんのほのかな明かりの中で、一つひとつのメッセージを家族で読む風景は心をほのぼのとさせてくれます。また、全体会場から学校へと続く会津川の堤を照らすあんどんは、昨年までに作ったあんどんが地域の祭りを彩っていることになっており、会場を歩く家族が、『これは、〇〇君のあんどんや』などと会話をしながら歩いている様子も地域の一体感を感じます」と記されています。一度は目にしてみたい光景です。

この実践は学校の力を活かして子どもの力を地域に活かす素晴らしい実践ですが、日頃から学社融合に地域をあげて取り組んでいるからこそ可能なのだと思います。

11 上芳養小学校区

「上芳養地域の主要農業である梅について、種類や育成・加工方法など全般に理解を深める。実際に梅を木からもぎ取り、梅ジュースや梅干しに加工する体験と、JA職員による講義を通じ、実務と座学の両面から理解を促す」(学校)、「上芳養地域の大半の方が関わっている梅産業について学び、郷土に対する理解や誇りを育む」(公民館・地域)を目標とした実践報告です。

この報告からは、田辺市の学社融合は学校と公民館の協働が基盤にあり、公民館が機

動性を発揮することによってそれを支えていることがよく読み取れます。「6月6日(水) 小学校教頭、公民館主事で梅農家の新井さんに梅畑を借りるお願い。7日(木) 小学校3年担任と主事にて梅学習の詳細について打合せ。JA紀南上芳養支所職員と主事にて梅学習について打合せ。12日(火) 担任と主事にて最終打合せ。15日(金) 梅学習(梅への理解を深めるための講義、梅もぎ・梅ジュース作り体験)。22日(金) 担任と主事にて打合せ」と、公民館主事がコーディネート機能を発揮し、学校と地域を機能的に結びつける働きをしています。

「農業体験学習として位置づけ、3年生～6年生まで系統立った取組として継続的に実施できている」とありますが、それは学校の教育的専門性と公民館のコーディネート力によって成し遂げられているのではないかと思います。

12 中芳養小学校区

「地域としては、旧住民と新住民の交流・融和が課題である」と認識した学校と公民館・地域は、「盆踊りの練習(中芳養で傳承されている踊りも含む)」の実践に取り組みました。ねらうところは「中芳養地域に傳承されている盆踊りを低学年の頃から指導することにより、中芳養の文化を繼承する機会とするとともに、子どもたちには中芳養の住民としての意識づけをし、アイデンティティを育む」ことでした。結果として「盆踊りに大勢が参加し、中芳養夏祭りの更なる活性化の一翼を担うことができた」ということです。

この実践の意義は、「学校における学社融合の取組は、子どもの教育活動や様々な行事を通じて、住民間の交流・融和を図る重要な役割」があると学校や公民館・地域が認識しているところにあります。そして、学校がその役割を果たすためには「地域がもつ教育資源(様々な力を持つ人材)を学校教育へ導入して中芳養として特色ある学校教育を展開」することであると考えていることです。

授業を中核に据えて学社融合を推進してきた田辺市ならではの実践と思います。

13 上秋津小学校区

「地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、自然や生命の大切さに触れさせながら、生き方指導につなげていく」ことを目標とした「農業体験学習」は、「児童のコミュニケーション能力、優しさや豊かな心などが生まれ、「人格形成」に大きな成果をもたらすとともに地域作りに貢献できている」と記されています。

具体的には、「梅畑の所有者やJA紀南(青年部を中心に)の方々の指導を受け、梅の観察・収穫・梅ジュース作りなど」をする中で、「地域で梅作り、みかん作りに携わっている方々との自然な形での交流により、地域の方々に対する敬愛の念や感謝の気持ちをもつとともに働くことの厳しさを感じ取るなど」ができているとのこと。

このすばらしい実践は、今、「梅やみかんの体験学習は、総合的な学習の時間の中で行ってきた。しかし、総合的な学習の時間が少なくなっているため、これまでの取り組みの質を落とさず、より意義深いものにするために他の学習活動を合わせて取り組む必要がある」という課題を抱えています。しかし、この実践の意義の大きさは、学校や公民館・地域に、「今後は、現在の取り組みを継続するとともに、旧校舎を利用し地域で取り組んでいる『秋津野ガルテン』(滞在型の農業体験学習・農家レストランなどの『地産地消』、みかん資料室の活用)と連携を進めていきたい」という新たな展開を夢見さ

せています。次年度には、それが具体化され報告されることを期待しています。

14 秋津川小学校区

「備長炭学習」は、「①備長炭の学習」「②炭琴サークルとの交流」「③炭琴演奏」から成り立っています。それぞれの学習段階において地域見学や地域人材の指導などが組み込まれ、地域に密着した学習が行われています。

これらの学習から得た成果や炭琴の演奏、「炭琴の歌」の合唱を全国へき地教育研究大会において全校生徒で発表したそうです。

この活動からは「備長炭についての調べ学習を全校児童で取り組み、地域の方々だけでなく他府県の方々に備長炭について発信する機会をもつことができた」「炭琴作りや炭琴サークルの方の演奏のもとで歌を歌う機会をもつことで、サークルの方々との交流を深めることができた」という成果を手にしていきます。「地域の歴史や産業、伝統文化を次世代へ継承し、ふるさとを大切にすることを育てる」という秋津川小学校区の目標が達成できていると思います。

また、別に「おるり音頭」を「5・6年生が秋津川公民館長、地域の方から指導を受け、敬老行事で発表した」という報告も記載されていました。「子どもたちにとって『おるり音頭』の継承は、地域の伝統文化を学ぶよい機会である。次年度からは中学年から参加する方向で進めていきたい」とのことです。次年度の報告が楽しみです。

15 三栖小学校区

「地域住民は、学校への関心は高く、とても協力的である。『運動会』や『クラブ活動』、『梅干作り体験』などの取組には、保護者、老人会、婦人会など各種団体と連携を図りながら行っている。また、児童は地域の様々な方との交流を通じて、地域への理解が深まり、文化と歴史ある『我が故郷』の愛着と誇りが育まれている」という三栖小学校区では、今年度「地域と歴史」をテーマに、「三栖地域の歴史への理解を深めるため、地域を実際に歩き、そこにある史跡を見たり、それにまつわる説明を聞いたりする」活動に取り組みました。

この取り組みによって「本校には熊野古道が通り、史跡なども多く残っている。児童は登校途中など目にはしているが、それがどういうものなのか知っている児童は少なかった」という実態が、「今回の学習を通して、それぞれの史跡がいつ頃のもので、どうして建てられたものかという歴史を学ぶことができ」、「世界遺産である熊野古道が自分たちの住む地域を通っていることを知り誇りに感じた」という実態へと改善されました。

「公民館文化委員の方が8名程度、また住職さんの協力などを得ながら説明していただいたり、一緒に弁当を食べるなどの交流」がその成果を生み出したと思います。地域の教育力は、学校教育で活かされるならば、その力は増幅され、子どもを変え大きな力になるということです。

16 長野小学校区

「ながのすてきはっけん」(1・2年)、「ふるさと発見 梅の里長野」(3・4年)、「自分たちでできる防災対策」(5・6年)、食育の取組「サツマイモの袋栽培」(全学年)を行っている長野小学校区の報告で注目した点は、「長野地区は、学校と地域が互いに協力し合って行事を行い、各諸団体との関係を密にし一体となって教育に取り組んでいる。地域の教育力を相互に活用し合い、子どもから高齢者まで共に学び合う環境をつく

っている」という記述でした。中でも「地域の教育力を相互に活用し合い、子どもから高齢者まで共に学び合う環境をつくっている」という部分に強く興味を惹かれました。

しかし、残念なことに報告ではその詳細を知り得ませんでした。次年度の報告で「地域の教育力を相互に活用し合い、子どもから高齢者まで共に学び合う環境をつくっている」こと具体例を示して頂ければ、田辺市の学社融合のさらなる進展に寄与するものになると思います。

17 伏菟野小学校区

全校児童7名の小規模校で開かれた「ふれあい交流会」に、約300名余りの方が参加したというのですから驚きは隠せません。

『ふれあい交流会』は、学校開放月間である11月の日曜日に、児童と保護者・地域の方々が交流できる中味になるよう工夫して実施している」そうですが、「今年度は、復興に向けて取り組む地域の活性化と学校の活性化を図るために、従来の『学習発表会』と『陶芸教室』に加え、『ふるさとコンサート』『人権の花風船』『給食試食会』を計画し、実施した。支援者や支援組織も拡大し、より一層内容の充実した交流会になるよう取り組んだ」とのことです。「現在、地域は復興に向けた取組の真っ最中であるが、百数十名余りの方が交流会に集い、劇を見たり、児童と一緒に歌を歌ったり、一緒に給食を食べたりすることを通して、楽しい1日を過ごし交流することができた」ことは、台風被害からの復興にも大きな力となったのではないかと思います。

この報告からは学校が持つパワーの大きさを改めて感じました。と同時に、学校の大きなパワーを地域に活かすためには、「公民館報で参加を呼びかけたり、子どもたちが招待状を配って回ったり、区の役員の方たちが参加を呼びかけてくださったり」や「保護者も、交流会の受付や給食試食会の配膳係、熊野川地域の方の送迎などさまざまな役割を担い」とあるように、公民館や地域が学校のパワーを活かすために積極的に働くことが大切だということを教えられました。

18 咲楽小学校区

「各地区の区長、老人会長、女性会代表や公民館分館長、有識者、PTA、学校職員で組織する学校地域連携推進会議を中心に、学校と学区民が連携を図り様々な活動に取り組んでいる」という咲楽小学校区の実践は、「運動会や学習発表会、学校開放の日等には、地域の方々も大勢来校し、児童の様子を見ていただいたり一緒に参加していただいたりして、交流を深めることができている。毎日登下校時に一緒に歩いてくださる方もいる。また、各教科や総合的な学習の時間等では、地域の方がゲストティーチャーとして学校に来て下さったり、児童が校外に出て地域の方の指導を受けたりすることも多い。さらに、学年PTAの活動としても、地域の方を講師に、藍染め、木工、お菓子作り等を保護者と児童がともに学び、楽しんでいる。地域の祭礼には、学区民のお世話で児童も笛や太鼓、獅子舞等、積極的に参加し、児童会で作ったゴミ箱を設置して喜んでいただいている」といった成果を生み出しています。

今回の報告では、そこで養われた力が公民館活動の充実にも役立っていることが報告されています。「4月26日龍神公民館福井分館第1回運営委員会が開かれる。年間計画を立てる中で、公民館主催の人権学習会について検討する。現在地域住民は土砂崩れなどの災害についての関心が高く「防災と人権」について学習してはどうかという意見

が出され、学校においても、児童や保護者を対象に 防災に関する学習をしたいと考えていたので、保護者と地域の方が一緒に防災と人権ついでの話をしてはどうかと提案。子どもも参加すれば、親子で災害発生時の行動等 について話し合う機会が持て、公民館にとっても小学生や若い保護者に話を聞いてもらえるのはありがたいという声をいただき、公民館・学校共催での防災学習会の実施を決定する」という記述です。

学社融合が公民館活動をも活性化することが明らかにされた取り組みだと思えます。

19 中山路小学校区

中山路小学校は、「専門性を生かしつつ、学校が地域住民の活動の場となり生き甲斐の場となるよう公民館ともタイアップして様々な活動に取り組ん」でおり、今後も「地域に貢献できる『地域の学校』となるよう取組を進めていきたい」と考えています。

この考えのもと、本年度は、「地域住民に活動の場を提供すると共に、地域住民と子ども達や教職員、保護者との交流を深める機会とする」ために「親子で描けるパステル画体験」を、学校を会場に公民館と共催しています。また「過疎化・高齢化により一人暮らしの方も多くなるなか、公民館と協力して地域住民に活動の場を提供し、地域住民同士・保護者・地域と学校の交流をねらい」、「せんだんもちつき交流会」を開いています。

これら中山路小学校が行った実践は、学校の機能の地域開放という学社融合です。学校の活動を支援してもらうとか、活動に参加してもらうというレベルではなく、学校の活動を地域住民の学びの機会、場として提供するという積極的な行動です。学校教育の基盤である家庭や地域が揺らいでいる現状を考える時、中山路小学校区の取り組みが先駆的なものを感じられ、そこには大きな意義を感じます。

20 上山路小学校区

「本年度、本校と公民館・三分館は『地域の教育力を生かした学社融合事業の推進～統合校と地域における学社融合のさらなる推進をめざして～』というテーマで田辺市教育委員会より研究指定を受け、本年度から3年間研究を進めることになった」とのことですが、そのテーマに驚くと共に、「本年度は、研究初年度として、現在実施している学社融合の各事業の進め方や地域の人材を活用した授業の在り方について検証すると共に、地域の特色を生かした新たな授業づくりについても研究を始めている」と、授業を通して研究テーマに迫ろうとしている姿勢に感銘を覚えました。そこに田辺市らしさを感じますが、私はそのような姿勢を持ったことは正しいことであると思えます。

報告を読み進め、さらに驚きました。「6年生学年PTA行事で丹生ヤマセミの郷（元丹生ノ川小校舎）を訪れる。その際、保護者からこの校舎で授業を行えたらとの提案が出される」、「丹生ノ川集会所にて、区長、はてなシクラブ会長、民生児童委員、PTA、龍神公民館主事、学校とで取組の計画を立てる」、「丹生ノ川地域交流授業を実施する」、「当日の地域の人の送迎は地域の保護者で行った」という一連の記述は、一年目にして早くも研究テーマに迫る実績をあげている様子を感じさせます。今後が実に楽しみです。

21 龍神小学校区

「今年度の全国へき地教育研究大会での発表に際しては、多くの方からご支援をいただき、盛り上がりのある発表会となりました。2限目の公開授業では、『ぼくとわたしの龍人学』と題して、龍神太鼓や地域の祭りの神楽（笛）、群読『かっぱ』（地域の民話が題材）、地域の歴史などを発表しました。龍神太鼓や神楽の笛の演奏、地域の歴史を

地域の方から教えていただきました」、「児童・職員とも取り組む姿勢にはなみなみならぬものがあつた。発表を無事終えた時には、児童ともども職員もやり遂げたあとの充実感でいっぱいになった。同時に今後の活動への大きな弾み（やりがい・意欲）をつけることができた。また、全国へき研で発表するということから、保護者や地域の方から大きな支援を受けることができ、今までにない新たなつながりが生まれたようにも感じた」と、本年度に大きな進展があつたことが報告されています。

この対外的な発表から、「若者が少なくなり、子どもたちの力を借りないと祭りを運営することは難しいという状況が出始めている。そうした地域の現状を克服するために、小学生低学年から地域の伝統芸能にふれ、地域の伝統を学び、地域文化の担い手としての意識を育てることに大きな意義があるように思う」という気づきが起き、「今回、子どもたちが作った篠笛は、地域の方も祭りですべて使っている立派なものである。自分の笛を持つことは、いつでもどこでも練習ができ、神楽（笛）に対する愛着を持つことができた」ことから、「今後も活動を継続し、今まで以上に地域の人とのふれあいを深め、地域と学校が互いにメリットのある内容にしていきたい」と考えています。このように学校が考えて下さっていることは、地域にとって、とてもありがたいことだと思います。

今後の展開については、「小学校高学年になると祭りの担い手として地域の祭礼に参加している」という実態が、「皆瀬神社の祭礼が近づくと子どもたちは、各地域の会館に集まり練習をしている」ということに支えられて成り立っていることを踏まえた上で、「互いにメリットのある活動にしていく」ことを前提に、「地域にとってもうれしいことだと思う」とする「学校と地域が連携して、教育活動の一環として、学校で取り組む」ことを検討すると良いと思います。

22 栗栖川小学校区

栗栖川小学校区では、「学校が学習内容から要望する学習支援者を公民館に伝え、公民館が地域の中で、要望に添った人材をさがし学校に紹介する。授業者は、紹介頂いた学習支援者（AT：エリア・ティーチャー）と授業について、事前に打ち合わせをする」という手順を経て、学社融合の授業が実践されています。公民館は「地域の歩みや文化を子どもたちに伝え、ふるさとを誇りに思う子の育成に努める」というねらいのもと、「学校でのふるさと学習について、学校との共通理解を大切にしつつ、地域の学習支援者の授業支援について、公民館として可能な支援体制をとる」「地域の学習支援者（エリア・ティーチャー）を探し、学校と地域の橋渡し役をする」ことを行っています。

今回報告された「子どもたちの元気、学びの成果を地域へ届ける」という意図も込められた「ふるさとガイドブックを作ろう」（6年国語科）の実践では、『ふるさと学習』の充実に向けて、授業者と地域の学習支援者（AT：エリア・ティーチャー）が授業について事前の打ち合わせを大切にしておこなってきた」とあります。そのため、「授業者が学習の意図、ねらいをより明確にする授業作りに取り組んだ」後に、「学習支援者に授業に入って頂く前に、授業者と学習支援者とが打ち合わせをていねいに実施した」とのことです。その結果、「授業の中での支援者の役割が了解できていて、授業の充実には大きな効果があつた」そうです。

田辺市に学社融合のシステムがしっかりと根付いたことを物語る報告であると思います。

23 二川小学校区

「核家族の増加や情報社会の浸透など社会の急激な変化の中で、生活のゆとりや、人と人との心のつながりが希薄になってきている。私たちの地域でも、過疎化、高齢化、少子化が進んでいる」という現在、「運動会や文化祭が学校と地域、あるいは子どもたちと地域をつなぐ行事であるとともに、地域の方々の交流の場としても大きな意義を持っている」とのことです。つまり、運動会や文化祭が学校教育の範疇を超えた意味を持ち出したということです。二川小学校区では、それに気付いたのです。

だから、「学校の運動会や文化祭は地域ぐるみの取組みとして、地域の各団体の協力を得て毎年行っている。児童数が少ない中で、運動会や文化祭は地域の協力を得て実行委員会形式で行っている（運動会は地区運動会として実施）。文化祭では、地域の方々の作品出品や保護者によるリサイクルバザーも開催」することに意義があると思うのです。

しかし、「児童数の減少や地域の方々の高齢化が進む中で、運動会や文化祭は従来どおりの形での開催が難しくなっている」とのことです。その上「統合」もあるようです。「内容を工夫し精選していくとともに、地域ネットワークの活用をさらに進め、統合後も学社融合の取組を深めたい」という言葉を、祈るような気持ちで見つめました。

24 近野小学校区

近野小学校区でも、「年間を通しての諸行事の中で、保育園、小中学校、公民館、校区の諸団体との連携を図るため、代表者による実行委員会を設置し、諸行事を運営していくことで学社融合の取組みを進めている」と、組織的な推進体制が取られていることが記されています。その推進体制は、「今年度から新たに行事の運営面で中学校との協力・連携のために、担当者会議を設定したが、なお課題が見られたため、来年度からは全職員による合同会議を行うことになった」と、ますます充実されつつあります。田辺市の学社融合が目を見張るような成果をあげているのも、このような組織的な取組みが各地域に根付いてきたからなのだと思います。

しかし、現実には厳しく、「地域のあらゆる教育機能を活用して、事業の効果的な実施に努め」ているものの、「交流・体験学習としての『七夕集会』では、高齢の方々とふれあい、楽しく交流できたが、地域の参加者が数名であり、しかも毎年特定の方だけになりつつある」であったとのこと。でも、嬉しいことに、「大切な行事として今後とも取り組んでいきたい」とおっしゃっています。数名でも積極的にかかわって下さった方がいることを大切にしたいとお考えなのだと思います。頭が下がる思いです。

25 鮎川小学校区

「当地域は田辺市街地および上富田町に勤務する人々が多く在住しており、児童の保護者世帯も共働きで核家族が多い。集合住宅に入居している児童の割合も高く、子育て世代同士が隣近所に集中して暮らす良さがある。その反面、中高年や熟年世代の暮らしとは交流が少なく、近所にすむ大人を知らないと言う児童や、顔は見知っていても挨拶や言葉をおぼろしく習慣がないという児童もいる。町内会としての活動で、年に一回の余暇行事などに参加する世帯はあっても、世代を越えて同じ勤労的な共同作業をするという機会は滅多にないという現状がある」。

このような現状にある鮎川小学校区が取り組む「大塔リフレッシュ大作戦（ATOM学習）」には、地域美化活動としての意義ばかりでなく、いくつもの大きな意義や意味

が込められています。「地域の人々に呼びかけ、計画を立てて、一緒に清掃活動をする
ことによって、みんなで協力する大切さを知る」や「小中一貫教育の主旨を体現し、大
塔地区の1年生から9年生まで全員が集まり交流する場とする」などです。

この活動の実践を経て、今、鮎川小学校区では「保育所・高齢者世帯など災害弱者を
も視野に入れた地域防災の連携を深める取り組みを模索してはどうか」と考えています。
その具体化のために「まずはその中核にこれまで続けてきている小中一貫教育を据え、
中学生が、小学校低学年をフォローしながらの避難訓練などを試行してみることを
検討したい」としています。次年度、この報告を目にすることを楽しみにしています。

26 三川小学校区

「ふるさとを誇りに思い、自慢することのできるよりよい社会を作りだそうとする子
の育成」をめざした「ふるさと学習」が行われています。「自慢することができる」と
書かれていますが、その部分にとっても共感を覚えます。子どもたちがふるさとを自慢で
きてこそ、ふるさとに生きることを肯定できると思うからです。

具体的活動の一つである「匠の森」では、「関東地方の建設業者さんの組合『匠の会』
が田辺市の業者さんとともに、日本の木材のよさを広めることを目的に取り組んでいる
活動に全校児童で参加。保平地区の山林にて下草刈りを実施」しています。この体験を
経て、子どもたちは他に誇れる木材を生み出すふるさとの山々の価値を知り、自慢に
思うようになったのではないのでしょうか。

三川小学校区は「児童数の減少、保護者数の減少」という厳しい環境に置かれていま
すが、だからこそ「子どもたちが地域に目を向けたり、地域の良さを感じたりする機会
となる『ふるさと学習』、そして「高齢者や地域の方にとって、子どもたちと交流する
大切な場となっている、そして高齢者や地域の方の喜びや活力につながっている『ふる
さと学習』をやっつけていかなくてはならないのだろうと思います。

27 宮里小学校区

「地域住民とふれあう機会の多い本校の運動会やふるさと富里まつりなどで、児童は
地域をより身近に知ることができている」「ふるさと富里まつりなどに参加したり作品
を出品したりすることで、ふるさとを支える一員としての自覚が育ってきている」とい
った数々の成果をあげている実践に対し、宮里小学校区では、「交流にあたり、児童の
発達段階に合わせた適切な敬語やマナーを習得させるようにする」「単なる交流ではな
く、交流後の児童の気づきや次への課題を大切にする」「地域を大切にする気持ちは育
ってきたが、主体的に関わっていこうとする子はまだ少ない」と厳しい評価をしていま
す。

充実した実践にも関わらず、このように厳しい評価を下しているのは、「ふるさとを
愛し、伝統や行事に進んで関わり、今後、10年後、20年後の富里を支えていく担い
手を育てていきたい」（学校）「より多くの地域住民の方々に学校へ関わっていただくこ
とにより、児童が地域を身近に感じ、社会性を育み、自分も地域の中の一員であるとい
う意識をさらにたかめたい」「将来の地域を担う子どもたちや学校と地域住民が今後さ
らなる交流を図ることで、地域の強いきずなを形成し、地域力を高めていきたい」（公
民館・地域）と、学社融合に大きな期待を抱いているからに他ならないと思います。

これらの思いが引き継がれ、実践が継続されるならば、やがてこれらの思いは実現さ

れていこうと思います。

28 本宮小学校区

報告を読み、「学校だけでなく家庭・地域社会の中で、将来地域社会の一員として貢献できる子どもを育てていく」ことを目標に、「本年度、本宮町全体で学社融合の取組をさらに推進させるために、『音無の里地域共育コミュニティ本部事業』が展開されることとなった。本宮小学校では、この組織を活用し、さらに充実させる取組を考えた。そこで、学習パートナーに支援頂くための教科・領域として国語科・総合的な学習の時間・家庭科を中心に据えることとした」という記述に、かつて学社融合の研究、実践に取り組んだ地域だけのことはあると、その実力を感じました。

そして、「第一に子どもたちの躰きに寄り添い、アドバイス（支援）いただくことで、子どもたちが意欲的に主体的に学習に取り組むことができることをねらいとしている。また、多くの方による交流によってコミュニケーション能力を養いたいと考えている」という学社融合の授業を毎月2～3回の割合で実践しています。ねらいも明確な日常化された授業実践に感服しましたが、授業実践に意欲的に取り組める理由は、先生方や地域の皆さんが、学校と地域が協働することで「地域の方が学校に来て下さることで規範意識が高まり、挨拶や会話の力が向上してきている」ことや、「学習パートナーが授業に入って下さることで授業の中身が深まった」ことを実感しているからだと思います。

報告に、「地域に住む、各サークルの方々も積極的に授業支援に参加して頂いたりしていることから、地域ぐるみで子どもを育てようとする意識が高い」とありますが、地域ぐるみで子どもを育てようという意識は授業支援への参加によって高められてきたものでもあります。このように学校と地域・公民館が相乗的に高め合ってきた本宮小学校区は、「外部団体からの授業への参加依頼があるなど、地域の方の学校教育への関心が高まりつつある」という現状にあります。本宮小学校区の実践は、田辺市で未だ例を見ない学社融合の新たな展開へと足を踏み入れているのです。

29 三里小学校区

「地域の方々に対して、学校の教育活動を発信できる絶好の機会となった」「三里祭りを通じて子どもたちや地域の人たちが、喜んでくれるのがうれしい」「多くの地域の方がこれだけ集まる機会がないので、公民館の取組みが発信できる場になって良かった」と記された「三里祭り」の実践報告です。その記述に、三里小学校区の苦悩を感じずにはいられませんでした。

三里小学校区は今年度、「三里中学校が閉校になり、本宮小学校、本宮中学校など本宮町内全域との交流を深めるため、今年度から本宮地域の共育コミュニティ事業に参画し、コーディネーターからアドバイスをもらい、活動に取り組んでいる」という変化に身を置くことになりました。このことは実に大きな変化であり、大きな課題を抱えたことになると思うのです。その課題とは、形式的コミュニティと生活的コミュニティの二重構造を持ったということです。

だからこそ、学校は「地域に生きる学校として、地域を活かした学びを深める」「学校を中核とした、社会教育団体との融合を模索する」「共育コミュニティ事業に積極的に取り組み、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実を目指す」という目標を掲げ、また公民館・地域も「公民館事業と学校の授業が一体となった学社融合に取り組

む」「地域の人材確保とその知識・技能を活かしたボランティア活動を推進し、参加した地域住民の教育力、学習意欲を高める」ことをねらいとしているのだと考えます。

新たな局面を迎えた三里小学校区ですが、学校や公民館が上記のねらいの達成を目指す限り、三里コミュニティを維持、発展できると思います。

30 東陽中学校区

「本年度は地域連携部から学社融合部と改名し、様々な取り組みを行った」とする東陽中学校区では、その一つとして「地域の高齢者の方々を対象とした職員、コンピュータ部員による『パソコン教室』を初級、中級、上級に分けて3日間実施」している。この活動は、公民館と本校のコンピュータ部が連携して、地域の高齢者の方を対象にパソコン教室を開催した」もので、「パソコンの学習を通して地域の方々と中学生の交流ができた」と報告されています。中学生の教育力を地域住民の学習に役立てるもので、田辺市の中では珍しい実践となっています。「生徒は地域の高齢者の方々にパソコンの学習を支援するという立場に立ち、どのように支援すれば良いのか試行錯誤を繰り返しながら真剣に」取り組んだとのことで、「温かく触れ合う優しい心が育まれたことが大きな成果であった」と報告されています。中学校で行う福祉学習に新たな方向を示唆する貴重な実践であると考えます。

東陽中学校区の特徴あるもう一つの実践が、小中交流です。「11月14日(水)小中育友会主催の教育講演会 育友会文化部主催の教育講演会に俳優の小西博之様をお招きし、田辺第二小学校全校児童、本校全校生徒、保護者・地域の方々を対象に『生きている喜び』と題し、講演を実施した。11月27日(火)中学校授業体験入学。田辺第二小学校6年生を対象に、中学校とはどのようなところかを体験してもらうために、中学校体験入学を実施した。本年度で3年目となり、理科、社会、美術の授業とクラブ見学を中心に行った。2月に予定。田辺第二小学校出前授業。田辺第二小学校の6年生を対象に本校の英語教諭が小学校に出向き、授業を実施」と、活発に小中交流事業を推進しています。いわゆる中1ギャップを起こさせないようにと配慮されている様子が手に取るように分かります。

31 明洋中学校区

「学社融合においては、明融会(学社融合推進のための3公民館と明洋中学校学社融合担当との会議)を母体に、本年度は、“防災でつながろう”をスローガン」に取り組みを進め、「地域での防災訓練に、1～2年生が参加」し、「保育所の子どもの手を取っての訓練が実施できた」とのことです。

明洋中学校区では、このことだけではなく、地域行事への参加が積極的、かつ活発に行われています。「しおさい祭り(4/28・11/3)」「天神児童館祭り(11/3)」「ふたばミニ秋祭り(11/10)」「芳養敬老会(9/16)」「西部地区花植えボランティア(11/1)」「芳養地区シンポジウム(8/29)」「西部地区シンポジウム(8/30)」「田一小校内音楽会(11/21)」などに参加しています。「西部・芳養各地区シンポジウムで、全校生徒にアンケートを採って集約した内容を、代表者が発表」することが行われています。そのことは「初めての試みではあったが、地域との融合の手立ての一つとして捉えた」と記されています。

明洋中学校区が進めるこれら中学生の地域活動への参加は、「生徒が様々な機会を捉

えて、地域の人々とコミュニケーションをとっていく力を養えた。また、地域の人々に生徒を理解していただく一助となった」だけではなく、中学生たちを地域人化していくことでもあったと思います。中学生に自分も地域に生きる存在として自覚させ、責任と役割分担を意識させる活動となったと思います。

32 高雄中学校区

高雄中学校では、「全体の地域担当主任を配置し、各校区協議会・公民館ごとに担当者を配置し、公民館主事等との連携を図るための組織を構築している」と、学社融合の校内の推進体制をととても充実させています。

今回報告された実践は「高齢者との避難訓練」です。添付された写真には、高齢者の腕を抱え、あるいは手を引いて坂道を登る中学生たちが写っています。誰もが真剣な表情で、中学生たちは訓練の最中にずっと、いざという時に高齢者の方々が避難する困難さを思い浮かべていたに違いないと思います。訓練を経て中学生たちは「手すりがあった方がいいとか、ロープを使うなど、いろいろな課題を自ら見つけることができた」とのことです。実際に共に行動したからこそその発見だったと思います。

今回の活動からは、「地域住民と一緒に訓練することで顔、名前、地理等を覚えることができた」ことや、「中学生は守られる立場ではなく、守る立場であることを自覚する」ことができたという成果を手にできたそうです。高雄中学校区が掲げる「生徒は地域の一人として意義や自覚を深め、地域社会に貢献する意欲や態度を身に着け高めていく」という目標を十分に達成できた活動となったと思います。

33 新庄中学校区

「今年12年目を迎えた3年生の『新庄地震学』の取り組みでは、本年度9教科10テーマを設けて学習しました。地域の地震・津波の経験者から教訓を学んだり、阪神淡路大震災や東日本大震災から学んだことを地域に発信したり、地域の防災意識を高める取り組みをしています」とのことですが、報告に「生徒の防災意識の向上や、公民館の協力を得ながら、近隣の幼稚園、小学校、敬老会に発信することにより、地域に一定の貢献ができていると考える。また、マスコミに取り上げられることも多く、関係機関からも注目され評価を得ている」とありますから、地域の防災意識の高揚にも大きく貢献していると思われれます。

今回は、これ以外に、「主に『地域の伝統文化』『福祉活動』『環境整備』を通した取り組み」である「地域学習」が報告されています。昨年は新庄中学校の校歌にも歌われている国指定の特別天然記念物「神島」を現地調査し。今年は国指定天然記念物「鳥の巣半島の泥岩岩脈」や県指定天然記念物「奥山の甌穴」の現地調査を行ったそうです。また、田辺市無形文化財の「新庄杜氏唄」を保存会の方々から詳しく教えていただくことも行っています。

さらには、「地域のお年寄りとのふれ合い」を計画したり、写生会で地元の絵画教室の先生を招いたり、体育の授業で地元のグランドゴルフ愛好会の方々と交流するなど、地域の自然や歴史を調べる地域学習、地域のゲストティーチャーをお招きしての授業、地域住民対象の教育講演会などを展開しており、新庄中学校区において学社融合活動が活発に行われていることが分かります。

34 上芳養中学校区

「昨年度と同様に、上芳養地域にある保育所・小学校・中学校・公民館・第二のぞみ園との地域連絡協議会をもち、各機関の年間行事の確認や、今年度の連携に向けた話し合いをおこなった」と、上芳養中学校区でも学社融合を組織的に進めていることが記されています。

「参観日以外の学校開放週間・体育大会・文化発表会などのときには保護者だけでなく地域の方々も来校し、学校の様子を見てもらっている」という上芳養中学校区では、「地域の読み聞かせサークルであるころころ山の方々に、ゲストティーチャーとして毎月集会に来ていただくことにより、本に親しみを持ち、読書することを通じて、思考力・表現力を育成する」取り組みが行われています。「この活動は昨年度から開始された。今年度も年度当初にころころ山サークルさんと国語科担当教員で打ち合わせを行い、取り組みを継続していくことと日程を調整した。そして月1回の本の読み聞かせ・ブックトークを行うこと、ころころ山文庫(ブックトークで紹介された本の貸し出し)の設置、夏休み中の学校図書館の本の分類・整理を行うことが決定した」そうですから、かなり計画的、意図的に実践されていると思われます。

田辺市の学社融合が、地域住民の手によって主体的に担われ出していることを、この実践からも感じました。

35 中芳養中学校区

「本年度は、中芳養地域連絡会の開催(月1回)や三校一園交流会への公民館主事の参加などにより、中芳養地域の幼・小・中・公民館の連携・協力の推進を目指した」とあり、中芳養中学校でも組織的に学社融合が推進されていることが確認できました。

中芳養中学校区では、「梅勤労体験」「中芳養夏祭り」「芳寿会との交流」「芳養の里交流」など、地域との交流を通して、「豊かな心」や「生きる力」の育成を目指した活動が行われていますが、注目すべき点は「地域に学び、地域に返す」という考え方です。

「保護者や地域、関係団体の方々には学校の取組に対して協力的で、異世代との交流や地域の自然や文化、芸術との触れ合いの機会をより多く設けることができている」というように地域に学ぶ活動が行われる一方で、「子どもたちの交流と伝統文化の継承を目的に開催される『中芳養夏祭り』で、中学2年生とPTA役員が夜店を担当し、祭りの盛大な開催に協力した」や、「地域での体験学習・交流学习について学んだことを、本校文化祭『中芳養祭』で発表。全戸配布による学校だよりやポスターにより広報し、地域の多くの方に参加していただいた。また、午後は『交流タイム』として、総合学習で学んだお茶のおもてなしや、体験ブースを開き、地域の方々との交流を深めた」というように、地域の活動の中で中学生を意図的に活躍させています。

他地域よりも学社融合がはるかに進んできた現在、田辺市が目指す今後の方向の一つに、「地域に学び、地域に返す」ことがあるように思います。

36 上秋津中学校区

「地域に返す」活動は、上秋津中学校区でもすでに始まっています。

「4月からの学習の成果を発表する場としての文化祭であるが、保護者のみならず地域の方々に来校していただき、地域との関わりを深め、上秋津中学校を今以上に知ってもらう機会とする。特に、今年度は、公民館教室・サークルの方々の作品を展示させて

頂き、地域の文化祭としての色合いをプラスする」と、学校の行事を地域の学びの成果を発表する場としています。

また、3年生は、「中学三年間の『ジュニアあきつの塾』の地域学習を、PR冊子に仕立て、修学旅行で配布、テナントショップ『喜集館』にも陳列する。さらに、英語版も作成し外国人が訪れる観光地や施設に配布した」とのことです。

さらには、「地域唯一の高齢者施設でのクリーンボランティアや交流を通して中学生としてできる地域貢献」もしています。

いずれも田辺市に活気あふれる明るい未来をもたらす実践のように思えます。

37 秋津川中学校区

「秋津川ふるさとまつり」に際し、秋津川中学校は、「ふるさとまつり当日の1、2限は公開授業（地域の方々に自由に授業を参観してもらおう）、3、4限はふるさとまつりに参加。炭琴演奏（演奏曲目「トルコ行進曲」「ジュピター）」・南中ソーランを披露、5限も公開授業」と、実に前向きに対応しています。しかし、「ふるさとまつりへは多くの来訪者があったにもかかわらず、授業参観をしてくださる方が少なかった」そうです。「授業参観をしてくださった方からは『少人数の授業がとても良かったです。』『先生が丁寧に指導している。』等、少人数故、一人ひとりに目の行き届いた授業の良さを褒めていただいた」とありますから、是非とも地域の皆様に見て頂きたかったと思います。この報告に接し、地域住民に対する学社融合の啓発がまだ不十分であると感じました。そして、今後、公民館が学校の授業の参観、参加、参画をさらに積極的に呼びかけていく必要性を感じました。

学校は「残念だった」という気持ちを抱きながらも、「生徒達は、今は、地域の方々から与えられた受身の参加意識しか持っていないように思われる。今後は、企画のマンネリ化を避ける意味からも、生徒達から主体的にこのまつりを盛り上げようとする機会が設けられないものかと思う。それを考えさせることは、生徒達に秋津川地域の将来を考えさせることにつながり、郷土を思う気持ちをより一層強くすることにつながるように思う」と、子どもたちのことを考えています。この学校の気持ちを思えば、学校が考える今後の課題解決のために協働してくれる地域住民を探していかなければならないと思うのです。

38 衣笠中学校区

「本校では、学校が抱える教育課題を積極的に家庭・地域に訴えることにより、課題を共有化し、学校と地域が共に子育てに関わっていこうとする地盤が確立されている」と記す衣笠中学校の学校経営方針には頭が下がります。地盤を作ってきたのは、「学校が抱える教育課題を積極的に家庭・地域に訴える」という学校の姿勢であったと思います。

また、衣笠中学校では、「さらに取組を深化させるために、生徒と関わってくれる多くの人たちとの交流が一時的なものにならないように取組を系統立てたものになっている」とのことです。ここにも見習わなくてはならない点があると思います。

そんな衣笠中学校区では、「地域を知って、地域の良さを発信する活動」が行われています。「地域の素材を使用した作品 … 地元企業、地域住民から提供された梅枝・種、備長炭を使っでの制作。『梅・地域の良さアピールポスター』（1年）、『田辺のスペシャ

ル工芸品』(2年)、『梅キャラクター』(3年)」を製作し、それらを、「学習したことを情報発信していくという意味で、JR田辺駅前南紀田辺観光センター・公民館での地域を誇る生徒作品展を開催した。本年度はさらに発展させ、修学旅行でのふるさとPR活動の取組を子どもたちと共に企画、実施した」と記されています。衣笠中学校区でも、「地域に返す」活動がすでに行われているのです。

39 長野中学校区

「熊野古道案内板作り(地域学習)」に取り組んだ実践報告です。

その実践は、まず「熊野古道(長尾区)に係わる地域学習会から始められました。地域の歴史に詳しい方々に来ていただき、地図を見ながら熊野古道の場所やそれに係わる名所旧跡について詳しく教えていただきました」。その後、「熊野古道を歩く人にとって分かりやすい案内板にするためにはどのようにすればよいか話し合い、アドバイスをいただく」ことが行われました。7月下旬に「アドバイスを参考に原案を作成。地域の方々にチェックをしていただく」ことを行い、8月～9月に「クラブ練習の後や、昼休み、放課後等も使って作製」しました。そして、10月、案内板は設置されました。

子どもたちは地域の方から熊野古道の講話を聞いた後に「私は今まで15年間この地域に住んでいますが、改めて地域の方から話を聞くと、知らないことばかりで大変勉強になりました」という感想を残していますが、聞くだけにとどめず、案内板製作という手法を取ったことは感想を述べた子に熊野古道への想いを高めさせることになったと思います。中学生たちは案内板設置後、「案内板を作らせてもらえたとき、地域の役に立ててうれしかったです」と言っています。この想いを持たせたのは、案内板設置という具体的な活動であったからだと考えます。

報告で「地域の方々と協力してふれあいながら活動を行うということは、中学生に地域への帰属感をいだかせるうえで大変有意義な取り組みであるとともに、地域の文化を継承し心豊かな人間の育成にも大変有意義である」と述べています。

この長野中学校区の報告を踏まえると、子どもたちに地域に対する真の理解を図るためには、活動をより具体化することを忘れてはならないと考えます。

40 龍神中学校区

龍神中学校区では、「地域の人と接することで、地域を知り、地域に学ぶという『ふるさと学習』を基本として、『自然・環境』『歴史・文化』『産業』『福祉』の4つの分野において、それぞれの発達段階に応じて特色ある実践活動を展開している。具体的な取り組みは ①「学校だより(夢抱き)」の校区全戸(約1700戸)への配布 ②体育大会、文化祭等の学校行事への参加の推進 ③ボランティア活動の推進 ④地域行事への中学生の積極的な参加 ⑤職業体験活動の実施 ⑥外部講師(ゲストティーチャー)の活用等を行っている」と記しています。

記述された数々の実践の中で、学校外で活動するものに着目すると、「地域清掃ボランティア活動」「小学校運動会への参加(全校 出身小学校へ)」「荒島神社、皆瀬神社 祭礼。丹生神社祭礼」「3年 保育実習(柳瀬保育園)」「村民文化祭 美術作品展(全校)」「村民文化祭 舞台発表 3年混声二部合唱」「校区内の高齢者(65歳以上一人暮らし)の方にお手紙を書く。(田辺市社会福祉協議会、龍神行政局)」「虎ヶ峰清掃作業(全校)」「宮代文化祭 美術作品展」「1年 林業体験学習(龍神森林組合)」「学校だ

より『夢抱き』の手渡し配布活動」と実に数多くの活動が学校の外で行われていることが分かります。

これは、龍神中学校区が「地域社会の中で、子どもたちの豊かな人間性、社会性を養う」ことを目標としているからです。このような目標を掲げれば、学校の外に出て学習することが当然必要となるのです。

龍神中学校区でも「地域に生活する中学生づくり」が進められていると感じました。

41 中辺路中学校区

中辺路中学校区でも、地域に生活する中学生の育成が行われています。

まず、目標に「学校教育活動全体にわたって地域との連携をはかり、開かれた学校として、ともに地域の未来を担う生徒を育成する」と書かれています。そして「地域の諸団体（老人会・女性会など）との交流を通し、地域の一員としての自覚を高め、地域を見なおす態度を育成する」「地域の自然（熊野の森）に対する理解を深め、熊野の森の再生活動や中辺路花いっぱい運動を推進することを通し、地域に貢献する態度を育成する」としています。

今回は、「中辺路を花いっぱいにしよう」という合言葉で全校生徒で花作りに取り組んだことを報告していますが、その活動は「生徒が中心となり、花作りボランティアの方々と一緒に、春と秋に種を蒔き、毎日の水やりを欠かさず苗を育てた。苗は、公民館・地域の各団体に配布した」と簡単に記されていますが、その活動は年間を通して、①水やり作業、②苗植え作業、③植え替え（移動）作業、④プランターの移動作業、⑤肥料やり作業、⑥種まき作業、⑦ポット植え替え作業、⑧日よけ幕張り作業、⑨花摘み作業、⑩ネット張り作業、⑪球根収穫作業、⑫ポット・プランター整理作業などを行うもので、中学生にとって決して容易ではない活動です。「地域の方々に喜んでもらい、お褒めの言葉をかけてもらうことで、達成感や地域に貢献することの喜びを感じる」そうですが、地域に生活する厳しさを中学生に教えるとても素晴らしい実践ともなっているように思います。地域に生きることができる子どもを育てるためには、このような実践も必要なのではないでしょうか。

42 近野中学校区

「箱苗作り」、「もみまき体験や田植え、稲刈り、脱穀機を使った脱穀などを行った稲作体験」、「活け花体験教室」、「保護者・地域の方7名も参加した熊野古道を歩く親子遠足」、「夏休み中に2年生が行った地域の事業所で職場体験学習」などです。

これらの多彩な活動を通じ、「地域のたくさんの方々に指導していただき、お互いに交流を深める」中で、中学生たちは「地域が抱える問題に気づくとともに、活性化のために自分たちも関わられることを学ぶことが出来た」ということです。

その結果、「勤労意識が高まり、清掃活動や生産活動に黙々と取り組む姿が感じられる」や、「地域イベントに進んで参加する生徒が増えてきた」といった変化がみられるようになったということです。

一方、地域側にも「校内整備作業には保護者の方の他、地域の方も参加してくれた」や、「夏休み中の校内整備作業や10月の臨時整備作業には保護者の他、地域の方・公民館主事も参加してくれた」などの変化が見られたとのこと。

43 大塔中学校区

報告に、「1年生において、大塔地区3小学校と協力して、地域の方をゲストティーチャーとして招いて授業をおこなう選択交流学习を行っている。全10コースのうち『郷土の食』、『囲碁』、『大塔探訪』、『生け花』、『昔の遊び』、『茶道』の6つのコースにゲストティーチャーに入っただいて交流を深めている」と記されています。

また、「日本の文化にふれよう」と題した実践では、「地域の3小学校1中学校の5・6・7年生（中学1年生）を対象に実施し、異なる学校、異なる学年を縦割りにして、地域の方をゲストティーチャーに招いて、学習することで地域の方と交流するとともに日本の文化に触れる」ことが行われています。内容は「下の10コースの中から1つを選択して、年2回学習する。①郷土の食、②囲碁、③大塔探訪、④生け花、⑥茶道、⑦体育1バスケットボール、⑧体育2ソフトテニス、⑨体育3卓球を楽しむ、⑩音楽」というものです。

いずれもダイナミックな実践で、大塔中学校区の取り組みには先進性を感じずにはいられません。

44 本宮中学校区

「学校教育のさまざまな場面で、地域と連携することにより、地域と共に歩む開かれた学校づくり」を目的とし、『音無の里地域共育コミュニティ』を中心として様々な活動に取り組んでいる。子どもたちが地域の多くの方々と交流し、多様な体験や経験を積み重ねることで、規範意識やコミュニケーション能力、ひいては確かな学力の向上を図ると共に、地域の活性化にも貢献できるよう、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実を目指している」という本宮中学校区の取り組みは、地域に生きる中学生を育てる活動でもあります。そのことは、以下に記す「こだま祭」と「秘湯マラソン」における中学生の活躍からよく分かります。

「こだま祭」で撒く餅づくりは、12月6日に餅米研ぎを地域の方から洗い方を教えて頂きながら行い、翌7日に地域の方と一緒に、餅米を蒸す、つく、丸める作業を、生徒が分担して行いました。薪の火の調節の仕方、蒸し上がりの状態を確認するなど、地域の方に教えて頂きながら生徒も作業をしています。餅を丸める作業では、地域のベテランの方が、餅をとってくれ、生徒が丸めます。多くの地域の方がそれぞれの行程に入ってくれたので、200kgという大量の餅を3時間程でつくることができたそうです。8日には作った餅を1つずつ袋に詰める作業を、保護者や地域の方も参加してくれる中で行いました。

12月9日の「秘湯めぐり駅伝大会」にはクラブ毎にチームをつくり、選手としても参加しました。また、スタートのピストルやゴールテープなどの係も担当しました。一方、同時開催の「こだま祭り」では、ステージで行われるイベントの司会を生徒が行いました。また、生徒はコダマレンジャーのキャラクターに扮し、飴配りをするも行いました。

この記述からは、地域に密着して生活する本宮中学校の生徒の様子が手に取るように分かりますが、中学生たちは、「餅米を洗うのは冷たかったけど、明日もがんばります」という感想を述べています。また、参加された地域の方からは「子ども達と活動できて元気が出た」「子ども達の豊かな発想力が新鮮だった」などの声が寄せられています。

報告では、これらの活動を「地域の方と一緒に作業を進める中で、子ども達は多くの大人と関わりを持つことができ、地域の一員としての自覚を促すことができた。また、地域へ貢献することの達成感を得ることができた」と評しています。

45 新庄幼稚園区

新庄幼稚園では、「少しでも多くの地域力を幼稚園に取り込み、『社会全体で子どもを育てていく』という機運を高めていきたい」と考え、『共にふれあい、学びあうー異年齢の人とのかかわりを通してー』というテーマのもと、「新庄地域では公民館事業（生涯学習活動）が盛んなので」、「公民館活動と幼稚園教育を上手く組み合わせながら、地域と園児や保護者がお互いにかかわり、学び、育ち合える取組」を進めています。

その一つが、「月1回実施している公民館コーラスサークル『ハミングび〜ず』との交流」です。それは「サークルメンバーが日常行っている活動発表の場や機会の提供の一環として、園児達と一緒に音楽活動を行ったり、ミニコンサートを開く」活動で、「わらべ歌遊び・リズム打ち・手作り楽器・合奏など音楽に焦点をあて」、「園児達に多少なりともレベルの高い内容を、お互いに楽しみながらきめ細かく指導することで園児に音楽に触れてもらう」ことを目的に行っています。その結果、「サークルの先生が活動に入ってくれることで、子ども達の体験の幅が広がり、表現する力の高まりや友だち関係の深まりなど子ども達の力につながっていった」「サークルの先生に認められたり、楽しさを共感してもらったりすることで、自分の思いを体や言葉、演奏などで表現する楽しさを感じ、表現方法の幅が広がってきた」とのことですが、同時に「サークルメンバーの生き生きとした表情からは、子どもたちとの触れ合いを楽しんでいる様子がうかがえる」そうです。このような成果を得られたのは、「サークルの先生が一人ひとりの子どもの思いを受け止めたり、楽しい思いを共感したり、意見を言うなどして新しい刺激を与えてくれたりしたことが要因だと思われる」としています。

報告に、「クリスマスコンサートなど節目の行事ではサークルメンバーの趣向を凝らした演目が披露され、保護者や地域の方々にも楽しんでもらっている。またそのことに手ごたえを感じている」とありますが、この一文からは、幼稚園児との交流に対し公民館サークル「ハミングび〜ず」が主体的に取り組んでいることが伺い知れます。「昨年度12月に公民館コーラスサークル『ハミングび〜ず』の先生が園で、ミニコンサートを開いて、クリスマスソングを聞かせてくださる。また一緒に歌ったり、楽器のリズム打ちをしたりして楽しむ。子ども達も大変喜んだので、平成24年度は定期的に『ハミングび〜ず』の先生と園児との交流がもてないかを公民館主事、『ハミングび〜ず』の先生、幼稚園職員と話し合い、計画する」ことから始まった活動ですが、公民館サークル「ハミングび〜ず」は、公民館や幼稚園からの声掛けを“頼まれ事”としてではなく、“自分たちの力を活かすための活動”ととらえたのではないのでしょうか。

この実践にも、田辺市民の間に学社融合の主体としての意識が広がりつつあることを感じました。

46 三栖幼稚園区

「三栖幼稚園は、衣笠中学校と隣接しているという立地条件を生かし、日々授業や昼休みを活用し、園児と中学生とが交流する機会を多く持っています。このような交流を通して、幼稚園・中学校の子ども達の情緒の安定、内面的な育ちにより影響を与える

いうことを実感し、取組を進めてきている」と記されていますが、そのような成果をあげた実践の一つが、「ドットアート『世界に一つだけの花づくり』～中学校美術科授業と幼稚園保育のコラボレーション」です。

その活動は、「秋のにこにこまつりに向けて、中学生と一緒に作れる作品はないか?・・・中学校に相談」「美術の授業で『ドットアート』を一緒にしませんかと提案してくれる」「幼稚園・中学校美術科教諭と一緒に何らか教材研究を行う」ことを経て、6月15日にドットアートの授業が幼稚園で行われています。この活動は「新たに何かをするのではなく、今まで中学生が学校でしていた授業を幼稚園児も一緒に参加させてもらうという形」で行われています。「こうすることによって、今、授業時間の確保などが交流の課題となっている中、お互いに無理なく交流の時間を確保することができた」とのことです。

また、報告には「職員同士が親しくなった事で、美術以外にも技術・家庭科、体育、国語へと広がりを見せ、授業と保育のコラボレーションが次々と実現」「日常的に中学生と園児がかかわれるようにと、中学校のお昼休みを利用し、触れ合う機会（よろしくパレード・にこにこまつり・中学校へおさんぽ・季節のお花見）がもてるようにと工夫」「日常的なかかわりを通し、園児と中学生が親しくなることで、内面的な育ちだけではなく、幼稚園の“安心・安全”にもつながってきています。例えば、合同避難訓練では中学生が迎えにきてくれることに抵抗なく身を任せる姿が見られてきました。“親しい人が見守ってくれている安心感”や“いつも気にかけてくれている心強さ”を実感」と記されており、今後の田辺市の学社融合、教育活動の推進ばかりではなく、教育環境の整備にまでも大きな示唆を与える実践となっています。

47 上秋津幼稚園区

『「地域とかわった!」絵本タイムからの発展』の実践報告ですが、田辺市の学社融合の充実した進展ぶりを最も顕著に表している報告だと思えます。

報告に「地域の方々の言葉が変わってきた～この地域の子も達をこの地域の大人たちが守って育てていきたいものだ」「公民館の炭琴サークルが、『いのちのうた』を演奏しに来てくれた。最後には、子どもも保護者も、手話つきの大合唱になった」「保護者がペンキ塗りや芝生張り、菜園の草抜きなどを申し出てくれる」「保護者会の協力で、オリジナルの絵本棚が出来上がった」「『幼稚園の菜園を手伝ってあげよう』と優しく植え方の指導までしてくれた」「地域の方々に『地域の子もも親も大切にしたい』という思いが感じられる。若い保護者に対して、挨拶したり話しかけたりして見守りたいという温かい提案もあった」「小学校との話し合いにおいて、『絵本』を話し合いのテーマとして提案してみたところ『絵本』『読書』という視点が切り込み口になると発達の違いによる絵本の扱い方や教育観、幼稚園で育てているもの、小学校へつなぐもの、小学校が大切にしている教育観といったことが具体的になり、話し合いの内容が深まって、幼稚園にとっては、意義あるものとなった」と、子どもや保護者、地域住民、そして幼稚園自体の変化の数々が記されています。

これらの変化について、「一つの活動が連鎖して地域社会に広がっていく」と記していますが、その始まりは「ゲストティーチャーとしてではなく『日常の保育の場に地域の方々に入ってもらう』』ことにあったとのことです。「日常の保育の場に地域の方々に入ってもらう」という発想が、上秋津幼稚園区に、新たな教育、新たな子育てを生み出

しつ々あるのです。

48 中芳養幼稚園区

中芳養幼稚園区では、「芳寿会・公民館・幼稚園連携会議（参加者：芳寿会会長・園長・公民館主事）組織化に向けて平成23年度の交流活動の反省と、24年度の交流の展望を話し合い年間交流計画を立てる」と、組織的、計画的に学社融合を推進しています。

今回の報告では「七夕飾りを一緒に作ろう（年長児が先生になって）」「中芳養夏まつりに踊る盆踊りを教えていただく。（園児と保護者）」「中芳養地区敬老会に出演し、歌や梅たる太鼓を披露する。」「作品展や園児が縦割りグループで作った遊びに招待する。園児の絵画・自然物を生かした造形作品・花アレンジなどの園児の作品や、園児が作った「なかよしどうぶつえん」「にんじゃやしき」を一緒に楽しんでいただく」などといった高齢者との交流事業を取り上げています。

報告の中で注目したことは、交流活動を継続、発展するための中芳養幼稚園側の数々の配慮でした。それは「年度始めに、顔合わせや互いが顔見知りになっておくことが、交流活動をより円滑に進めるための大切なステップになると感じた」「今年度も交流の事前事後の打ち合わせや連絡の際に、子ども達からのアプローチ（手紙や写真・寄せ書き）や、子ども達が自分の言葉で気持ちを伝えることに重点を置いかかわりや関係づくりを進めている」というものです。「このことによって、園と芳寿会の方だけでなく、子ども達と芳寿会の方、また、地域で出会った芳寿会の方から保護者が声をかけていただく交流も生まれる等、厚みのある関係づくり・交流が展開できている。それに伴い、事前と事後にもかかわりや交流がつながり、余韻の残る長いスパンでの交流になってきていると思われる」とのことです。

今年度の取り組みについて、「24年3学期には、幼稚園側が予想していなかった芳寿会側からの主体的なアプローチが続いた。園にとってはとても嬉しいサプライズ。これは毎年より更なる心の通う交流を積み重ね、幼稚園と芳寿会・芳寿会の方と子ども達の絆が生まれた交流の成果だと確信している」と評していますが、中芳養幼稚園が目標とする「応答性のあるかかわり・つながり・関係」が幼稚園と芳寿会との間に成り立っていると感じました。

III おわりに

「田辺市の学社融合を最も熟知している存在」と自画自賛してきましたが、実践に触れる機会を持たずにいたこの二年の間に、田辺市の学社融合は目を見張るような進展を見せてしまっていました。先に記した自画自賛を撤回しなくてはならなくなっていました。

さて、今年度の報告からは、いずれの幼・小・中学校区においても教育環境の変化に即応した対応が進められていることが読み取れました。その対応は、小・中学校や幼稚園、公民館が積極的に地域に働きかけ、地域住民が子どもの教育に主体的に取り組むことを促したことによって、より即応性が増して来ています。これは、明らかに、幼稚園や学校の活動・授業を学社融合の場とする田辺市の考え方と、その実践がもたらした成果であると思います。田辺市には、これからも、授業で子どもを育て、授業で地域を創る学社融合を進めていってほしいと願っています。

なお、4つの幼稚園の実践は、田辺市における学社融合の進展を特に象徴するもので

した。学ぶべきところの多い実践報告で、幼稚園を訪問し、先生方と心行くまで語り合
ってみたい気持ちでいます。教育の原点、出発点でもある幼児教育の変化が、田辺市の
今後の教育を大きく変化させていくのではないのでしょうか。 (2013.03.10)